【決議事項】

1. 2025 年度に係る財務諸表等（以下の報告書類）

   1-1.　同　事業報告

   1-2.　同　財務諸表等

   1-3.　同　監査報告書

2. 新名誉会員の推薦

3. 一部役員の任期満了による新役員の選任

【報告事項】

1. 2026 年度に係る計画等

   1-1.　同　事業計画書

   1-2.　同　収支予算書

2. 会費滞納会員の取り扱い

2026 年 6 月 15 日

一般社団法人　情報処理学会

https://www.ipsj.or.jp/

目　　次

【決議事項】

１．2025 年度に係る財務諸表等（以下の報告書類）

1-1.　同　事業報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1-2.　同　財務諸表等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

1-3.　同　監査報告書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

２．新名誉会員の推薦 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

３．一部役員の任期満了による新役員の選任 ・・・・・・・・・・・・・ 65

【報告事項】

１．2026 年度に係る計画等

1-1.　同　事業計画書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

1-2.　同　収支予算書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84

２．会費滞納会員の取り扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87

［第１号議案］

1-1. 2025 年度事業報告

１．概況：重点活動

２．会員の異動状況

３．会議等に関する事項（総会，理事会，各種委員会）

４．実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

５．実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）

６．実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

７．実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

８．実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

９．実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）

11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）

12. 法人運営

付１．会議等に関する事項（総会，理事会，各種委員会）

付２．研究会および研究発表・学術講習会等一覧

付３．刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧

付４．国際会議一覧

付５．表彰等

その他・附属明細書

2025 年度 事業報告

1．概況：重点活動

2025 年度は，劇的かつ急激に変化する社会環境のなか，複数の AI モデル提供企業がその技術を競い合う状況が進行した。このような環境の中で，社会課題解決や社会経済活動を支える基盤としての AI を始め進化する情報技術をどう使うべきか，どう教えるべきか，またどう学ぶべきかといった指針を含めた包括的な情報処理の知識の提供と技術を発信することが本学会に求められた。特定の業界や職種のみならず広い領域で，これまで以上に情報処理技術の重要性は増してきている。

そのため，情報処理分野での指導的役割を担う立場として，本会の果たすべき役割はますます拡大しており，社会と文化の発展に寄与するため中長期的視点に基づいた事業の推進が求められている。

本会では，2020 年の本会創立 60 周年記念において学会宣言“More local and more diverse for global values”を提唱し，その実現に向けた具体的目標として，①広く新しい情報処理ユーザーへの学会活動の訴求，②広く新しい情報処理ユーザーへの新しいサービスの提供，③自らが運営しやすい学会の情報システムと業務プロセスの整備，の 3 つを柱とする 5 ヶ年の中期計画を 2021 年度に制定した。

2025 年度は，この中期計画（2021-2025）の最終年度となり，これまでの活動成果の振り返りを行い，次期中期計画の策定に向けた検討を本格的に進めた 1 年であった。学会運営体制の強化，広報・会員価値向上，DX 推進，教育支援，国際連携など，計画に掲げた重点施策について継続的な取り組みを進めるとともに，活動を通じて得られた課題や新たなニーズを整理した。

1.1　学会運営体制の充実および財政基盤の強化

2025 年度は，急速に変化する社会環境と AI 技術の高度化を背景に，学会運営の安定化と発展を支えるための各種施策を計画どおり推進した。経営企画委員会・広報広聴戦略委員会・長期戦略理事・事務局が連携し，ビジョン発信，会員価値向上，財政健全化，中期計画策定など多面的な改革を進め，学会全体の機能強化に寄与した。組織運営の透明性向上，DX 推進，会員価値の再定義，中期計画の刷新，国際連携の検討など，学会の将来を見据えた基盤整備を着実に進展させることに注力した。特に，経営企画委員会を中心とした一連の議論と実施プロセスは，次世代の情報処理コミュニティを構築する上で重要な成果を残した。

① ビジョン発信・政策提言体制の強化

経営企画委員会において，総会資料・監査報告・法人運営資料を体系的に整備し，学会の理念・方針を外部に分かりやすく発信した。政策提言では，国・自治体との対話が継続実施され，社会課題に対する情報処理分野の方向性を示す提言書を取りまとめた。11 月のアドバイザリーボードに向けた活動概況スライドの整備も進め，外部からの第三者評価に耐える説明責任体制を強化した。

② 会員価値向上と財政基盤の強化

会員サービスや広報施策の改善により，学生会員およびジュニア会員は増加傾向にあるものの正会員は減少傾向にある。会員獲得施策については，非会員の自動入会制度など複数案を議論し，制度的・財政的影響を精査した（費用試算・システム改修要件・既存会員への公平性など）。これらの検討は，今後の持続的な会員基盤構築に向けた重要な知見を提供した。また，財政面では，学会事務局本部の移転による固定費（賃借料）の大幅削減，主要事業の効率化，オンラインサービスの運用最適化を通じ，今後の黒字運営に向けての体制を強化した。

③ 次期中期計画の推進

長期戦略理事を中心に，2021-2025 中期計画の最終年度として，中期計画の成果と課題そして取り組みを総括し，次期計画に向けた討議を開始した。特に，中期的な成長戦略に向けたアンケート調査（理事向け）から得られた知見を踏まえ，学会の成長戦略とユーザー層拡大に向けた重点項目が抽出され

つつある。主要活動指標の可視化も進み，理事会におけるデータに基づく意思決定が行われている。「今年度は総括に注力し，新計画は来年度以降とする」という活動方針を元に「総括と論点整理」を成果物としてまとめ，次年度への体制を整える。

④ 小中高校教員支援プログラムとジュニア会員拡大
初等中等教育委員会が中心となり，教員に向けた研修会や教材提供などのプログラムをオンライン中心に再整備した結果，学校現場からの利用が大幅に増加し，ジュニア会員制度の定着と裾野拡大につながった。また，中高生研究コンテストの議論を深め，学会として若年層育成への取り組みを充実させた。

⑤ アドバイザリーボードからの提言に基づく運営改善
2025 年 11 月開催のアドバイザリーボードにおいては，主な提言として，教育・人材育成強化（生成 AI リテラシ，プログラミング教育，デジタルシチズンシップなど），会員価値向上（若手活性化，シニア層，産業界の IT 人材に向けた価値再設計など），社会発信・政策提言の強化（データ活用不安への説明など），学会活動の可視化とスピード感（ビジブル化，国際展開など）が挙げられ，既存事業を見直し新たな戦略軸と実行計画を示す必要性が示された。これらの意見は，理事会・委員会において慎重に検討し，会員拡大，教育支援，社会発信力強化に関する今後の学会運営の改善に継続的に反映していく。

⑥ ダイバーシティ施策と倫理綱領の普及
男女共同参画学協会連絡会への加盟維持を確認し，ダイバーシティ委員会が中心となって関連学会との協働イベント，啓発資料整備，教育支援を拡大した。倫理綱領の普及や学会としての社会的責任を明確化し，健全なコミュニティ運営に寄与した。

⑦ 学会事務局本部の移転
DX 時代に適した働き方の実現を目的に，事務局本部の移転（千代田区神田小川町）が計画どおり完了した。業務効率化・ハイブリッド勤務の最適化に向けて，IT インフラ整備と運用の見直しが進み，費用対効果の分析も理事会に報告された。

⑧ 日本 IT 団体連盟（IT 連）との協働強化
IT 連の各委員会への本会メンバー派遣，共同調査・イベント連携，オンラインサービス設計の協働を推進し，IT エンジニア層へのリーチ拡大と学会ブランドの社会的影響力向上に貢献した。

1.2 IT エンジニア向け活動の強化

従来からの認定技術者制度，各種セミナー，イベントや IT フォーラム活動の実施，各種団体，企業との連携による活動推進に加え，相互理事制を取り関係を強化した日本 IT 団体連盟（IT 連）との連携を活用し，活動内容の見直しや新しい企画立案を推進する。

① 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度の実績として，新たに 308 名の認定情報技術者が誕生した。一方，資格更新しなかった技術者もいることから，2025 年度末時点の資格保持者総数は 1,624 名（前年度の 1,702 名からは-78 名）となっている。

② デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，IT フォーラムなどの相互連携活動により，IT エンジニアの育成に貢献するとともに，会員増，収入増を図る。

③ 日本 IT 団体連盟（IT 連）のメンバーを IT 産業界アドバイザーとして技術応用委員会に招聘し，連携を強化する。より広範囲な IT エンジニアに寄与し得るセミナー，イベント，資格制度とする検討を開始し，IT 連加盟団体会員へのサービス機会の拡大を目指す。

④ 日本 IT 団体連盟（IT 連）の他，全国地域情報産業団体連合会（ANIA），情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），電子情報技術産業協会（JEITA），科学技術振興機構（JST），先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC），インターネット協会（IAJ），情報通信技術委員（TTC），日本データ通信協会（JADAC），日本規格協会（JSA），モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC），IT スキル研究フォーラム（iSRF），iCD 協会，

日本情報技術取引所（JIET），学びのイノベーション・プラットフォーム（PLIJ）などの IT エンジニアを対象とする団体や企業との連携をさらに深め，共同イベントの開催などを推進して，会員増に貢献する。

1.3　学生・若手研究者育成の活動推進

初等中等教育を含む情報教育プログラムの推進，今後の情報教育のグランドデザインの検討を推進していく。

① 2025 年実施の大学入学共通テストで「情報」が出題されたこと，また国公私立大学の個別入試においても「情報」が出題されたことを受けて，問題の解説記事発行やイベント開催を通じて情報教育の推進に全面的に協力した。また，2022 年度から始まった高等学校学習指導要領の科目「情報Ⅰ/Ⅱ」に関する教員研修やオープン教材 IPSJ-MOOC の提供を継続した。さらに，2024 年度以前から行われてきた小中高の教職員を対象とした会費割引制度を刷新し「小中高校教員支援プログラム」として運用を開始した。さらに，次期学習指導要領において情報教育を推進するために研究・調査・提言を行った。

② 国立情報学研究所と協力してグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」の後継となる「JST 次世代科学技術チャレンジプログラム」の共同開催を継続した。

③ 小中高校生，高専生，大学学部生の一部を対象とする会費無料の「ジュニア会員制度」を活用し，学生・生徒の育成を支援するとともに，ジュニア会員期間終了以降における有料学生会員への移行・学会活動の継続を呼びかけた。

④ 研究会や支部などの協力も得て，学生や若手研究者，ジュニア会員のためのイベントを企画開催した。

⑤ 若手研究者が招待講演を経験することで研究実績につながることをねらい，各研究会が主催している研究発表会・シンポジウムにおいて，若手研究者に招待講演を依頼する際に，講演者に支払う謝金を学会が支援する「若手研究者招待講演謝金補助」事業を進めた。

⑥ 中高生情報学研究コンテストについては，2023 年度に開始したブロック大会を支部とともに継続して実施，各専門分野の審査を担当可能な審査員の拡充を行った。また，研究倫理面のチェックを充実させた。

⑦ 文部科学省 高等学校 DX 加速化推進事業に採択された学校を対象とした伴走支援事業に情報教育の専門家を派遣して指導・助言を行うことを通じて同省の事業推進に協力するとともに，全国的な情報教育人材の育成支援を行った。

1.4　会員サービスと広報広聴活動の充実

会員サービスと満足度の向上および広報宣伝の充実を図るため，広報広聴戦略委員会が中心となって「広報」と「広聴」を戦略的に推進し，魅力ある学会作りを推進した。

① 2023年度に立ち上げた9つのワーキンググループ(ウェビナー/SNS/Web/メール/ガイドライン/学生交流向け/産業界向け/情処ラジオ/ノベルティ) は，特に関連性が強いSNS/Web/メール/情処ラジオ/ノベルティを集約し，4つのワーキンググループ（ウェビナー/学生交流向け/産業界向け/情報発信)に再編成し活動を推進した。

② 学会のセミナー・イベント，委員会など各種活動を主にオンラインにて開催し，他学会との共催も実施した。

③ 小中高教員および教員のうち教育行政職へ出向している者のための新たな「小中高校教員支援プログラム」を 5 年間の期間で開始した。効果については今後検証を行っていく。

④ 会員・非会員の活動傾向等を分析し，目的に合わせたステップメール，セグメントメールによる各種交流会等を通じて，入会促進，退会防止活動を推進した。

⑤ 2024 年度にリニューアルした Web サイトの FAQ は必要に応じてアップデートを行い利用者の利便性向上に努めた。

⑥ 2024 年度に検討した「会員サービスの差別化」に着目した「入会に結びつけるための広報戦略」の検討を行った。
⑦ 「賛助企業との交流会」を 3 回（8/7，10/10，12/18）開催し，参加者から好評を得た。
⑧ 大学改革支援・学術授与機構が行った 60 校の大学が参加するシンポジウムのポスターセッションに相談窓口ブース出展し，会員サービスを訴求した。

1.5 情報システム・DX の推進

情報システム・DX委員会が主体となり，学会情報システムの見直しに加え，事務局業務のBCP/DX化を推進し，コロナ禍を経てリモートワークに対応したデジタル化を推進した。

① 電子図書館については2024年度に新システムWeko3 に移行した情報学広場に関する一部の不具合改修等を行い安定稼働に努めた。また，クレジットカード決済の3Dセキュア対応は2025年5月に開発を完了した。
② Web施策関連のメール配信に関しては開封率,URLクリック率の調査および効果検証の必要性に関して議論し今後の課題とした。
③ 学会Webサイトやメールサーバなどの本部情報システムについて,学会のDX活動,広報広聴マーケティング活動と連動した改善項目を抽出・精査し，今後のコンテンツ充実やシステム改善に向けた検討を実施した。メールサービス等のクラウド化への移行等に関しては中長期的に対応を進める。
④ 事業継続性の強化策（BCP対策・事務局情報システム強化）としてサーバ類の冗長化ならびにオンプレミス･サーバのクラウド化を一部実施し,オフィスLANへのリモートアクセス化は実施を完了した。

1.6 調査研究・学術講習会・会誌・論文活動の継続推進

変革期における学会誌・研究論文のあり方を継続検討した。学会誌はオンライン記事の強化を行うとともに，好評だった過去の特集などのオンライン化を推進する。論文誌については，オープンアクセス時代に向けたあり方について継続検討していく。

① ハイブリッド開催を主体に研究会やシンポジウムの活動を推進した。
② 各種オンラインツールを利用した全国大会，FIT，セミナーなど各種イベントの最適な開催方式(ハイブリッド・現地・オンライン開催)を財務面も含めて推進する。
③ 会誌は，オンライン特集記事や，「note」の定着化とともに，会誌ウェビナーや記事のビデオ化をはじめとした会員に有益な情報を届けるための方策を検討した。

1.7 グローバル化の推進

研究会活動を中心に，国際会議を積極的に主催，共催し活動の活性化を図るとともに，海外学協会との新たな連携を推進した。

① IEEE や ACM との連携を継続し，第 88 回全国大会での両学会会長による招待講演や Joint Award の継続，浸透を図った。
② アジアの関連学会である中国 CCF(China Computer Federation)，韓国 KIISE（The Korean Institute of Information Scientists and Engineers）との連携を継続し，KIISE 大会では会長よりビデオメッセージを送付，また，第 88 回全国大会では CCF 副会長，KIISE 会長の招待講演も実施した。
③ SC44（Consumer protection in the field of privacy by design）の国内審議体制の構築を進める。また JTC 1 の運営・方向性を議論する直属の AG，AHG についても，優先度を見極めながら対応していく。
④ 2023 年度の第 86 回全国大会で中国 CCF より提案された APAC(Asia-Pacific Alliance for Computing)の創設がされ，本会も参画，長期戦略理事 2 名が Executive Committee の委員になった。

２．会員の異動状況

下記の取り組みを実施し，会員数の増加に努めた。

2.1　新規会員の獲得と会員減の防止

新規会員の獲得と会員のリテンション強化に向けて，学会中期計画ならびに 2021 年度から 2022 年度に行った広報広聴マーケティング活動結果を踏まえ，広報広聴戦略委員会の傘下のワーキンググループは 4 つ（①ウェビナー・②学生交流・③産業界・④情報発信）に集約し，各活動を推進した。

これらの活動により，学生会員は 129 名増，ジュニア会員は 89 名増となったものの，正会員は 210 名減となった。対前年度で個人会員は若干の増加となった。一方，賛助会員は，イベントスポンサーへの働きかけ等の取り組みにより 1 社減少したものの 14 口増加した。

2.2　学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

① ジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し，学生会員の獲得を促進した。

② ジュニア会員の論文掲載料無料化，全国大会での第 8 回中高生情報学研究コンテスト等々の施策を行い，学生会員の育成を推進した。中高生情報学研究コンテストは 2023 年度から継続してブロック大会（オンライン開催）を実施し，全国各地から 2024 年度を上回る多くの参加者を集めることができた。

③ 2020～2024年度まで実施していた教員割引キャンペーンは終了し，2025年度からジュニア会員獲得の新たな施策として，ジュニアを指導する初等中等教員の入会と継続促進する小中高校教員支援プログラムを開始した。その結果，新たな会員層を発掘（17名）するとともに，初等中等教員の既存正会員の継続（65名）を促した。またジュニア会員から学生会員への昇格が57名となった。

④ 学生・若手向けセミナーの企画開催など，学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。

⑤ 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し，学生会員の正会員への移行・定着の施策として 1 研究会への無料登録を継続した。

会員種別	会員数		増減数	備考：2025 年度の異動内訳				
				入会		退会		資格喪失
	①2025 年度末	②2024 年度末	①-②					
名誉会員	45	45	0	1 0	新入会 正会員から異動	1		
正会員	13,803	14,013	−210	515 815 0	 学生会員から異動 ｼﾞｭﾆｱから異動	1,044 0	 名誉会員に異動	496
学生会員	3,424	3,295	129	1,922 57	 ｼﾞｭﾆｱから異動	1,003 815 0	 正会員に異動 ｼﾞｭﾆｱに異動	32
ジュニア会員	3,550	3,461	89	1,251 0 0	 正会員から異動 学生から異動	1,105 0 57	 正会員に異動 学生会員に異動	
個人会員 計	20,822	20,814	8	4,561		4,025		528
賛助会員 （口数）	257 (654)	258 (640)	−1 (14)	13 (28)		14 (14)		

＊2025 年度期末正会員数には終身会員 910 名を含む。

３．会議等に関する事項（総会，理事会，各種委員会）

コロナ禍を経てハイブリッド時代の活動形態を推進し総会，理事会をはじめ，各種実施事業に関する各種委員会の殆どをオンラインまたはハイブリッドで開催した。また，60 周年宣言“More local and more diverse for global values”の「More Local」の促進活動として支部長会議を7月と3月の年2回開催，また，例年秋季に開催するアドバイザリーボードに支部長もオブザーバ出席頂く形で支部との交流を図った。詳細は付録1（p.21～p.31）に掲載する。

４．実施事業１：調査研究活動（定款第４条１項１号および２号）

4.1　研究発表会，シンポジウム・講習会等

41研究会，4研究グループ（内1研究グループは調査研究運営委員会所属）により活動し，研究発表会（149回 内75回はオンサイト開催，内6回はオンライン開催，内68回はハイブリッド開催）およびシンポジウム等（19回 内9回はオンサイト開催，内1回はオンライン開催，内9回はハイブリッド開催）を開催した。また，研究会登録者数は9,035名と微減であった。詳細は付録2（p.32～p.40）に掲載する。

※前年度参考：42研究会，4研究グループ，研究発表会153回，シンポジウム19回，研究会登録者数9,093名

(1) コンピュータサイエンス領域

11研究会により，研究発表会（41回 内10回はオンサイト開催，内3回はオンライン開催，内28回はハイブリッド開催），シンポジウム等（6回 内2回はオンサイト開催，内4回はハイブリッド開催）を行った。また，研究会登録者数は2,710名であった。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが，中でも特記事項は次の通りである。

※前年度参考：研究発表会42回，シンポジウム6回，研究会登録者数2，738名

① ソフトウェア工学(SE)研究会が IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter の共催と多くの協賛団体のもと，「ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 (SES2025)（2025年9月16日～18日，早稲田大学慶應義塾大学／オンライン）」を開催した。参加者は251名であった。

② 優秀な若手会員を顕彰するため，領域共通の積立金を活用して2025年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を18名に授与した。

③ コンピュータサイエンス領域の研究会分野において，顕著な功績のあった10件に対し，領域共通の積立金を活用して2025年度コンピュータサイエンス領域功績賞を授与した。

(2) 情報環境領域

15 研究会により，研究発表会（56 回 内 38 回はオンサイト開催，内 1 回はオンライン開催，内 17 回はハイブリッド開催），シンポジウム等（8 回 内 4 回はオンサイト開催，内 1 回はオンライン開催，内 3 回はハイブリッド開催）を行った。また，研究会登録者数は 3,090 名であった。特記事項は次の通りである。

※前年度参考：研究発表会 58 回，シンポジウム 9 回，研究会登録者数 3,123 名

① 10研究会※が合同で，ネットワークに関する研究分野を対象に「DICOMO2025シンポジウム（2025年6月25日～27日，母畑温泉八幡屋）」を開催した。合宿形式で開催し，研究者間の深いディスカッションと交流を図る場となった．参加者は341名であった。

※マルチメディア通信と分散処理（DPS），コラボレーションとネットワークサービス（CN），モバイルコンピューティングと新社会システム（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS），ユビキタスコンピューティングシステム（UBI），インターネットと運用技術(IOT)，コンシューマ･デバイス＆システム(CDS)，セキュリティ心理学とトラスト(SPT)，デジタルコンテンツクリエーション（DCC）各研究会

② 5研究会※が合同で「インタラクション2026シンポジウム（2026年3月3日～5日，学術総合センター）」を開催した。参加者は808名と盛況であった。ジュニア会員の聴講者は参加費無料とすることで会員増にも貢献した。

※ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI),コラボレーションとネットワークサービス(CN),ユビキタスコンピューティングシステム（UBI），デジタルコンテンツクリエーション（DCC），エンタテインメントコンピューティング（EC）各研究会

③ 情報環境領域の研究会分野において，顕著な功績のあった個人・団体に贈呈する情報環境領域功績賞を2名に対し授与した。

(3) メディア知能情報領域

15研究会，3研究グループにより，研究発表会（52回 内26回はオンサイト開催，内2回はオンライン開催，内24回はハイブリッド開催），シンポジウム等（5回 内3回はオンサイト開催，内2回はハイブリッド開催）を行った。また，研究会登録者数は3,235名であった。特記事項は次のとおりである。

※前年度参考：研究発表会53回，シンポジウム4回，研究会登録者数3,232名

① エンタテインメントコンピューティング(EC)研究会が「エンタテインメントコンピューティング2025シンポジウム（2025年8月25日～27日，日本大学文理学部キャンパス）」を開催し，参加者は213名であった。

4.2 その他

(1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して，山下記念研究賞，業績賞，情報処理技術研究開発賞，マイクロソフト情報学研究賞，IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research，IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award，若手奨励賞を贈呈した。付録 5 (p.46～p.48) に掲載する。

5．実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）

初等中等教育を含む情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施した。

5.1 情報教育カリキュラムの整備

① 2017 年に策定した J17 カリキュラム標準を更新すべく，J27WG を設立し CE， CS， CyberSecurity，DS，GE，IS，IT，SE の各領域に対してサブ WG を立ち上げ， J27 カリキュラム標準の策定に向けた調査・議論を開始した。また，J27-IS 作成のための準備として，IS2020 概説のレクチャーを実施し，委員間で情報共有と意識あわせを行った。また，CC2020，MSIS2016 などの動向を踏まえつつ，IS2020 を踏まえたコンピテンシーベースの記述方法について検討したほか，IS 教育モデルカリキュラムに関して関連学科の調査を開始した。これらの活動に関連して，IPA のコンピテンシー評価基準，JABEE の評価，情報学分野の参照基準を参照して IS のアウトカムズ評価についても検討した。中等教育（情報入試，高校「情報」科目等）においても，学習指導要領解説における IS 分野の記述等をレビューした。

② 初等中等教育から高等教育まで一貫した情報教育課程の指針を示した，日本学術会議「情報教育課程の設計指針」の改訂に協力した。

③ 次期学習指導要領改訂の方向性に対応した初等中等教育の情報教育モデルカリキュラムの作成に着手した。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定）

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため，日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続し，今年度はJABEE審査3件を担当した。JABEEのソウル協定の活動に，委員会として貢献した。また， 以前よりJABEEに働きかけていたデータサイエンス分野が情報専門系学士課程の正式な認定分野として位置づけられた。さらに，JABEEが新設されたKIS（国立高専教育国際水準）を審査し，高等教育の専門分野別第三者評価として適切であることを確認して認証することになったことに伴い，JABEEが実施する各国立高専の専攻科を含めたプログラム審査においてKISの評価結果を参照することでJABEE審査の負荷が軽減する見込みであることが確認された。

5.3 高度 IT 技術者・団体の認定とその継続研鑽

高度 IT 技術者や団体を認定すること，およびそれらの継続研鑽を支援することを推進する活動を継続した。

① 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度では，個人認証の新規審査，継続研鑽の実績審査と資格更新審査，および企業認定の更新審査を行った。2025 年度の実績として新たに 308 名の認定情報技術者が誕生した。一方，資格更新しなかった技術者もいることから，2025 年度末時点の資格保持者総数は 1,624 名（前年度の 1,702 名からは-78 名）となっている。また，今年度の新たな施策実施としては，2024 年度に得た方針に従い「資格拡充検討 WG」を設置し，本制度の本質的価値の再確認および資格拡充に向けた検討を開始した。幅広いステークホルダーの知見を結集すべく，CITP コミュニティ（CITP 資格保持者団体），日本 IT 団体連盟，および iCD 協会からメンバーとして参画して頂いた。さらに，IPA に本会方針を説明し，今後の情報処理技術者試験の方向性などの情報共有を依頼した。広報活動においては，10 月に開催された CEATEC2025 のオンラインセッションで「AI が拓く次世代イノベーション ～情報処理学会が提供するセミナーと高度 IT 人材資格 CITP～」と題する講演の中で CITP の紹介を行った。本講演は 1 ケ月間オンラインで公開され，505 名（前年比+173 名）が視聴した。

② 国家資格である技術士，および本会会員向けの継続研鑽（CPD）支援事業として，3 回の講演およびワークショップを開催した。また，文部科学省に対して，2025 年度技術士（情報工学）の二次試験の採点委員，2026 年度技術士（情報工学）の一次試験および二次試験の作問委員の推薦を行った。

5.4 初等中等教育にて情報教育を担う教員への支援

現職教員への研修も含めた「新たな教師の学びの姿」の実現のために，高校の情報科教員養成および一層の能力向上に向けた支援を継続した。

① 2024年5月23日に運用がスタートした，文部科学省と連携した高等学校情報科の教員研修について，独立行政法人教職員支援機構の全国教員研究プラットフォームPlant上で2025年12月末までの受講登録者数は合計2,271人となった。

② 2022年度から始まった新指導要領の高校「情報Ⅰ/Ⅱ」に関する教員研修に対し，オープン教材IPSJ MOOCの提供を継続して行った。これについてIPSJ MOOCの管理体制を見直し，今後はデジタルコンテンツ事業検討委員会配下にあるビデオコンテンツWGにて同教材に関する問い合わせに対応することとした。

③ 2024年度まで実施していた小中高の教職員を対象とした会費割引キャンペーンは，新たな小中高校教員支援プログラムとして再スタートした。

④ 文部科学省 高等学校 DX 加速化推進事業（DXハイスクール）における伴走支援事業に学会として協力し，10月から12月にかけて7つの地区別に開催された取組実践発表会・研究協議会において指導・助言を担当する有識者延べ28名を派遣した。あわせて，DXハイスクール採択校4校からの質問に対してそれぞれ文書およびWeb会議にて対応した。

⑤ 第88回全国大会では，中高生情報学研究コンテストや探究学習の指導関係者等を参加者とした中高生

情報学指導者懇談会を開催し，高等学校教員3名による実践例紹介を行ったほか，参加者同士でのグループ懇談を行った。

⑥ 「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)と連携して「第14回情報科教員を目指す学生さんに向けてのガイダンス会2025」を開催した。学生や高校教員ほか50名程度が参加した。

⑦ 地域における教育支援として，広島地区にて2回のデータサイエンス基礎講座を開催し，高校教員延べ42名が参加した。

5.5 大学入試科目への「情報」導入を推進するための活動

大学入学共通テスト「情報」の位置づけの向上および大学の個別入試科目への「情報」の導入を推進するための活動を継続した。

① 大学入試センターより，前年に引き続き大学入学共通テスト「情報I」の意見・評価の依頼があり，本会として評価作業を実施した。

② 「情報」に関する入試過去問題を安定的に供給する目的で，情報関係基礎アーカイブ・情報アーカイブ（仮称）を整備した。今年度は，令和7年度共通テスト「情報関係基礎」の問題・正解・自己評価，および令和7年度共通テスト「情報」の問題・正解・自己評価などをアーカイブした。

③ 学会誌「情報処理」 note 「教科「情報」の入学試験問題って？」に，「情報」に関する入試過去問題についての8本の解説記事を掲載した。

④ FIT2025において，イベント「大学情報入試を振り返る～大学入学共通テストや個別テスト「情報」の振り返りと，高校現場の対応～」を開催した。本イベントは初等中等教育委員会・情報入試委員会の共同で開催し，対面で30名，オンラインで70名程度の方が参加し，6件の講演と1件の討論を通して，大学情報入試に関する活発な議論を行った。

⑤ 第88回全国大会におけるイベント企画として「新課程『情報入試』 － 2年目の共通テストと広がる個別入試」を開催した。

⑥ 高等学校情報科全教科書用語リストの普及活動を行った。

5.6 ジュニア（小中高生）世代の活性化をはかる活動

ジュニア世代への本会のプレゼンス向上をめざして，ジュニア世代の情報学分野での活動支援をさらに推進した。

① 情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために，第17回情報システム教育コンテストISECON2025を開催した。

② 探究学習や高校教科「情報」での問題解決活動の推進を図るために，第88回全国大会において，中高生を対象とした「第8回 中高生情報学研究コンテスト」を現地で開催した。本コンテストは2018年度より実施しており，今回は164件の申込みがあった（ポスターの提出は152件）。また，前回同様全国大会に先立ち，各支部にもご協力を頂きながら，12月に全国を5つのブロック分けてブロック大会を開催し，各ブロックから選出されたチームが全国大会に出場できる開催形式とした。本コンテストの最優秀賞受賞者に文科省文部科学大臣賞を贈呈した。なお，より専門的な審査を行えるよう，調査研究運営委員会と論文誌運営委員会の方々に審査への協力を頂いた。審査においては内容だけでなく研究倫理についても確認した。

③ 情報学分野のトップクラス人材の育成に資するため，NIIグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」プロジェクトの後継となる次世代科学技術チャレンジプログラムの運営に参画し，選抜審査と育成に協力した。前年に引き続き，第88回全国大会において第6期生の研究発表会と優秀者の表彰を行った。

④ 高専の情報教育を一層推進するために，全国高専プログラミングコンテストの運営に協力した。

⑤ 高専プロコン2025，パソコン甲子園2025，SuperCon2025，ETロボコン2025といった大学生，高校生等を対象とするコンテストにて若手奨励賞を授賞したほか，各イベントを後援した。

5.7 大学一般情報教育を推進するための活動

大学における一般情報教育の推進および更なる質向上を実現するための活動を行った。まず，オーム社 IT Textシリーズ「一般情報教育」について，2027年4月からの授業で使用できるよう改訂作業を進め，2026年末に出版予定である。次に，第88回全国大会において，イベント企画「大学一般情報教育の調査とDX」を開催した。対面で40名，オンラインで32名程度の方が参加した。さらに，大学ICT推進協議会(AXIES)情報教育部会と共同で「これからの大学の情報教育2025」を開催した。60名程度の方が参加した。最後に，会誌の特集として，7つの記事からなる「一般情報教育の役割と重要性」を掲載した（2026年3月号予定）。

5.8 その他

(1) 教育シンポジウム・イベントの開催

高校教科「情報」シンポジウム 2025 秋を，テーマ「大学入学共通テストの振り返りと探究的な学びの推進」として，2025 年 10 月 26 日（日）に工学院大学新宿キャンパスアーバンテックホールにおいて開催した。本シンポジウムでは，6 件の講演と 1 件のパネルディスカッションを通して，大学入学共通テスト「情報」および教科「情報」における探究的な学びに関する話題を中心に，活発な議論を行った。計画よりも下回ったものの，対面のみでの実施にもかかわらず 129 名の方々が参加された。また，企業 19 社から計 68 万 2 千円の協賛金を頂いた。これらのことから，多くの情報教育関係者に注目され，成功裏に終わることができたと考えられる。

(2) 情報系学部への女子進学率増加のための取り組み

情報系学部への女子進学率を増やすための取り組みの一環として，必要な調査を実施するための科研費を委員会のメンバーで申請した。

(3) 情報学分野と隣接する領域の教育への協力

J27 策定に向けた取り組みの中で，データサイエンス・AI 領域のカリキュラム策定方針について情報収集を行った。

(4) 情報教育の国際化への活動

JABEE 審査と KIS（国立高専教育国際水準）の関係について確認した。さらに，NAPROCK（特定非営利法人高専プロコン交流育成協会）国際プログラミングコンテストの開催に協力した。

(5) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め，初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために，学会誌に「ぺた語義」，「note オンライン記事」などの教育関連連載記事を企画・編集した。

(6) その他

① 教材，講義素材，講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて，IPSJ MOOC の管理体制を見直したほか，情報関係基礎アーカイブ・情報アーカイブ（仮称）を整備した。また，電子図書館に掲載されていなかった高校教科「情報」シンポジウムの過去のすべての記事を電子的に閲覧できるようにした。

② 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を行った。

③ 次期学習指導要領に向けた研究・調査を行ったほか，次期学習指導要領における情報教育の充実や高等学校卒業程度認定試験への「情報」科目の追加に関して，学会からの意見表明を行った。

６．実施事業３：学術講習会の開催（定款第４条１項１号および ２号）

※各開催状況の詳細は付録２（p.38～p.39）に掲載する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第 88 回全国大会

第 88 全国大会を 2026 年 3 月 6～8 日に松山大学 文京キャンパスにてハイブリッド開催した。第 84 回全国大会以来，イベント・一般セッションは Zoom を用いたウェビナー・ミーティングにて実施を行い，遠隔からの講演，聴講も可能としている。86 大会から飲食を伴う懇親会を再開し，88 大会も学内にて開催した。講演件数は，1,591 件（一般セッション 1,313 件，学生セッション 278 件），参加者数は 3,627 名（うち現地参加 2,413 名，オンライン参加 1,214 名）であった。開催地にちなんだサービスの提供を行い好評であった。中高生情報学研究コンテストは，2023 年度開催したブロック大会（全国を 5 つにブロック分け）を継続し全国大会選出チームを決定する開催形式とし，本大会にて選出チームによるコンテストを開催した。

※前年度参考：講演件数 1,608 件，参加者数 4,504 名（内現地参加 2,851 名，オンライン参加 1,653 名）

(2) 第 24 回情報科学技術フォーラム（FIT2025）

FIT2025（第 24 回情報科学技術フォーラム）を，2025 年 9 月 3～5 日に北海道科学大学にてハイブリッド開催した。イベント・一般セッションは Zoom を用いたウェビナー・ミーティングにて実施を行い，遠隔からの講演，聴講も可能としている。飲食を伴う懇親会を学内で行い，60 名程度が出席して参加者の交流が図れた。講演件数は 698 件，参加者数は併催研究会参加者 318 名も含めて 2,277 名（うち現地参加 1,349 名，オンライン参加 928 名）であった。

※前年度参考：講演件数 602 件，参加者数は 2,474 名（うち現地参 1,053 名，オンライン参加 1,421 名）

イベントや一般セッションなど，当初予定していた企画はすべてハイブリッドで円滑に実施することができた。船井業績賞受賞者 五十嵐 健夫氏（東京大学 教授）による受賞記念講演では，現地でご本人に講演いただき，多数の参加者から好評を得た。イベント企画（計 13 件），FIT2019 から開催のトップコンファレンスセッション（3 日間で 15 セッション，80 件）も実施した。託児料金補助の準備をしたが利用者はいなかった。また，子供連れ参加者向けの休憩室を会場に設け，利用いただいた。JR 手稲駅から大学間の直行バスを朝セッション開始時，夕方セッション終了時に増便して運行した。

今回も企業によるインダストリアルセッションと IT 情報系キャリアセッションを開催した。また，スポンサー13 口を獲得した。

(3) 表彰

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。第 87 回全国大会より継続して大会奨励賞の賞状はオープンバッジとしている。詳細は付録５（p.47， p.51）に掲載する。

6.2 セミナー／IT フォーラム／プログラミング・シンポジウム

(1) 連続セミナー2025

「AI が拓く次世代イノベーション」を全体テーマとした。2020 年度以降，新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催をしてきたが，2025 年度は一部ハイブリッド（③④）にて開催を行った。延べ申込数 1,110 名(2024 年度 826 名)，延べ参加者数 983 名(同 687 名)の参加があった。前年度は，後半のセミナーの日程や講演内容の確定に時間がかかり周知が遅れ，参加者の減少が見られたが，今年度は早期に企画・計画策定した。また広報活動として，テーマに関連する研究会への周知や SNS での事前通知を徹底するとともに，ハイブリッド開催，アーカイブ視聴を喚起するための Web ページの改善，周知強化することにより，参加者・収入が増加した。

※各回テーマ

① 人工知能（AI）研究開発の俯瞰と展望

② AI，生成 AI の急速な進展と保険・金融ビジネスへのインパクト，AI ガバナンス

③④ LLM の開発・活用の新展開（ハイブリッド開催）

⑤ 世界の AI ガバナンス政策，安全性評価，国際標準を巡る最新動向

⑥ 実環境における知能システムの現状と今後

⑦ AI ロボット駆動科学

⑧ 音楽・アニメ・食事: 情報技術が切り拓くメディア体験・制作の未来

⑨ 量子ソフトウェアスタックの現在

⑩ 人間行動センシングと解析技術の最前線

～3D 身体モデリング・作業解析から技巧熟達支援まで～

⑪ デジタル社会を支える新たなトラスト ～技術と社会の両面から～

⑫ 生成 AI の医療応用の実際

※前年度参考：全 12 回，延べ参加者数 826 名

(2) 短期集中セミナー

年度内に計2回の短期集中セミナーを開催した。

・IPSJ・TTC共催セミナー

「メタバースを活用した社会課題解決への挑戦」（2月）※ハイブリッド開催参加者：268名

・「JPEG/MPEG最前線 ～国際標準化最新動向，

AI，空間映像が創る 次世代コンテンツ技術～」（3月）※オンライン開催参加者：42名

(3) IT フォーラム 2026

IT 関連業界において現場で活躍されている産業界の方々を中心に，学界・官公庁関係の方々，次世代を担う若手の技術者・研究者の方々等，多くの方々がともに問題意識を共有し議論，交流を深められる場として，また IT 産業の今後を考える機会として「IT フォーラム 2026」を 2021 年度以降に引き続きオンラインで開催した（参加者：412 名（内講演者・関連委員会委員・事務局 35 名））。

また，一部のフォーラムは講演者が現地に集まるハイブリッド形式で配信した。

(4) プログラミング・シンポジウム

年度内に 3 回（第 67 回プログラミング・シンポジウム（参加者 69 名）ハイブリッド開催，第 58 回情報科学若手の会（参加者 26 名）現地開催，夏のプログラミング・シンポジウム（参加者 19 名）現地開催）のシンポジウムを開催した。

※前年度参考：プロシン参加者 66 名，若手の会参加者 45 名，夏プロシン参加者 61 名

6.3 ITフォーラム

① 2025 年度はサービスサイエンスフォーラム，コンタクトセンターフォーラム，CITP フォーラムの 3 つの IT フォーラムが活動を行った。各フォーラムの主な活動内容は以下のとおり。

・サービスサイエンス：「ITフォーラム2026」にてフォーラム開催，他1回/4ヶ月でフォーラムをオンライン開催。

・コンタクトセンター：「ITフォーラム2026」にてフォーラム開催，他1回/4ヶ月でフォーラムをオンライン開催。

・CITP：「ITフォーラム2026」にてフォーラム開催，定例会を4回（4月，7月，12月，3月）対面開催，専門部会を定期オンライン開催。

② ITフォーラム2026において，関連団体※との連携イベントを推進した。

※先端 IT 活用推進コミュニティ（AITC）

6.4 各支部による支部連合大会，講習会等の開催

支部連合大会，講習会，講演会，セミナー等，各支部において活発に活動がなされた。なお，現在は開催イベントの特性に応じて対面・オンライン・ハイブリッドで開催している。詳細は，付録 2（p.40）および付録 5（p.49～p.50）に掲載する。

7．実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

※発刊状況の詳細は付録 3（p.41）に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」

(1) コンテンツ

① 会誌「情報処理」第66巻5号から第67巻4号まで計12号（本文1,500ページ（内冊子版564ページ，電子版936ページ），広告68ページ，平均発行部数12,690部／号）を編集発行した。

② 会誌のハイブリッド刊行に向けて，2020年度からのオンライン版推進をさらに加速した。

③ 学会誌「情報処理」noteには，「緊急記事」，「教科『情報』の入学試験問題って？」，など，過去記事と新規記事あわせて471記事を公開した。

④ 「読まれる学会誌」を目指して，会員サービス，および会員増という観点から編集を行い，時宜を得た特集，連載，単発記事が提供できるよう努めた。

⑤ さまざまなITに関する企画や研究会活動を取材し，マンガ表現で分かりやすく解説する「IT紀行」の連載を継続した。

⑥ 最新技術を分かりやすく解説する「解説」，著名人による「巻頭コラム」，連載「ビブリオ・トーク」，連載「5分で分かる!? 有名論文ナナメ読み」，連載「情報の授業をしよう!」，連載「先生，質問です！」，教育コーナー「ぺた語義」などを引き続き掲載し，概ね好評を得た。

⑦ 小学校から大学までのさまざまな学校種における，部活動やサークルを中心とした活動について紹介する特集「コンピュータ系サークル大集合2025～中学・高校・高専・大学編～」（66巻6号）や，日本のインターネットの源流であるJUNETが始まった時代を振り返る特集「日本でインターネットはどのように始まったか―JUNET生誕40年―」（66巻8号），引き続き高い社会的注目を集めるAI分野をテーマにした特集「AI時代の安全なデータ処理『Confidential Computing』」（66巻7号），「生成AIが拓く新時代のエージェント技術」（66巻10号），「AI はスポーツをどう変えるのか」（67巻1号）などを掲載した。

⑧ デジタルプラクティスから独立した，実務家向けの記事を掲載する「デジタルプラクティスコーナー」を年4回掲載し，そのうちの「社会を変える量子コンピュータ活用」（66巻5号）「企業における情報技術活用のプラクティス―協業団体特集」（66巻11号）「DXで推進するドローン利活用」（67巻2号）を会誌特集として掲載した。

⑨ 会議レポートを掲載し，会員へ国内外会議の周知，また，積極的な参加を呼びかけた。

(2) その他，広報・宣伝の充実および編集体制の改善

① 学生向けに発行している「就職インターンシップ情報誌」（会誌 66 巻 7 号，66 巻 12 号，67 巻 4 号同封）の掲載企業は 25 社，若手研究者向けに発行している「若手研究者のためのキャリア情報誌」（会誌 67 巻 2 号同封）の掲載企業は 10 社であった。（Web にも同内容を掲載）

② メールニュースをより魅力的なものとするため，引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。

③ 学会誌『情報処理』note」で記事を公開，編集長が月に一度見どころを紹介する「情報処理学会誌編集長の独言（ひとりごと）」も継続した。また，X(旧 Twitter)での情報発信を充実させるなどオンラインメディアでの発信を強化した。

④ IPSJ メールニュースにおける会誌・論文誌の目次配信を継続した。
⑤ 学会の知名度向上をはかるため，技術書の展示会「技術書典 18・19（オンラインおよび現地参加）」に会誌編集委員会として出展し，会誌特集別刷やグッズを販売した。
⑥ 編集委員会の体制を充実させ，業務負荷の分散化，WG の活性化，企画の多様化，長期課題へ取り組みを推進することで，持続可能な体制を構築した。

8．実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

※各発行状況の詳細は付録 3（p.41～p.43）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル／JIP／トランザクション／デジタルプラクティス）

(1)「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）
論文誌（一般論文，特集号論文）の月刊体制を維持し，目標 230 編に対し 245 編（含 JIP preprint83 編）が掲載された。招待論文を 6 編掲載し，特集号を 14 号発行した。ジャーナル/JIP 編集委員会幹事会が提案母体となる「若手研究者特集号」を企画（投稿条件：第一著者が 40 歳以下の会員）し，若手研究者に対して投稿機会を提供するとともに，第一著者 49%の方が本特集号をきっかけに入会をした。第 88 回全国大会でイベント企画「論文必勝法」を企画し，論文執筆やその指導法についての講演や，論文投稿に関するノウハウを参加者に共有し，論文投稿数の増加を図った。
※前年度参考：209 編
② 論文誌編集委員の貢献に報いるため，論文編集委員会より論文編集貢献賞を選定し贈呈した。
③ 幹事会，グループ会議ともに原則オンライン開催を継続し，年 1 回のみハイブリッド会議を開催した。Google drive を活用した原稿管理表の共有，Slack による情報共有，google doc によるノウハウの共有など編集委員会運営の効率化を行った。
④ 査読システム(Scholar One Manuscript)の利便性向上のため改修について検討し，著者連絡先追加機能および査読結果集約設定の改修を行った。なお，トピック機能の活用については，システム開発元側でシステム構成の見直しが必要なため，その対応完了後に改めて調整することとした。

(2)「Journal of Information Processing（JIP）」

① 年間論文掲載数の目標 100 編に対して掲載件数は 114 編（うち招待論文 3 編）であった。国外からの投稿に対する優遇策を継続して実施している。
※前年度参考：89 編（うち招待論文 2 編）
② 二重投稿対策として英文論文を対象とし，剽窃チェックツールを活用した。
③ Impact factor 取得のため，英文論文の質を向上させつつ関係先と調整を続けた。2025 年度は，前年度に実施した J-STAGE ジャーナルコンサルティングプログラムでの助言を踏まえ，JIP のオープンアクセス化に向けた準備として，JIP Information for Authors の改訂案について編集委員会内での審議・調整を中心に検討を進めた。

(3) トランザクション（10 誌）

研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」10 誌を年度内に計 31 回発行した。トランザクションの掲載論文は目標 120 編に対し計 137 編（含 JIP preprint30 編）となった。
※前年度参考：10 誌 103 編

(4) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため，論文賞を贈呈した。詳細は付録 5（p.45）に掲載する。

8.2 専門誌：教科書シリーズほか

J17 も参考にし，J27 に向けた最新動向も考慮しながら新企画書の発行と既企画のメンテナンスを中心に活動し，重版を 15 冊行った。IT Text シリーズ全ての今年度販売数は 7,206 部。（※）。また，『医療健康データの取扱説明書－IT 技術者が知っておくべき要点－』，『生成 AI によるソフトウェア開発―設計からテスト，マネジメントまでをすべて変革する LLM 活用の実践体系―』を発刊した。

※前年度参考：9,908 部

8.3 歴史資料の保存・公開

① 「情報処理技術遺産2件の関連調査と認定を行った（情報処理技術遺産　累計：112件）。詳細は付録5（p.51）に掲載する。

② 「コンピュータ博物館」の今年度のアクセス数は，740,240件（日英合わせ），転載数13件であった。
※前年度参考：アクセス数876,431件，転載数12件

③ 第88回全国大会（ハイブリッド開催）で特別セッション「私の詩と真実」で2件講演発表を行った。

8.4 デジタルコンテンツ事業の推進

① サイトライセンスサービスの契約数は2025年度91件となった。サイトライセンスサービスの周知拡大に努めた。

② 電子図書館については情報学広場をWeko3に移行した。

③ JMOOC特別講座について，（一社）日本オープンオンライン教育推進協議会と協力して具体的な連携内容を検討していく。

９．実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

9.1 情報規格調査活動

(1) ISO／IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO／IEC JTC 1 直属の 21 の SC（全 24SC 委員会中）および各 AG（Advisory Group），WG，AHG（Ad Hoc Group）の対応を行った。さらに国際提案準備と，JIS 原案作成を行った。前年度から引き続き，文字コード（SC 2），デジタル記録媒体（SC 23），メディア符号化（SC 29），文書記述言語（SC 34）などの重点領域の委員会議長，幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに，新たに SC 24 議長代行を引き受けた。また，国の代表として，JTC 1 総会（5 月，11 月）に出席し，審議プロセス・組織の見直し，新規標準化領域などの議論に参加した。会議の開催形態は，今年度は 2 回とも対面開催であった。

① 今年度の引き受け件数は，議長 2 件（全 24SC 委員会中），セクレタリアート 4 件（全 24SC 委員会中）。その他，コンビーナ（各 SC 委員会傘下の WG 主査）8 件（131WG 中），プロジェクトエディタ延べ 77 名と 2024 年度同様に貢献した。

② 国際標準化の日本提案としては，新業務項目（NP）の提案(承認済)2 件，国際標準（IS）などの発行されたもの 7 件などである。

③ 標準化の対象が社会システムなど上位のレイヤに移るトレンドの中,JTC 1 が取り組むテーマが ISO，IEC，および ITU-T と重複する傾向が進んでいるため，JTC 1 と連携テーマがある ITU-T への国内対応委員会を設置している（一社）情報通信技術委員会（TTC）との連絡会を継続して開催した。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

① 今年度の国際会議は，対面開催が基本になり，渡航費等の支出も増加している。1,360回の標準化国際会議への参加者は，対面，ハイブリッド，オンライン合わせて，延べ3,451人であった。

② 国内においても，オンライン開催に加え，技術委員会を四半期毎に機械振興会館での対面開催とするなど，各専門委員会でも対面とオンラインを使い分けながら運用している。
③ 今年度も引き続き，本部と情報規格調査会との連絡会を開催した。中長期戦略，予算策定などの情報を共有しつつ運営を推進した。

(3) 標準化活動の支援と広報

① 前年度に引き続き，委員会活動を広く紹介するための一般向け広報として，活動報告を公開ホームページに掲載した。特に今年度は，JTC 1/AG 1（Communications）が四半期毎に発行するNews Letterの和訳の掲載を開始した。
② 情報技術標準化フォーラムは，今年度も中止とした。
③ SC 29「PEG/MPEG最前線 ～国際標準化最新動向，AI，空間映像が創る 次世代コンテンツ技術～」，IPSJ・TTC「メタバースを活用した社会課題解決への挑戦」，日本機械輸出組合向けセミナーの3件のセミナーを実施した。また，本会第88回全国大会のイベント企画として「情報技術における国際標準化活動 ～ISO/IEC JTC 1の活動紹介～」の標準化活動紹セミナーを実施した。
④ 広報活動を強化し，情報規格調査会の存在と活動の認知度を高めるため，広報広聴戦略委員会に参加した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため，標準化功績賞等を贈呈した。詳細は付録５（p.50）に掲載する。

１０．実施事業７：国際活動（定款第４条１項５号および２号）

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing（IFIP）活動への参加

① IFIP 日本代表，各 TC 日本代表の総会 General Assembly（GA）・理事会 Council への参加
IFIP 総会（9月18日～19日 ニヨン（スイス）／オンライン）に相田 IFIP 日本代表が参加した。
② 各 TC 日本代表が TC-meeting へ参加した。会誌（3月号）への活動報告，会議レポートの掲載のほか，メールニュース，Web を利用した情報発信を行った。
③ International Professional Practice Partnership（IFIP IP3）へ継続的に参画している（IP3は2015年10月に正式に IFIP の組織と承認された）。

(2) IEEE-Computer Society との連携・協力

① 2025年7月8日～11日にトロント（カナダ）で開催された The 49th Annual International Computer Software & Applications Conference（COMPSAC2025）への技術協力を行った。
② 第88回全国大会において Joint Award 表彰式と IEEE-CS 会長 Grace A. Lewis 氏の招待講演をビデオメッセージ形式で行った。
演題「2026 IEEE CS Strategic Initiatives and Focus」
③ 姉妹学会 MOU を継続し，会員向けの連携サービスを継続。
④ IEEE-CS と本会との Joint Award として，「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」2名の受賞者を決定した。

(3) ACM との連携・協力

① ACM と本会との Joint Award として，「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」1名の受賞者を決定した。
② 第88全国大会において，Joint Award 表彰式と ACM 会長 Yannis Ioannidis 氏の招待講演をビデオメッセージ形式で行った。

演題「ACM and Safe and Secure Digital Society」

(4) 海外学協会との連携・協力

① China Computer Federation (CCF) と Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力

・7月の KIISE の年次大会において，会長がビデオメッセージ挨拶を行った。

・第88回全国大会において，CCF 副会長 Shimin Hu 氏の招待講演を行った。

演題「Data-Centric Multimodal Large Language Models: From Evaluation to Training」

・第88回全国大会において，KIISE 会長 Sue Moon 氏の招待講演をビデオメッセージ形式で行った。

演題「Past, Present, and Future of KIISE」

② 2023年度の第86回全国大会で中国CCFより提案されたAPAC(Asia-Pacific Alliance for Computing)の創設にされ，本会も参画，長期戦略理事2名が Executive Committee の委員になった。

③ 他の海外学会との協力関係の継続

以下の海外学会との協力関係を継続するとともに，アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。

・Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)

④ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(5) 国際会議の開催（2 件）※今年度内に終了報告が完了した国際会議

詳細は付録4 (p.44) に掲載する。

なお，今年度内に開催された国際会議は以下のとおり。

・The 15th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2025)
2025年9月10日～12日，Avani Central Busan

・The 20th International Workshop on Security (IWSEC2025)
2025年11月25日～27日，アクロス福岡

１１．その他：関連学協会等との連携および協力（定款 4 条 1 項 6 号）

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会事務研究委員会へ参加して，各学協会の情報を入手するとともに，アンケートに協力した。また，電気・情報関連学会連絡協議会への参加など関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。特に各学会の会員数維持，会費値上げの影響や，事務局体制・移転などについて情報を共有した。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム (FIT)」，(一社) 情報通信技術委員会との共催による「メタバースを活用した社会課題解決への挑戦」セミナーほか，研究発表会および学術講習会において，関連学協会等と適宜共催を行った。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに，理学･工学系学協会連絡協議会に参加した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

2025 年電気学会産業応用部門大会（電気学会主催 2025 年 8 月 19 日～21 日開催）ほか，関連学協会等の会議の協賛・後援等 114 件を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

IEEE R10 HTC (Humanitarian Technology Conference)2025（IEEE東京支部主催 2025年9月29日～10月1日開催）ほか，関連学協会等の会議の協賛・後援等16件を行った。

１２．法人運営

(1) ハイブリッド環境に向けた取り組み

コロナ禍を経たハイブリッド時代，「本会 60 周年宣言～More local and more diverse for global values～」を念頭に，引き続き学会のイベント，委員会等各種活動を，オンライン開催，現地開催，あるいはハイブリッド開催といった適切な形態で推進した。事務局業務に関しても 2020 年からの BCP/DX 化推進を継続し，2025 年のオフィス移転ではリモートワークを前提としたフリーアドレスの執務環境を実現し，賃料を大幅に削減した。移転を機にリモートアクセスを見直し，サーバの冗長化等についても順次対応を進めている。

(2) 中長期計画の推進

2025 年度は，2020 年 11 月に公表した「60 周年宣言」を起点として 2021 年度に策定された中期計画(2021-2025）の最終年度となり，これまでの活動成果の整理と次期中期計画の策定に向けた検討を本格的に進めた 1 年であった。学会運営体制の強化，広報・会員価値向上，DX 推進，教育支援，国際連携など，計画に掲げた重点施策について継続的な取り組みを進めるとともに，活動を通じて得られた課題や新たなニーズを整理した。

また，本会の各種活動に対する「データドリブンな意思決定」の実現に向け，従来の「本会主要アクティビティ」を「学会主要活動指標」として再定義し，理事会レベルで共有する仕組みを整備した。研究会・大会・出版・国際活動・広報施策など，多様な事業を俯瞰的に可視化し，指標に基づく改善サイクルを導入したことは，学会運営の透明性と客観性を高め，活動活性化に向けた基盤強化につながった。

さらに，2025 年度は次期中期計画（2026 年度以降）の策定に向け，理事へのアンケート調査，現行施策の棚卸し，成長戦略の論点整理などを段階的に進めた。とくに，「広く新しい情報処理ユーザーへのアプローチ」や「会員層の多様化」「産業界・教育界との連携強化」「データ活用型広報基盤の整備」などの重要テーマについて，今後の学会の方向性を再考する議論が深められた。委員会・事務局・長期戦略理事が連携し，仮説の提示と検討を重ねるプロセスを整備したことは，次期計画の実効性を高めるうえで重要な前進となった。

これらの取り組みを通じて，2021 年度以降推進してきた中期計画の成果と課題が明確となり，次の 5 年間に向けた戦略立案に必要な基盤が整備された。学会の持続的な発展に向け，引き続きデータに基づく運営と，社会環境の変化に対応する柔軟な中長期的視点をもって検討を進めていく。

12.1 財務基盤の強化

① 財務基盤安定のための検討と学会のビジネスモデルの検討を長期戦略の検討と合わせて継続した。
② 2022 年度版事業別サマリを財務会計および管理会計に適用し，健全な学会運営・財務管理体制構築を推進した。
③ 学会事務局本部を移転し固定費（賃借料）を大幅に削減した。

12.2 アドバイザリーボードによる運営改善

アドバイザリーボードは，ユーザー企業，ベンダー企業，アカデミア，教育など幅広い分野から，各分野の識者 10 名をお招きし本会の活動に対して第三者として忌憚のない意見を頂き，それらを本会の活動やあり方に生かしていくことを目的として開催している。2025 年度アドバイザリーボードは，2025 年 11 月 6 日に開催され，AI 社会の急速な変化を踏まえ，本会の役割や重点施策について多様な立場から意見交換が行われた。主な提言として，

① 教育・人材育成強化（生成 AI リテラシ，プログラミング教育，デジタルシチズンシップ，ジュニア会員支援）
② 会員価値向上（若手活性化，シニア層，産業界の IT 人材に向けた価値再設計，学会誌品質向上，賞の価値付け）
③ 社会発信・政策提言の強化（データ活用不安への説明，国際連携，実践的活動機会の拡大）
④ 学会活動の可視化とスピード感（visible 化，迅速な施策実行）

が挙げられた。これらの意見は，会員拡大，教育支援，社会発信力強化に関する今後の学会運営の改善に継続的に反映していく。

12.3 広報広聴活動の推進

学会中期計画を踏まえ，広報広聴戦略委員会の傘下 4 つのワーキンググループで各活動を実施した。統合によって，従来の SNS・Web・メール・情処ラジオ・ノベルティといった個別活動を「情報発信 WG」に集約し，発信の一貫性と運用効率が大きく向上した。また「入会に結びつける広報戦略」「会員サービスの差別化」の観点から，データ分析を用いた施策検討を進め，学会の価値訴求力の向上に取り組んだ。統合後 4WG 体制がもたらした効果としては以下の点が挙げられる。

・情報発信力が一元化され，発信チャネル間の整合性が向上（SNS・Web・メール・動画の統合効果）
・データ分析の必要性を踏まえ，データドリブン広報が始動
・学生・産業界・教育現場など，複数の層に対する価値提供が整理され，会員サービスの差別化が進展
・旧 9WG の良さを残しつつ，「横断的で戦略的な運営」が可能な体制へ移行

(1) ウェビナーWG

医療情報をテーマとした新規企画を検討するなど，学会の専門性を活かしたオンライン講演企画を強化した。旧 WG の活動方針を維持しつつ，学会全体の話題性・専門性に連動した企画立案へと進化させている。

(2) 学生交流向け WG

オンラインセミナーを4回開催した。

・「（再放送）卒論・修論に向けた関連研究の調べ方」（11/26）参加者343名
・「（再放送）卒論・修論の追い込み方」（12/16）参加者110名
・「（再々放送）卒論・修論に向けた関連研究の調べ方」（12/22）参加者79名
・「全国大会の歩き方2026」（2/27）参加者67名

(3) 産業界向け WG

① 「賛助企業との交流会」を3回（8/7，10/10，12/18）開催し，参加者から好評を得た。また，10/10の開催はJISAとの共催を実施し，JISA会員の参加により参加者が230名と通常の2～4倍の人数となった。
② 各会の開催時には，本会の活動紹介スライドを流し企業の方々へ学会活動に興味を持ってもらえるよう訴求を行った。

(4) 情報発信 WG

SNS/Web/メール/情処ラジオ/ノベルティを統合しそれぞれ情報発信を行った。統合により複数のWGを掛け持ちしていたメンバーの負担は軽減される見込みである。

12.4　学会情報システム・DXの見直し

情報システム・DX委員会が主体となり，学会情報システムの見直しに加え，ハイブリッド時代に向けた事務局業務のBCP/DX化を推進した。

① 電子図書館については2024年度に新システム Weko3 に移行した情報学広場に関する一部の不具合改修等を行い安定稼働に努めた。また，クレジットカード決済の3D セキュア対応は2025年5月に開発を完了した。

② 支部Webサイトのシステム統合は，8支部中6支部について完了済みであったが，2025年度にさらに東北支部を統合完了した。

③ 2025年度の学会本部事務局移転にあわせて，事務局の事業継続性の強化策（BCP対策・事務局情報システム強化）としてサーバ類の冗長化ならびにオンプレミス・サーバのクラウド化の一部を実施し，オフィスLANへのリモートアクセス化を実施した。

12.5　著作権関連

著作権の利用許諾に関する対応などを行った。また，会誌・論文誌などの著作物における AI 利用の FAQ 案を検討・審議中である。

12.6　ダイバーシティへの取り組み

NPO 法人「女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト」へ賛助会員加入を継続した。また，「男女共同参画学協会連絡会」に正式加盟学協会会員として加入を継続した。また，2023 年度に ACM から本会へ依頼された DEI Award のノミネーションについて，本会として日本科学未来館 浅川智恵子氏を推薦した。2025 年度から名称変更したダイバーシティ委員会（旧 Info-WorkPlace 委員会）を中心に，働き方改革やダイバーシティへの取り組みに関する情報発信・情報共有に力を入れた。特に，情処発信ワーキンググループと連携し，「情処ラジオ」として，聞き流しが可能な音声による発信を継続した。テーマは，会員の疑問や進路の不安，人間関係，キャリア形成など，生き方全般を主に取り上げた。司会（ナビゲーター）がゲストの体験談や周りにいる人の話を聞いて，公開する形式で行った。また，2025 年 9 月の FIT2025， 2026 年 3 月の第 88 回全国大会において，イベント企画として「情処ラジオ」を実施し一部を YouTube（IPSJ 公式チャネル）で配信・公開した。11 月に機械学会とリケジョのためのキャリア・フォーラムを共催した。また，毎回の委員会の中で，各委員の近況を報告してもらい，身近にあるダイバーシティの課題を共有したり検討したりした。

12.7　その他表彰等

(1) 顕彰，名誉会員・フェローの選定など

功績賞，学会活動貢献賞の贈呈のほか，フェロー認定を行った。詳細は付録 5（P.45， P.48， P.49）に掲載する。また，本会では外部団体が主催する学術賞について，本学会内に選考 WG 等などを設け候補者を募集し，情報処理分野のみならず推薦を行った。主な賞は次の通り（日本学術振興会賞，日本学術振興会育志賞，電気科学技術奨励賞など）。

(2) 学会運営サポート

健全な法人運営のために，監査法人のほか弁護士，税理士，社労士，司法書士との顧問契約を継続している。

(3) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は 29 名（本部 22 名，規格 7 名）である。

※前年度参考 31 名

以上

付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

■総　会

[2025年度定時総会の構成（定款・法人法上の社員）]

総代表会員数：121名

※総会成立定数：61名　　*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項	会議結果
2025年度定時総会	<決議事項>	
(ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ参加型開催)	第1号議案: 2024年度に係る財務諸表等の件	承認
2025年6月11日	第2号議案: 新名誉会員の推薦の件	承認
議長：森本典繁（会長）	第3号議案: 一部役員の任期満了による新役員の選任の件	承認
出席：100名（内,委任状46名）	<報告事項>	
	第1号報告: 2025年度に係る計画等の件	報告
	第2号報告: 会費滞納会員の取り扱いの件	報告

■理事会

[第685回までの構成（理事28名）]

会　　長：森本典繁
副 会 長：田島　玲、砂原秀樹
先任理事：井上美智子、小野智弘、河合和哉、斉藤典明、櫻井祐子、首藤一幸、田村孝之、中山泰一、長谷川亘、湊　真一、吉濱佐知子
後任理事：稲見昌彦、大場みち子、緒方広明、鎌田真由美、岸　知二、木村朝子、高岡詠子、千葉直子、塚本昌彦、寺田　努、遠山紗矢香、山下直美
監　　事：中野美由紀、長谷川輝之

[第686回以降の構成（理事28名）]

会　　長：萩谷昌己
副 会 長：砂原秀樹、高橋克巳
先任理事：稲見昌彦、大場みち子、緒方広明、鎌田真由美、岸　知二、木村朝子、高岡詠子、千葉直子、塚本昌彦、寺田　努、遠山紗矢香、山下直美
後任理事：赤澤紀子、荒川　豊、河合和哉、河合由起子、斎藤彰宏、菅沼拓夫、寺岡秀敏、長谷川亘、森信一郎、矢野由紀子、山口弘純
監　　事：長谷川輝之、中山泰一

※理事会成立定数：14名（第685回まで）、14名（第686回以降）　　*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項　※［　］内：担当理事	会議の結果
決議の省略・報告の省略	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
2025年4月24日(監事確認日)	1. 2024年度会員数(3月)について[総務]	承認
議決可能理事数：全議案とも26名	2. 2025年度終身会員(4月)について[総務]	承認
	3. 2025年度支部運営委員構成について[総務]	承認
	4. 感謝状について[総務]	承認
	5. 国内会議への協賛･後援願いについて[総務]	承認
	6. 国際会議への協賛･後援願いについて[総務]	承認
	7. 育児休業等に関する規則の改訂について[総務]	承認
	8. 事務局職員「旅費規則」の改訂について[総務]	承認
	9. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催願い/終了報告[調査研究]	承認
	10. 研究会幹事委嘱について[調査研究]	承認
	11. 領域委員会財務委員交代について[調査研究]	承認
	12. 情報規格調査会委員の変更について[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年3月開催会議[総務]	確認
	2. 第22回日本学術振興会賞の推薦について[総務]	確認
	3. 2025年度支部報告会日程および担当役員について[総務]	確認
	4. 2024年度功績賞受賞者:推薦文等(案)について[総務]	確認
	5. 第312回会誌編集委員会議事録,会誌特集･巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌]	確認
	6. 第90回教科書編集委員会議事録[会誌]	確認
	7. 第101回調査研究運営委員会議事録[調査研究]	確認
	8. 第526回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	9. 第117回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	10. 第87回全国大会終了報告[事業]	確認
	11. 第116回資格制度運営委員会議事録[教育]	確認
	12. 第102回個人認証審査委員会議事録[教育]	確認
	13. 第430回規格役員会議事録[標準化]	確認

第684回理事会(ｵﾝﾗｲﾝ開催) 2025年4月28日 議長(代行)： 森本典繁(会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：19名	<承認事項> 1.1 2025年度定時総会の招集について 付.総会までのｽｹｼﾞｭｰﾙ[総務] 1.2 2025年度定時総会関係[総務･財務] (1) 2024年度事業報告 (2) 名誉会員の推薦 (3) 一部役員の任期満了による新役員の選任 (4) 2025年度事業計画 ※総会報告事項 (5) 2025年度予算 ※総会報告事項 (6) 会費滞納会員の扱い ※総会報告事項 1.3 ｾｷｭﾘﾃｨ委員会委員長の任期延長について[総務] 1.4 iPWS Cup 2024国際会議終了報告書[調査研究] <審議事項>(該当なし) <報告事項> 1. 2024年度末会員数状況[総務] 2. 2025年度定時総会以降の役員担当業務等(予定)[総務] 3. 第43回経営企画委員会議事録[総務] 4. 2024年度情報ｼｽﾃﾑ･DX委員会活動報告[総務] 5. 2024年度ﾃﾞｼﾞﾀﾙｺﾝﾃﾝﾂ事業委員会活動報告[総務] 参. 理事会ｱｸｼｮﾝｱｲﾃﾑﾘｽﾄ	 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2025年5月23日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2024年度事業報告[総務] 2. 2024年度財務諸表等[財務] 3. 2024年度監査報告書[総務･財務]	 承認 承認 承認
決議の省略・報告の省略 2025年5月30日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2025年4月の新規入会申請[総務] 2. 国内会議への協賛･後援願いについて[総務] 3. 国際会議への協賛･後援願いについて[総務] 4. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催願い/終了報告[調査研究] 5. 研究会幹事の委嘱について[調査研究] 6. 第87回全国大会大会優秀賞･大会奨励賞受賞候補者について[事業] 7. 情報処理教育委員会委員長の推薦について[教育] 8. 2025年度JIS案作成事業,原案共同作成事業に関わる契約締結[標準化] 9. 情報規格調査会委員の変更について[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2025年4月期開催会議[総務] 2. 第20回ｼﾞｭﾆｱ会員活性化委員会議事録[総務] 3. 第21回･第22回･第23回情報ｼｽﾃﾑ･DX委員会議事録[総務] 4. 第43回･第44回･第45回Info-WorkPlace委員会議事録[総務] 5. 第313回会誌編集委員会議事録,会誌特集･巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌] 6. 第527回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 7. 第118回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用] 8. 2024年度資格制度運営委員会報告[教育] 9. 第113回･第114回企業認定審査委員会議事録[教育] 10. 第117回･第118回資格制度運営委員会議事録[教育] 11. 第431回規格役員会議事録[標準化]	 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
第685回理事会(ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ開催) 2025年6月11日 議長：森本典繁(会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：22名	<承認事項>(該当なし) <審議事項>(該当なし) <報告事項> 1. 法令･定款による理事の職務執行状況報告(3月~5月)[総務] 2. 期末会計監査結果報告書:詳細(監査法人)[総務] 3. 2025年度定時総会以降の役員担当業務等(予定)[総務] 4. 第44回経営企画委員会議事録[総務] 5. 2024年度監事監査報告ならびに付帯意見[総務] 参. 理事会ｱｸｼｮﾝｱｲﾃﾑﾘｽﾄ	 確認 確認 確認 確認 確認 確認
第686回理事会(ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ開催) 2025年6月11日 議長：砂原秀樹(副会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：24名	<承認事項> 1. 代表理事(会長･副会長)および業務執行理事の選定	 承認
決議の省略・報告の省略 2025年6月30日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2025年5月の新規入会申請[総務] 2. 国内会議への協賛･後援願いについて[総務]	 承認 承認

	3. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催願い/終了報告[調査研究]	承認
	4. 情報規格調査会規程および規程実施細則の変更[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年5月期開催会議[総務]	確認
	2. 第314回会誌編集委員会議事録,会誌特集・巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌]	確認
	3. 第127回歴史特別委員会議事録[会誌]	確認
	4. 第528回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	5. 第119回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	6. 情報処理教育委員会(2024年度第6回)議事録[教育]	確認
	7. 第103回個人認証審査委員会議事録[教育]	確認
	8. 第115回企業認定審査委員会議事録[教育]	確認
	9. 第119回資格制度運営委員会議事録[教育]	確認
	10. 第432回規格役員会議事録[標準化]	確認
決議の省略・報告の省略 2025年7月25日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2025年6月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 会計規程の改訂について[総務]	承認
	3. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	4. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催願い[調査研究]	承認
	5. 情報規格調査会委員の変更[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年6月期開催会議[総務]	確認
	2. 2025年度ﾌｪﾛｰ・ﾏｲｸﾛｿﾌﾄ情報学研究賞・情報処理技術研究開発賞選定手順等について[総務]	確認
	3. 日本数学会ICM2030東京招致ｻﾎﾟｰﾄﾚﾀｰの依頼について[総務]	確認
	4. 第315回会誌編集委員会議事録,会誌特集・巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌]	確認
	5. 第102回調査研究運営委員会議事録[調査研究]	確認
	6. 第529回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	7. 第45回技術応用運営委員会・第40回ITﾌｫｰﾗﾑ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	8. 第120回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	9. 2025年度全国大会運営委員会・第88回全国大会ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ委員会・第1回合同委員会議事録[事業]	確認
	10. 第92回FIT運営委員会議事録[事業]	確認
	11. 2025年度第1回情報処理教育委員会議事録[教育]	確認
	12. 第116回企業認定審査委員会議事録[教育]	確認
	13. 第433回規格役員会議事録[標準化]	確認
第687回理事会(ｵﾝﾗｲﾝ開催) 2025年7月28日 議長：萩谷昌己(会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：22名	<承認事項>	
	1. 学会事務局本部の移転について[総務]	承認
	2. ASP-DAC 2027国際会議開催申請書[調査研究]	承認
	<審議事項>	
	1. 広く新しい情報処理ﾕｰｻﾞへのｱﾌﾟﾛｰﾁに関するｱﾝｹｰﾄ[総務]	継続検討
	<報告事項>	
	1. 第45･46回経営企画委員会議事録[総務]	確認
	2. 第24回広報広聴戦略委員会議事録[総務]	確認
	3. 2025年7月広告収入状況ならびに広告提供のお願い[会誌]	確認
	4. 第91回情報処理学会教科書編集委員会議事録[会誌]	確認
	5. 2025年度論文誌ｰｼﾞｬｰﾅﾙ・JIP・ﾄﾗﾝｻﾞｸｼｮﾝ(10誌)-掲載状況[論文誌]	確認
	参. 理事会ｱｸｼｮﾝｱｲﾃﾑﾘｽﾄ	確認
決議の省略・報告の省略 2025年8月30日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2025年7月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	3. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	4. 2025年度山下記念研究賞受賞候補者一覧[調査研究]	承認
	5. 2025年度上期CITP個人認証合格者承認依頼[教育]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年7月期開催会議[総務]	確認
	2. 2026年度役員・代表会員選挙日程[総務]	確認
	3. 各領域委員会報告[調査研究]	確認
	4. 第530回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	5. 2025年度全国大会運営委員会・第88回全国大会ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ委員会第2回合同委員会議事録[事業]	確認
	6. 第120回資格制度運営委員会議事録[教育]	確認
	7. 第104回個人認証審査委員会議事録[教育]	確認
決議の省略・報告の省略 2025年9月30日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2025年8月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 2026年度代表会員理事会推薦候補者(1次案)について[総務]	承認

	3. 2025年度ｼﾆｱ会員申請者の承認について[総務]	承認
	4. 育児・介護休業法の改正(2025年10月1日施行)に対応するための「就業規則」改訂について[総務]	承認
	5. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	6. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ開催願い[調査研究]	承認
	7. 小中高教員の論文誌教育とｺﾝﾋﾟｭｰﾀ(TCE)掲載料減免制度継続について[論文誌]	承認
	8. JIS規格等を利用した二次的著作物出版に関する覚書締結について[標準化]	承認
	9. 「JIS規格等著作物利用基本契約書」の電子契約に係る承認願い[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年8月期開催会議[総務]	確認
	2. 2025年度功績賞顕功賞,業績賞選定手続きについて[総務]	確認
	3. 「Professor David J.Farber永住権申請に関する推薦状」の発行依頼について[総務]	確認
	4. 第128回歴史特別委員会議事録[会誌]	確認
	5. 第121回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	6. 第88回全国大会ｽﾎﾟﾝｻｰWG議事録[事業]	確認
	7. 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)次世代科学技術ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ「情報学のﾄｯﾌﾟ才能からｴﾘｰﾄへｰ才能の発掘,接続,達人の養成-」報告[教育]	確認
	8. 高等学校卒業程度認定試験への「情報」追加に関する意見表明(報告)[教育]	確認
	9. 第105回個人認証審査委員会議事録[教育]	確認
	10. 第121回資格制度運営委員会議事録[教育]	確認
	11. 第434回規格役員会議事録[標準化]	確認
第688回理事会(ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ開催) 2025年10月24日 議長：萩谷昌己(会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：23名	<承認事項>	
	1. 情報処理教育委員会,初等中等教育委員会からの意見表明について[教育]	承認
	2. 次期会誌編集長について[会誌]	承認
	<審議事項>	
	1. 次の中期計画について「広く新しい情報処理ﾕｰｻﾞへのｱﾌﾟﾛｰﾁ」に関するｱﾝｹｰﾄ結果報告	継続検討
	<報告事項>	
	1. 理事の職務執行状況(6月~8月)[総務]	確認
	2. 2025年度会員状況(2025年9月現在)※同10月Web理事会提出済[総務]	確認
	3. 学会事務局本部移転完了報告[総務]	確認
	4. 第47,48回経営企画委員会議事録[総務]	確認
	5. 第25回広報広聴戦略委員会議事録[総務]	確認
	6. 第316回・317回会誌編集委員会議事録他+ﾓﾆﾀ評価[会誌]	確認
	参. 理事会ｱｸｼｮﾝｱｲﾃﾑﾘｽﾄ	確認
決議の省略・報告の省略 2025年10月31日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2025年9月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	3. 情報規格調査会委員の変更について[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年9月期開催会議[総務]	確認
	2. 2026年度役員候補被推薦者ﾘｽﾄについて[総務]	確認
	3. 2025年度7月支部長会議議事録[総務]	確認
	4. 2025年度東ﾚ研究助成推薦候補者について[総務]	確認
	5. 期中監査報告について[総務]	確認
	6. 第73回電気科学技術奨励賞の結果報告について[会誌]	確認
	7. 第92回情報処理学会教科書編集委員会議事録 [会誌]	確認
	8. 2026年度研究会登録費の算定について[調査研究]	確認
	9. 研究会/研究ｸﾞﾙｰﾌﾟの継続について[調査研究]	確認
	10. 第531回・第532回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	11. 第46回技術応用運営委員会・第41回ITﾌｫｰﾗﾑ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	12. 第122回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録 [技術応用]	確認
	13. 2025年度第2回情報処理教育委員会議事録[教育]	確認
	14. 第122回資格制度運営委員会議事録[教育]	確認
	15. 第106回個人認証審査委員会議事録[教育]	確認
	16. 第118回企業認定審査委員会議事録[教育]	確認
	15. 第435回規格役員会議事録[標準化]	確認
第689回理事会(ｵﾝﾗｲﾝ開催) 2025年11月21日 議長：萩谷昌己(会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：22名	<承認事項>	
	1. 2026年度理事会推薦役員候補者立候補依頼順位[総務]	承認
	2. 2025年度情報処理技術遺産認定候補[会誌]	承認
	3. ASP-DAC2025国際会議終了報告書[調査研究]	承認
	<審議事項>	
	1. 2026年度予算編成方針/2026年度事業計画・予算・2025年度事業報告提出依頼[経営企画]	承認
	<報告事項>	
	1. 新名誉会員・学会活動貢献賞ほか:推薦のお願い[総務]	確認

	2. 第49回経営企画委員会議事録[総務]	確認
	3. 第26回広報広聴戦略委員会議事録[総務]	確認
	4. 第103回調査研究運営委員会・3領域合同委員会議事録[調査研究]	確認
	参. 理事会ｱｸｼｮﾝｱｲﾃﾑﾘｽﾄ	確認
決議の省略・報告の省略 2025年12月1日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2025年10月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	3. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	4. 賃金規則の改訂について[総務]	承認
	5. 国際会議助成金申請に関する推薦書ご協力のお願い(MobiQuitous 2026) [総務]	承認
	6. 国際会議助成金申請に関する推薦書ご協力のお願い(AIoTSys2026)[総務]	承認
	7. 最高裁推薦ﾘｽﾄ[総務]	承認
	8. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の終了報告[調査研究]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年10月期開催会議[総務]	確認
	2. 第24回情報ｼｽﾃﾑ・DX委員会議事録[総務]	確認
	3. 著作権委員会議事録[総務]	確認
	4. 第1回・第2回ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ委員会議事録[総務]	確認
	5. 第318回会誌編集委員会議事録,会誌特集・巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌]	確認
	6. 2026年度研究会登録費の改定について[調査研究]	確認
	7. 第533回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	8. FIT2025学術賞選定委員会議事録[事業]	確認
	9. 第1回・第2回FIT2026船井業績賞選定委員会[事業]	確認
	10. 第93回FIT運営委員会議事録[事業]	確認
	11. 2025年度第3回情報処理教育委員会議事録[教育]	確認
12月役員検討会(ｵﾝﾗｲﾝ開催) 2025年12月19日 議長：萩谷昌己(会長) 出席：役員・支部長	<ﾃｰﾏ>	
	1. 各支部の状況報告および意見交換	確認
	2. ﾃｰﾏ意見交換	
	(1) 中高生情報学研究ｺﾝﾃｽﾄ~ﾌﾞﾛｯｸ大会制導入3年目を迎えて~	確認
	(2) 第9期ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰﾎﾞｰﾄﾞ座長総括[学会員を増やす取り組み]会員増施策	確認
決議の省略・報告の省略 2025年12月26日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2025年11月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	3. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	4. 学会監修書籍「生成AIによるｿﾌﾄｳｪｱ開発」の中国本土での翻訳出版について[会誌]	承認
	5. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催願い/終了報告[調査研究]	承認
	6. 情報規格調査会委員の変更[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年11月期開催会議[総務]	確認
	2. 第50回経営企画委員会議事録[総務]	確認
	3. 第10期ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰﾎﾞｰﾄﾞ議事録[総務]	確認
	4. 第319回会誌編集委員会議事録,会誌特集・巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌]	確認
	5. 第1回論文賞選定委員会(ｼﾞｬｰﾅﾙ)議事録[論文誌]	確認
	6. 第534回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	7. 第123回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	8. FIT2026担当委員会兼ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ委員会議事録[事業]	確認
	9. 第119回企業認定審査委員会議事録[教育]	確認
	10. 第123回資格制度運営委員会議事録[教育]	確認
	11. 第436回/第437回規格役員会議事録[標準化]	確認
決議の省略・報告の省略 2026年1月29日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2025年12月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 2026年度役員選挙理事会推薦最終候補者[総務]	承認
	3. 2026年度代表会員最終候補者[総務]	承認
	4. 2026年度支部予算配分額[総務]	承認
	5. 感謝状受領/学会活動貢献賞の選定について[総務]	承認
	6. 2025年度ﾏｲｸﾛｿﾌﾄ情報学研究賞/情報処理技術研究開発賞について[総務]	承認
	7. 2026年IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Awardについて[総務]	承認
	8. 2026年IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research について[総務]	承認
	9. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	10. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	11. 日本工学会ﾌｪﾛｰ候補者の推薦について[総務]	承認
	12. 一般社団法人日本IT団体連盟10周年記念式典・祝賀会への協賛金協力のお願いについて[総務]	承認

	13. 北陸支部運営規約改訂について[総務]	承認
	14. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催願い[調査研究]	承認
	15. SC29国際会議積立資産について[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2025年12月開催会議[総務]	確認
	2. 第320回会誌編集委員会議事録,会誌特集・巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌]	確認
	3. 第47回技術応用運営委員会・第42回ITﾌｫｰﾗﾑ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	4. 第124回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	5. 第94回FIT運営委員会議事録[事業]	確認
	6. 第1回FIT2026ｽﾎﾟﾝｻｰWG議事録[事業]	確認
	7. 第124・125回資格制度運営委員会議事録[教育]	確認
	8. 第107回個人認証審査委員会議事録[教育]	確認
	9. 第438回規格役員会議事録[標準化]	確認
第690回理事会(ｵﾝﾗｲﾝ開催) 2026年1月29日 議長：萩谷昌己(会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：21名	<承認事項>	
	1. 名誉会員の推薦について[総務]	承認
	2. 事務局長の任期延長について[総務]	承認
	3. 会誌副編集長就任について[会誌]	承認
	4. 2025年度技術者教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ認定審査業務契約書(案)[教育]	承認
	<審議事項>	
	1. 事業計画・予算ほか[総務・財務]	
	(1) 2026年度事業計画(1次)・2025年度事業報告(1月現在)	継続検討
	(2) 2026年度予算(1次)・2025年度決算見込(1月現在)	継続検討
	2. 中期計画の評価と今後の計画について[総務]	承認
	<報告事項>	
	1. 法令・定款による理事の職務執行状況報告(9月~11月)[総務]	確認
	2. 2025年度会員状況(2025年12月現在)[総務]	確認
	3. APAC設立ｲﾍﾞﾝﾄに関する報告について[総務]	確認
	4. 第50回・第51回経営企画委員会議事録[総務]	確認
	5. 第27回広報広聴戦略委員会議事録[総務]	確認
	6. 第93回教科書編集委員会議事録+覚書+採用販売数[会誌]	確認
	7. 第39回IFIP委員会議事録[調査研究]	確認
	8. 2025年度論文誌論文掲載状況[調査研究]	確認
	9. 第535回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録[論文誌]	確認
	10. 連続ｾﾐﾅｰ2025開催終了報告[技術応用]	確認
	11. ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ活動報告[事業]	確認
	参. 理事会ｱｸｼｮﾝｱｲﾃﾑﾘｽﾄ	確認
決議の省略・報告の省略 2026年2月27日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2026年1月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	3. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務]	承認
	4. 2025年度情報処理学会ﾌｪﾛｰ候補者の選定について[総務]	承認
	5. JMOOC 業務受託契約について[総務]	承認
	6. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催願い/終了報告[調査研究]	承認
	7. 2025年度第2回CITP個人認証合格者承認依頼[教育]	承認
	8. 2025年度認定情報技術者企業認定承認依頼[教育]	承認
	9. 情報規格調査会委員の変更[標準化]	承認
	10. JIS_Q_38500s規格説明会の後援について[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2026年1月開催会議[総務]	確認
	2. 第321回会誌編集委員会議事録,会誌特集・巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌]	確認
	3. 第129回歴史特別委員会議事録[会誌]	確認
	4. 第536回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	5. 2025年度第2回論文賞選定委員会(ｼﾞｬｰﾅﾙ)議事録[論文誌]	確認
	6. 第125回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	7. 第95回FIT運営委員会ﾒｰﾙ審議議事録[事業]	確認
	8. 第2回FITﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ委員会議事録[事業]	確認
	9. 第2回FIT2026ｽﾎﾟﾝｻｰWG議事録[事業]	確認
	10. 第126回資格制度運営委員会議事録[教育]	確認
	11. 第108回個人認証審査委員会議事録[教育]	確認
	12. 第120回企業認定審査委員会議事録[教育]	確認
	13. 第439回規格役員会議事録[標準化]	確認
決議の省略・報告の省略 2026年3月27日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項>	
	1. 2026年2月の新規入会申請[総務]	承認
	2. 2025年度業績賞について[総務]	承認

	3. ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰﾎﾞｰﾄﾞﾒﾝﾊﾞｰの交代について[総務]	承認
	4. 国内会議への協賛･後援願いについて[総務]	承認
	5. 国際会議への協賛･後援願いについて[総務]	承認
	6. ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の開催願い/終了報告[調査研究]	承認
	7. 研究会主査･幹事の交代について[調査研究]	承認
	8. 2025年度論文賞について[論文誌]	承認
	9. 2025年度中高生情報学研究ｺﾝﾃｽﾄからの若手奨励賞受賞候補者について[教育]	承認
	10. 2025年度優秀教材賞[教育]	承認
	11. 情報規格調査会委員の変更[標準化]	承認
	12. 情報技術標準化関連機関への登録について[標準化]	承認
	<法令および定款により理事会報告があったものとする事項>	
	1. 2026年2月開催会議[総務]	確認
	2. 日本学術会員候補者の推薦について[総務]	確認
	3. 第322回会誌編集委員会議事録,会誌特集･巻頭ｺﾗﾑ一覧,理事からのﾒｯｾｰｼﾞ[会誌]	確認
	4. 各領域委員会報告(議事録抜粋)[調査研究]	確認
	5. 著作権に関する覚書について[調査研究]	確認
	6. 第537回論文誌ｼﾞｬｰﾅﾙ/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌]	確認
	7. ﾄﾗﾝｻﾞｸｼｮﾝ編集委員長･副委員長の交代[論文誌]	確認
	8. ﾄﾗﾝｻﾞｸｼｮﾝ編集細則改訂について[論文誌]	確認
	9. 第48回技術応用運営委員会/第43回ITﾌｫｰﾗﾑ推進委員会合同委員会議事録[技術応用]	確認
	10. 第126回ｾﾐﾅｰ推進委員会議事録[技術応用]	確認
	11. 2025年度CITP個人認証資格更新者報告[教育]	確認
	12. 第109回個人認証審査委員会議事録[教育]	確認
	13. 第121回企業認定審査委員会議事録[教育]	確認
	14. 第440回規格役員会議事録[標準化]	確認
第691回理事会(ｵﾝﾗｲﾝ開催) 2026年3月30日 議長：萩谷昌己(会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：24名	<承認事項>	
	1. 2025年度功績賞の選定[総務]	承認
	2. 委員長等の任期延長･交代(ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ委員会･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ幹事会)[総務]	承認
	3. IWSEC2025国際会議終了報告書[調査研究]	承認
	4. 2025年度ソフトウエアジャパンアワード受賞候補者について[技術応用]	承認
	5. 規格マネージャの任期延長について[標準化]	承認
	<審議事項>	
	1. 事業計画･予算ほか	
	(1) 2026年度事業計画(最終)･2025年度事業報告(3月現在)[各理事]	承認
	(2) 2026年度予算(最終)･2025年度決算見込(3月現在)[財務]	承認
	2. eduroam（国際無線LAN協力機構）の提供に関する提案[総務]	継続検討
	<報告事項>	
	1. 2026年度役員・代表会員選挙結果[総務]	確認
	2. 定時総会までのｽｹｼﾞｭｰﾙ[総務]	確認
	3. 法令･定款による理事の職務執行状況報告(12月~2月)[総務]	確認
	4. 中期計画の評価と今後の計画について[総務]	確認
	5. 第52回・第53回経営企画委員会議事録[総務]	確認
	6. 第28回広報広聴戦略委員会議事録[総務]	確認
	7. 2025年度会誌広告状況および広告出稿依頼[会誌]	確認
	8. 第104回調査研究運営委員会議事録[調査研究]	確認
	9. 連続ｾﾐﾅｰ2026開催案[技術応用]	確認
	10. ITﾌｫｰﾗﾑ2026終了報告[技術応用]	確認
	11. IPSJ･TTC共催ｾﾐﾅｰ開催報告[標準化]	確認
	参. 理事会ｱｸｼｮﾝｱｲﾃﾑﾘｽﾄ	確認

■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査，〇副委員長・財務委員，幹事・副査，△担当理事（担務）、＊オブザーバ，アドバイザ委員

1. 法人運営

1.1 経営企画委員会（兼 倫理委員会）

◎/△砂原秀樹、〇/△高橋克巳、〇/△鎌田真由美、〇/△千葉直子、△寺岡秀敏、△山口弘純、△大場みち子、△寺田　努、
△塚本昌彦、△菅沼拓夫

［4月25日、5月30日、6月30日、7月16日、9月16日、10月17日、11月14日、12月12日、'26年1月23日、2月27日、3月23日］
学会運営全般／総会関連事項／損益状況／倫理関係／中長期戦略関係／アドバイザリーボード関係／その他運営上の諸課題など

1.1.1 本部・規格連絡会

◎高橋克巳、〇/△河合和哉、〇山口弘純、△寺岡秀敏、鎌田真由美、千葉直子、〇関　喜一、伊藤雅樹、河内清人、落合真一、
田丸健三郎、福田昭一、山本英朗、深澤　彰

［1月21日］　本部・規格調査会間の連絡

1.2 広報広聴戦略委員会

◎/△砂原秀樹、〇/△高橋克巳、〇井上創造、〇辰己丈夫、〇/△塚本昌彦、〇/△菅沼拓夫、△鎌田真由美、△千葉直子、
△高岡詠子、△大場みち子、△寺田　努、関　喜一、△山下直美、畑田祐二

［7月15日、9月16日、11月14日、'26年1月23日、3月23日］
広報活動／マーケティング活動／営業活動／提言活動／対外的情報発信など

1.3 情報システム・DX委員会（情報システム委員会より名称変更）

◎千葉 直子、〇山口 弘純、鎌田 真由美、 寺岡 秀敏、西村浩二

［7月14日、26年1月15日］　情報システムに関する諸対応

1.3.1 セキュリティ委員会

◎西村浩二、大谷和子、鎌田真由美、佐々木良一、△千葉 直子、寺岡 秀敏、寺田真敏、丸山　宏、△山口 弘純

［電子メールベース］　情報セキュリティに関する諸対応

1.4 著作権委員会

◎高岡 詠子 、 矢野 由紀子、天野 真家、稲見 昌彦、大谷 和子、緒方 広明、 鎌田 真由美、河合 由起子、岸 知二、森 信一郎、山下 直美

［電子メールベース］　知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

1.5 ダイバーシティ委員会

◎井上 創造、〇遠山 紗矢香、赤澤 紀子、 荒川 豊、太田 智美、大場 みち子、木塚 あゆみ、 木村 朝子、斎藤 彰宏、櫻井 祐子、
△高岡 詠子、高橋 尚子、中野 美由紀、中山 泰一、野田 夏子、湊 真一、 △矢野 由紀子、山下 直美、吉濱 佐知子

［5月13日、7月10日、9月1日、11月19日、26年1月26日、3月16日］　働き方に関する取り組みを実施する+A135

1.6 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△ 砂原 秀樹、 〇稲見 昌彦、 〇岸 知二、河合 由起子、木村 朝子、蔵川 圭、 高岡 詠子、 千葉 直子、 森 信一郎、
水野 慎士、山下 直美

デジタルコンテンツ事業の推進

1.6.1 ビデオコンテンツWG

◎辰己丈夫、 砂原 秀樹 、五十嵐 悠紀、中野 由章、阪田 史郎 、岸 知二、山下 直美

［電子メールベース］　　デジタルコンテンツ事業の推進

1.7 支部長会議

◎/△萩谷昌己、△砂原秀樹、△高橋克巳、△鎌田真由美、△千葉直子、△寺岡秀敏、△山口弘純
各支部長：野田五十樹（北海道）、羽生貴弘（東北）、池田雅弘（東海）、井口 寧（北陸）、西尾信彦（関西）、西山正志（中国）、
高田直樹（四国）、下川俊彦（九州）

［7月28日、12月19日（役員検討会）、'26年3月30日］　本部-支部の意見交換

1.8 アドバイザリーボード

◎木村康則、石戸奈々子、内山英俊、後藤滋樹、篠原弘道、田中邦裕、長尾和彦、福原利信、ランドバーグ史枝、若江雅子

［11月6日］　第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

2. 調査研究活動

2.1 調査研究運営委員会

◎/△岸　知二、○/△緒方広明、○/△森信一郎、鵜林尚靖、太田　賢、田中清史、戸田智基、西田知博

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2025年7月1日	1. 2025年度委員構成確認	確認
	2. シンポジウム等の終了報告の提出遅れについて	確認
	3. 2026年共通費について	承認⇒　各領域・研究会に提案
	4. 2026年度シンポジウム事務諸費等について	承認⇒　各領域・研究会に提案
	5. 2024年度監事監査報告ならびに付帯意見	確認
	6. 2024年度調査研究活動状況および決算報告	確認
	7. 2025年度調査研究活動計画	確認
2025年10月3日	1. 中高生情報学研究コンテスト審査への協力について	承認
(調研･3領域合同)	2. 研究会グループの継続について	承認⇒　理事会報告
	3. 2026年度研究会登録費算定方法	承認⇒　理事会報告
	4. 入会に結びつけるための広報戦略について	審議
	5. 研究会／研究グループの継続について	承認⇒　理事会報告
	6. 国内シンポジウム・国際会議 進捗確認	確認
	7. 2025年度調査研究／トランザクション活動状況	確認
	8. 各賞の推薦募集について	確認
2026年3月23日	1. 情報保障への補助について	確認・承認
	2. 若手研究者招待講演謝金補助について	確認・承認
	3. 入会に結びつけるための広報戦略について	審議
	4. アンチハラスメントポリシー／行動規範について	審議
	5. 領域委員会報告	確認
	6. シンポジウム・国際会議の終了報告の提出について	確認
	7. 2025年度事業報告／2026年度事業計画	確認
	8. 2025年度活動状況／2026年度計画	確認
	9. 第39回IFIP委員会報告	確認
	10. 研究会活動貢献賞について	確認

2.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎△岸　知二、○田中清史、伊原彰紀、小野寺民也、片桐孝洋、金本俊幾、菅谷みどり、津邑公暁、
中島伸介、広渕崇宏、森畑明昌、渡邉真也

2025年7月10日	領域共通-1. 2025年度委員構成確認	確認
	領域共通-2. シンポジウム等の終了報告の提出遅れについて	確認
	領域共通-3. 2025年度山下記念研究賞	選定⇒　理事会提案
	領域共通-4. 2026年度共通費について	承認
	領域共通-5. 2026年度シンポジウム事務諸費について	承認
	領域共通-6. 理事候補者の選出について	確認
	領域共通-7. 2024年度監事監査報告ならびに付帯意見	確認
	領域共通-8. 2024年度調査研究活動状況および決算報告	確認
	領域共通-9. 2025年度調査研究活動計画	確認
2025年10月3日	調査研究運営委員会に同じ。	
(調研･3領域合同)		
2026年3月13日	領域共通-1. 領域委員長・財務委員について	確認・承認
	領域共通-2. 入会に結びつけるための広報戦略について	審議
	領域共通-3. シンポジウム・国際会議の終了報告の提出について	確認
	領域共通-4. 2025年度事業報告／2026年度事業計画	確認
	領域共通-5. 2025年度活動状況／2026年度計画	確認
	領域共通-6. 第39回IFIP委員会報告	確認
	領域共通-7. 研究会活動貢献賞について	確認

2.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△森信一郎、○太田　賢、荒川　豊、居駒幹夫、石原　進、小川剛史、梶　克彦、柏崎礼生、金沢輝一、
坂本大介、島岡政基、菅沼　明、菅沼拓夫、藤波香織、本田新九郎、森　達哉、山田和範

[7月11日、10月3日(調研・3領域合同)、'26年3月12日]　コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

2.4　メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎△緒方広明、○戸田智基、小向太郎、佐藤健吾、篠崎隆宏、島田敬士、須藤克仁、田中正行、堤　智昭、
長瀧寛之、西田昌史、福田直樹、松崎公紀、松下光範、松原　仁、松原正樹、森島繁生

［7月24日、10月3日(調研・3領域合同)、'26年2月26日］　コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3. 人材育成活動

3.1　情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる）　※傘下の委員会は掲載略

◎中野 由章、●高岡 詠子、○稲葉 利江子、○中山 泰一、△遠山 紗矢香、△赤澤 紀子、井手 広康、稲垣 知宏、植原 啓介、
大場 みち子、大屋 隆生、柿崎 淑郎、筧 捷彦、河野 浩之、斎藤 俊則、高田 眞吾、辰己 丈夫、谷 聖一、千田 栄幸、寺元 貴幸、
中谷 多哉子、長瀧 寛之、西 直樹、野々村 琢人、坂東 宏和、松澤 芳昭、山口 泰、吉川 正俊、吉野 松樹、鷲崎 弘宜

［5月20日、7月16日、9月16日、11月19日、'26年1月23日、3月24日］
JABEE対応／情報学分野の参照基準／次期学習指導要領改訂／免許更新講習／認定情報技術者制度/傘下の小委員会報告ほか

4. 学術講習活動

4.1　事業運営委員会

◎△木村 朝子、●△荒川 豊、森 信一郎

［電子メールベース］　全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

4.2　全国大会運営委員会　※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎砂原 秀樹、●△木村 朝子、△荒川 豊、岸 知二、小林 真也、檀 裕也

［7月2日、8月6日］　全国大会の運営・開催推進

4.3　FIT運営委員会　※実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎砂原 秀樹、●篠田 浩一、○北岡 教英、高橋 克巳、△木村 朝子、△荒川 豊、森 信一郎、緒方 広明、内田 誠一、牛久 祥孝、
北岡 教英、高橋 桂太、川西 康友、渡邊 良亮、並木 正信、石井 雅博、小木曽 里樹、中山 泰一

［5月13日（メール審議）6月20日、10月31日、'26年1月9日］　FITの運営・開催推進

4.4　プログラミング・シンポジウム幹事会　※運営委員会は掲載略

◎松崎公紀、鵜川始陽、中山心太、丸山一貴、八木原勇太、渡辺勇士、石畑清、川端 英之、荒川 淳平

［9月17日、9月29日、10月23日、11月4日、12月9日、'26年1月20日］　夏のプロシン／若手の会／冬のプロシンの開催推進

4.5　技術応用運営委員会

◎田島玲、○高橋克己、○/△山下直美、△斎藤彰宏、寺岡秀敏、山口弘純、菅沼拓夫、西直樹、菊池修、長坂健治、関口俊一、
小川秀人、小山敏之、木下泰三

［1月7日、3月5日、7月4日、10月17日、12月25日、2月24日 ほか電子メールベース］　技術応用活動全体の調整・推進

4.6　ITフォーラム推進委員会

◎/△山下直美、○/△斎藤彰宏、諏訪良武、千葉広宣、赤根大吾

［1月7日、3月5日、7月4日、10月17日、12月25日 、2月24日ほか電子メールベース］　ITフォーラムの運営・開催

4.7　セミナー推進委員会

◎/△山下直美、○/△斎藤彰宏、吉濱佐知子、小川秀人、鎌田真由美、田島玲、北村操代、齋藤正史、浦本直彦、中野美由紀、
平山敏弘、福島俊一、稲葉利江子、吉田葵

［1月22日、2月21日、3月28日、4月28日、6月4日、7月4日、9月10日、10月17日、11月28日、12月24日、1月29日、2月20日、3月24日］
連続セミナー・短期集中セミナーの開催推進

5. 会誌／出版活動

5.1　会誌編集委員会

◎五十嵐悠紀、○欅惇志、○高橋尚子、○福地健太郎、△高岡詠子、△矢野由紀子、安部麻里、浦西友樹、木村朝子、斎藤彰宏、
斉藤佳介、斎藤俊則、坂庭秀紀、櫻井祐子、白井穂乃、末永高志、須川賢洋、辰己丈夫、田中宏、寺西勇、照屋大地、中澤里奈、
西原翔太、松原仁、三重野琢也、吉見憲二

［4月3日、5月7日、6月3日、7月9日、9月11日、10月9日、11月7日、12月12日、'26年1月7日、2月13日、3月9日］
全回共通：会誌の編集刊行

5.2　出版委員会

△高岡詠子、△矢野由紀子

［電子メールベース］　実務書の出版企画に関する検討

5.2.1　教科書編集委員会

◎阪田史郎、○菊池浩明、△高岡詠子、△矢野由紀子、石井一夫、岩崎英哉、小林健一、駒谷昇一、斉藤典明、高橋尚子、辰己丈夫、
田名部元成、中島　毅

［4月11日、7月14日、10月3日、12月24日、3月31日］　教科書シリーズの刊行に関する検討

5.2.2　歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎橋爪宏達、○旭　寛治、△高岡詠子、△矢野由紀子、宇田　理、小橋喜嗣、喜多千草、高橋尚子、高橋義雄、前島正裕、＊前山和喜

［6月16日、9月16日、'26年1月19日］
コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の調査ほか

6. 論文誌活動

6.1　論文誌運営委員会

◎/△稲見昌彦、△河合由起子、△緒方広明、△岸 知二、△森 信一郎

［電子メールベース］　論文誌全体に関する諸課題の対応

6.2　論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎柏崎礼生、○/△河合由起子、○岸野泰恵、○高野 諒、○角田雅照、○畑島 隆、宇田隆哉、佐野渉二、寺岡秀敏、西岡千文、
橋本泰一、藤本まなと、松村耕平、吉仲 亮

［4月1日、5月12日、6月4日、7月2日、8月6日、9月9日、10月7日、11月11日、12月9日、'26年1月13日、2月3日、3月11日］
全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

6.3　JIP編集委員会（幹事会）

◎井上美智子、○/△稲見昌彦、ほか「6.2 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ、
＊Adam KOZYNIAK、＊Monica CARLY、＊Robert DELANEY、＊Sylvain KAMDEM、
（海外編集委員）Raymond WAI-MAN PANG（香港）

［4月1日、5月12日、6月4日、7月2日、8月6日、9月9日、10月7日、11月11日、12月9日、'26年1月13日、2月3日、3月11日］
全回共通：JIPの編集刊行

6.4　トランザクション運営委員会

◎/△稲見昌彦、井上美智子、石原　亨、緒方広明、尾崎友哉、金沢輝一、佐藤健吾、庄野　逸、
辻美和子、中島伸介、宮下健輔、森畑明昌、吉田尚史、義久智樹

［電子メールベース］　トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

7. 標準化活動

7.1　情報規格調査会（規格役員会）

◎/△河合和哉、○関喜一、△山口弘純、相薗敏子、河内清人、田中博紀、田丸健三郎、深澤良彰、山本英朗

［4月14日、5月12日、6月9日、7月7日、9月8日、10月6日、11月17日、12月15日、'26年1月14日、2月9日、3月9日］
規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

8. 国際活動

8.1　IFIP委員会

☆越前　功、◎/△緒方広明、○/△岸　知二、○/△森信一郎、廣川　直、五十嵐淳、斎藤俊則、
村山優子、井上真杉、石井一夫、松澤芳昭、小向太郎、金川信康、越前　功、栗原　聡、北村喜文、山西良典、掛下哲郎、櫻井茂明

［11月19日］　IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2025meibo.html

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

［研究会等の詳細］

研究会等の名称（（ ）内：英略称、＊：研究グループ）	主査名（運営委員数）	登録者数
［コンピュータサイエンス領域］		
データベースとデータサイエンス（DBS）	中島伸介 (40)	284
ソフトウェア工学（SE）	伊原彰紀 (37)	382
システム・アーキテクチャ（ARC）	津邑公暁 (26)	230
システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS）	広渕崇宏 (29)	237
システムとLSIの設計技術（SLDM）	金本俊幾 (27)	207
ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）	片桐孝洋 (40)	431
プログラミング（PRO）	森畑明昌 (25)	218
アルゴリズム（AL）	小野廣隆 (21)	163
数理モデル化と問題解決（MPS）	渡邉真也 (18)	197
組込みシステム（EMB）	菅谷みどり (22)	157
量子ソフトウェア（QS）	小野寺民也 (22)	204
［情報環境領域］		
マルチメディア通信と分散処理（DPS）	菅沼拓夫 (25)	242
ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）	坂本大介 (37)	383
情報システムと社会環境（IS）	居駒幹夫 (24)	156
情報基礎とアクセス技術（IFAT）	金沢輝一 (6)	77
コラボレーションとネットワークサービス（CN）	本田新九郎 (26)	198
ドキュメントコミュニケーション（DC）	菅沼　明 (7)	39
モバイルコンピューティングと新社会システム（MBL）	荒川　豊 (28)	180
コンピュータセキュリティ（CSEC）	森　達哉 (48)	610
高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS）	石原　進 (32)	135
ユビキタスコンピューティングシステム（UBI）	藤波香織 (34)	205
インターネットと運用技術（IOT）	柏崎礼生 (52)	363
セキュリティ心理学とトラスト（SPT）	島岡政基 (18)	138
コンシューマ・デバイス＆システム（CDS）	梶　克彦 (36)	198
デジタルコンテンツクリエーション（DCC）	小川剛史 (19)	108
高齢社会デザイン（ASD）	山田和範 (18)	58
［メディア知能情報領域］		
自然言語処理（NL）	須藤克仁 (38)	363
知能システム（ICS）	福田直樹 (17)	105
コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）	田中正行 (47)	443
コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学（CG）	森島繁生 (19)	159
コンピュータと教育（CE）	長瀧寛之 (38)	511
人文科学とコンピュータ（CH）	堤　智昭 (27)	267
音楽情報科学（MUS）	松原正樹 (24)	272
音声言語情報処理（SLP）	篠崎隆宏 (24)	160
電子化知的財産・社会基盤（EIP）	小向太郎 (18)	121
ゲーム情報学（GI）	松崎公紀 (21)	182
エンタテインメントコンピューティング（EC）	松下光範 (23)	201
バイオ情報学（BIO）	佐藤健吾 (14)	115
教育学習支援情報システム（CLE）	島田敬士 (22)	208
アクセシビリティ（AAC）	西田昌史 (13)	76
スポーツ情報学（SI）	松原　仁 (4)	52
*ネットワーク生態学（NE）	田中　敦 (--)	---
*会員の力を社会につなげる（SSR）	筧　捷彦 (--)	---
*情報処理に関する法的問題（LIP）	高岡詠子 (--)	---

［調査研究運営委員会］		
*ビッグデータビジネス利活用（PBD）	石井一夫　　(--)	---

1. 研究発表会（調査研究活動分）

1.1　コンピュータサイエンス領域

1.1.1　データベースとデータサイエンス研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第181回	2025年9月16日～18日	アクトシティ浜松	64	121	電子情報通信学会
第182回	2025年12月19日	奈良先端科学技術大学院大学/オンライン開催	19	56	電子情報通信学会

1.1.2　ソフトウェア工学研究発表会

第220回	2025年7月15日～17日	札幌市教育文化会館/オンライン開催	36	89	電子情報通信学会
第221回	2025年11月24日～25日	東大寺 総合文化センター/オンライン開催	17	39	
第222回	2026年3月9日～10日	東京科学大学/オンライン開催	25	77	

1.1.3　システム・アーキテクチャ研究発表会

第253回	2025年6月9日～11日	猪苗代観光ホテル/オンライン開催	40	57	電子情報通信学会
第254回	2025年8月4日～5日	サンポートホール高松/オンライン開催	38	97	電子情報通信学会
第255回	2025年12月15日～16日	沖縄産業支援センター/オンライン開催	22	122	電子情報通信学会
第256回	2026年3月15日～17日	サン・オリーブ/オンライン開催	77	107	電子情報通信学会

1.1.4　システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第167回	2025年5月21日～22日	沖縄県男女共同参画センター/オンライン開催	13	56	
第168回	2025年8月4日～5日	サンポートホール高松/オンライン開催	16	99	
第169回	2025年9月25日～26日	青森県観光物産館アスパム/オンライン開催	17	94	
第170回	2026年2月16日～17日	京都大学/オンライン開催	18	51	

1.1.5　システムとLSIの設計技術研究発表会

第206回	2025年11月4日	キャンパスプラザ京都	20	29	
第207回	2025年12月1日～3日	富山国際会議場	56	130	電子情報通信学会
第208回	2026年3月15日～17日	サン・オリーブ/オンライン開催	77	107	電子情報通信学会

1.1.6　ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第199回	2025年5月12日	東京大学/オンライン開催	10	103	
第200回	2025年8月4日～5日	サンポートホール高松/オンライン開催	36	259	
第201回	2025年9月29日	金沢商工会議所	9	76	
第202回	2025年12月15日～16日	沖縄産業支援センター/オンライン開催	22	122	電子情報通信学会
第203回	2026年3月16日～18日	北海道大学/オンライン開催	84	303	

1.1.7　プログラミング研究発表会

第154回	2025年6月12日～13日	オンライン開催	7	62	
第155回	2025年8月4日～5日	サンポートホール高松/オンライン開催	8	73	
第156回	2025年11月6日～7日	東京科学大学	8	66	
第157回	2026年1月20日～21日	秋田拠点センターALVE/オンライン開催	15	71	
第158回	2026年3月17日～18日	オンライン開催	9	50	

1.1.8　アルゴリズム研究発表会

第203回	2025年5月7日～8日	九州大学	11	74	電子情報通信学会
第204回	2025年9月4日	北海道科学大学/オンライン開催	8	42	電子情報通信学会
第205回	2025年11月13日～14日	オビヤギルド/オンライン開催	24	49	電子情報通信学会
第206回	2026年1月13日～14日	大濱信泉記念館/オンライン開催	20	87	併催：人工知能学会
第207回	2026年3月9日	岡山大学	12	30	

1.1.9　数理モデル化と問題解決研究発表会

第153回	2025年6月21日～23日	琉球大学	63	121	電子情報通信学会
第154回	2025年7月21日	ラスベガス	11	13	
第155回	2025年12月15日～16日	オンライン開催	21	39	
第156回	2026年3月18日～19日	東京科学大学	25	52	

1.1.10　組込みシステム研究発表会

第69回	2025年7月11日	東京大学/オンライン開催	4	21	
第70回	2025年11月20日～21日	パシフィコ横浜/オンライン開催	18	35	
第71回	2026年3月15日～17日	サン・オリーブ/オンライン開催	77	107	電子情報通信学会

1.1.11　量子ソフトウェア研究発表会

第15回	2025年6月26日～27日	電気通信大学/オンライン開催	19	109	
第16回	2025年10月23日～24日	産業技術総合研究所/オンライン開催	21	127	
第17回	2026年3月16日～18日	北海道大学/オンライン開催	84	303	

1.2　情報環境領域

1.2.1　マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第203回	2025年5月21日～23日	名桜大学	62	112	電子情報通信学会
第204回	2025年9月18日～19日	神戸ポートオアシス/オンライン開催	31	73	
第205回	2025年12月23日～24日	東北大学/オンライン開催	24	59	
第206回	2026年3月17日～18日	神奈川工科大学/オンライン開催	78	165	

1.2.2　ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第213回	2025年6月18日～19日	東京大学	36	101	電子情報通信学会/ﾋｭｰﾏﾝｲﾝﾀﾌｪｰｽ学会/映像情報ﾒﾃﾞｨｱ学会
第214回	2025年9月4日	北海道科学大学	19	17	
第215回	2025年11月26日～27日	淡路夢舞台	38	70	
第216回	2026年1月14日～15日	宮古島未来創造センター	48	70	
第217回	2026年3月9日～11日	芝浦工業大学/オンライン開催	41	90	

1.2.3　情報システムと社会環境研究発表会

第172回	2025年6月7日	青山学院大学/オンライン開催	8	30	
第173回	2025年8月21日～22日	愛媛大学	16	39	
第174回	2025年12月6日	明治大学/オンライン開催	9	35	
第175回	2026年3月16日～17日	東海大学/オンライン開催	12	39	

1.2.4　情報基礎とアクセス技術研究発表会

第159回	2025年6月27日	国立情報学研究所	4	8	
第160回	2025年9月16日～18日	アクトシティ浜松	64	121	電子情報通信学会
第161回	2025年12月19日	奈良先端科学技術大学院大学/オンライン開催	19	56	電子情報通信学会
第162回	2026年3月30日	東洋大学	8	23	

1.2.5　コラボレーションとネットワークサービス研究発表会

第126回	2025年5月8日～9日	機械振興会館	11	39	電子情報通信学会
第127回	2026年1月22日～23日	宮古島市中央公民館	76	114	
第128回	2026年3月9日～10日	芝浦工業大学/オンライン開催	13	43	

1.2.6　ドキュメントコミュニケーション研究発表会

第137回	2025年7月17日～18日	筑波技術大学	13	5	電子情報通信学会
第138回	2025年11月21日	オンライン開催	4	7	
第139回	2026年3月30日	東洋大学	8	23	

1.2.7　モバイルコンピューティングと新社会研究発表会

第115回	2025年5月21日～23日	名桜大学	62	112	電子情報通信学会
第116回	2025年9月17日～18日	富山県民会館	57	129	
第117回	2025年11月26日～27日	たくみ観光ホテル/日間賀島サービスセンター	40	61	
第118回	2026年3月1日～2日	サテライトキャンパスひろしま	54	70	電子情報通信学会

1.2.8　コンピュータセキュリティ研究発表会

第109回	2025年5月29日～30日	奈良春日野国際フォーラム/オンライン開催	12	91	電子情報通信学会
第110回	2025年7月7日～9日	札幌コンベンションセンター	96	241	電子情報通信学会
第111回	2025年12月2日～3日	新潟大学	31	74	
第112回	2026年3月17日～18日	神奈川工科大学/オンライン開催	78	165	

1.2.9　高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第101回	2025年5月21日～23日	名桜大学	62	112	電子情報通信学会
第102回	2025年9月18日～19日	群馬大学/オンライン開催	12	41	電子情報通信学会/電気学会
第103回	2025年11月26日～27日	たくみ観光ホテル/日間賀島サービスセンター	40	61	
第104回	2026年3月4日	岡山大学	8	21	

1.2.10　ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第86回	2025年5月15日～16日	東京農工大学	11	39	
第87回	2025年9月17日～18日	富山県民会館	57	129	
第88回	2025年11月26日～27日	淡路夢舞台国際会議場	38	70	
第89回	2026年3月1日～2日	サテライトキャンパスひろしま	54	70	電子情報通信学会

1.2.11　インターネットと運用技術研究発表会

第69回	2025年5月29日～30日	奈良春日野国際フォーラム/オンライン開催	12	91	電子情報通信学会
第70回	2025年7月28日	佐賀大学	12	69	
第71回	2025年9月25日～26日	青森県観光物産館アスパム/オンライン開催	17	94	
第72回	2026年3月3日～5日	沖縄産業支援センター/オンライン開催	71	244	電子情報通信学会

1.2.12　セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第59回	2025年5月8日～9日	機械振興会館	11	39	電子情報通信学会
第60回	2025年7月7日～9日	札幌コンベンションセンター	96	241	電子情報通信学会
第61回	2025年12月2日～3日	新潟大学	31	74	
第62回	2026年3月3日～4日	沖縄県立美術館・博物館	65	88	電子情報通信学会

1.2.13　コンシューマ・デバイス＆システム研究発表会

第43回	2025年5月29日～30日	SWINBURNE Innovation Space VIETNAM	17	21	
第44回	2025年9月17日～18日	富山県民会館	57	129	
第45回	2026年1月22日～23日	宮古島市中央公民館	76	114	

1.2.14　デジタルコンテンツクリエーション研究発表会

第40回	2025年6月6日	函館コミュニティプラザ	10	21	
第41回	2025年11月6日～7日	松江テルサ	43	54	電子情報通信学会
第42回	2026年1月22日～23日	宮古島市中央公民館	76	114	

1.2.15　高齢社会デザイン研究発表会

第33回	2025年9月17日～18日	富山県民会館	57	129	
第34回	2025年12月19日	麗澤大学/オンライン開催	8	15	
第35回	2026年3月17日	千葉大学/オンライン開催	6	16	

1.3　メディア知能情報領域

1.3.1　自然言語処理研究発表会

第264回	2025年7月6日～7日	早稲田大学/オンライン開催	19	62	
第265回	2025年9月21日～22日	鹿児島大学/オンライン開催	17	64	
第266回	2025年12月15日～17日	京都テルサ/オンライン開催	32	98	電子情報通信学会
第267回	2026年3月7日～8日	ライトキューブ宇都宮/オンライン開催	40	105	

1.3.2　知能システム研究発表会

第218回	2025年7月7日	札幌市教育文化会館	5	32	電子情報通信学会
第219回	2026年2月20日	名古屋工業大学	7	24	
第220回	2026年3月12日	新富良野プリンスホテル/オンライン開催	6	69	併催：電子情報通信学会/人工知能学会

1.3.3　コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第242回	2025年5月15日～16日	奈良女子大学	55	76	電子情報通信学会
第243回	2025年11月6日～7日	松江テルサ	43	54	電子情報通信学会
第244回	2026年1月29日～30日	大阪大学	49	71	電子情報通信学会/ﾊﾞｰﾁｬﾙﾘｱﾘﾃｨ学会
第245回	2026年3月24日～25日	あわぎんホール	46	138	電子情報通信学会/映像情報メディア学会

1.3.4　コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究発表会

第198回	2025年6月22日～23日	富山大学/オンライン開催	5	20	
第199回	2025年9月8日～10日	早稲田大学	17	24	
第200回	2025年11月6日～7日	松江テルサ	43	54	電子情報通信学会
第201回	2026年3月9日～10日	芝浦工業大学	16	30	

1.3.5　コンピュータと教育研究発表会

第180回	2025年6月14日～15日	静岡大学/オンライン開催	18	94	
第181回	2025年10月11日～12日	神川工科大学/オンライン開催	12	72	
第182回	2025年11月22日～23日	熊本大学/オンライン開催	29	105	
第183回	2026年2月7日～8日	大阪教育大学/オンライン開催	25	101	
第184回	2026年3月14日～15日	電気通信大学/オンライン開催	23	106	

1.3.6　人文科学とコンピュータ研究発表会

第138回	2025年5月17日	慶應義塾大学	18	77	
第139回	2025年8月3日	シャトレーゼホテル談露館	12	49	
第140回	2026年2月1日	アートホテル石垣島	34	83	

1.3.7　音楽情報科学研究発表会

第143回	2025年6月13日～14日	早稲田大学/オンライン開催	93	328	電子情報通信学会
第144回	2025年8月31日～9月2日	慶應義塾大学	33	138	
第145回	2026年2月28日～3月2日	名古屋工業大学	70	163	

1.3.8　音声言語情報処理研究発表会

第156回	2025年6月13日～14日	早稲田大学/オンライン開催	93	328	電子情報通信学会
第157回	2025年10月22日	オンライン開催	8	29	電子情報通信学会
第158回	2025年12月15日～17日	京都テルサ/オンライン開催	32	98	電子情報通信学会
第159回	2026年3月2日～4日	沖縄県青年会館	130	245	電子情報通信学会/日本音響学会/APSIPA JC

1.3.9　電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第108回	2025年6月24日～25日	KDDI DIGITAL GATE TOKYO	29	46	電子情報通信学会
第109回	2025年9月19日～20日	神戸ポートオアシス/オンライン開催	31	73	
第110回	2025年12月2日～3日	新潟大学	31	74	
第111回	2026年2月19日～20日	成蹊大学	26	66	成蹊大学Society5.0 研究所, JST RISTEX

1.3.10　ゲーム情報学研究発表会

第55回	2025年6月7日～8日	九州大学/オンライン開催	20	52	
第56回	2025年9月4日	北海道科学大学/オンライン開催	17	23	
第57回	2026年3月2日～3日	早稲田大学/オンライン開催	24	77	

1.3.11　エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第76回	2025年6月18日～19日	東京大学	36	101	電子情報通信学会/ﾋｭｰﾏﾝｲﾝﾀﾌｪｰｽ学会/映像情報ﾒﾃﾞｨｱ学会
第77回	2025年11月14日～15日	高知工科大学	15	29	
第78回	2025年12月26日	オンライン開催	2	14	
第79回	2026年3月9日～10日	電気通信大学	43	81	

1.3.12　バイオ情報学研究発表会

第82回	2025年6月21日～22日	琉球大学	63	121	電子情報通信学会
第83回	2025年10月23日	中央大学	6	18	
第84回	2026年3月12日～13日	北陸先端科学技術大学院大学	27	41	

1.3.13　教育学習支援情報システム研究発表会

第46回	2025年6月21日～22日	東北大学/オンライン開催	11	42	電子情報通信学会
第47回	2025年11月22日～23日	熊本大学/オンライン開催	29	105	
第48回	2026年3月4日～5日	国立情報学研究所/オンライン開催	20	78	

1.3.14　アクセシビリティ研究発表会

第28回	2025年7月28日～29日	東京都立大学/オンライン開催	8	28	
第29回	2025年12月1日	ヤマハ株式会社/オンライン開催	6	26	
第30回	2026年3月15日～16日	筑波技術大学/オンライン開催	31	41	電子情報通信学会

1.3.15　スポーツ情報学研究発表会

第3回	2025年11月27日	京都橋大学	15	46	
第4回	2026年3月4日	電気通信大学	17	45	

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
マルチメディア，分散，協調とモバイル(DICOMO 2025)シンポジウム（DPS，CN，MBL，CSEC，ITS，UBI，IOT，SPT，CDS，DCC）	2025年6月25日～27日	母畑温泉 八幡屋	215	341
画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2025)	2025年7月29日～8月1日	国立京都国際会館	726	1716
cross-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programminG（xSIG2025）	2025年8月6日	サンポートホール高松／オンライン開催	75	249
情報教育シンポジウム2025(SSS2025)	2025年8月19日～21日	武蔵野大学 有明キャンパス／オンライン開催	56	173
エンタテインメントコンピューティング2025（EC）	2025年8月25日～29日	日本大学 文理学部キャンパス	86	213
DAシンポジウム2025（SLDM）	2025年8月27日～29日	ゆのくに天祥	42	92
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム（SES2025）（SE）	2025年9月16日～18日	早稲田大学西 早稲田キャンパス	109	251
コンピュータセキュリティシンポジウム2025（CSS2025）（CSEC,SPT）	2025年10月27日～31日	岡山コンベンションセンター／オンライン開催	273	1089
Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform（APRIS2025）（EMB）	2025月11月3日～4日	Thammasat University／オンライン開催	15	52
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ（DPSWS2025）（DPS）	2025年11月5日～7日	三翠園／高知共済会館	45	80
ゲームプログラミングワークショップ（GPW2025）（GI）	2025月11月14日～16日	箱根セミナーハウス／オンライン開催	31	82
コラボレーションとネットワークサービスワークショップ2025（CN）	2025月11月20日～21日	ハートピア熱海	20	31
コンピュータシステム・シンポジウム（ComSys2025）（OS）	2025月12月1日～2日	名古屋工業大学／オンライン開催	40	108
インターネットと運用技術シンポジウム（IOTS2025）（IOT）	2025月12月11日～12日	アートホテル宮崎スカイタワー／オンライン開催	26	161
人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん2025）（CH）	2025月12月13日～14日	九州大学 伊都キャンパス	61	150
災害コミュニケーションシンポジウム（IS,IOT,SPT）	2025月12月26日	オンライン開催	11	58
ウィンターワークショップ2026（SE）	2026月1月9日～10日	CSA貸会議室 レイアップ御幸町ビル	26	52
ITS研究フォーラム（ITS）	2026年3月2日	大正大学／オンライン開催	12	44
インタラクション2026（HCI，GN，UBI，DCC，EC）	2026年3月3日～5日	学術総合センター	266	808
			2135	5750

2.2 教育活動分

高校教科「情報」シンポジウム2024秋ージョーシン2025秋 ー	2025年10月26日	工学院大学 新宿キャンパス	7	129
2025年度情報処理学会高等学校情報科教員研修	2025年4月7日～2026年3月31日	オンデマンド開催（文部科学省：全国教員研修プラットフォームPlantでの受講）	43	1218

3. 事業活動

3.1 全国大会

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第88回全国大会	2026年3月6日～8日	松山大学 文京キャンパス(ハイブリッド開催)	1,591	4	3,627

3.2 FIT（情報科学技術フォーラム）

FIT2025 第24回情報科学技術フォーラム	2025年9月3日～9月5日	北海道科学大学（ハイブリッド開催）	698	1	2,277

※共催：電子情報通信学会（情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ）

3.3　連続セミナー2025：テーマ「AIが拓く次世代イノベーション」

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
人工知能（AI）研究開発動向の俯瞰と展望	2025年6月13日	オンライン開催	6	72
AI、生成AIの急速な進展と保険ビジネスとアクチュアリー業務へのインパクト、AIガバナンス	2025年6月30日	オンライン開催	6	45
LLMの開発・活用の新展開	2025年7月17日	化学会館（ハイブリッド開催）	9	208
世界のAIガバナンス政策、安全性評価、国際標準を巡る最新動向	2025年9月12日	オンライン開催	5	62
実環境における知能システムの現状と今後	2025年9月25日	オンライン開催	5	51
AIロボット駆動科学	2025年10月2日	オンライン開催	7	57
音楽・アニメ・食事: 情報技術が切り拓くメディア体験・制作の未来	2025年10月20日	オンライン開催	5	44
量子ソフトウェアスタックの現在	2025年11月7日	オンライン開催	6	56
人間行動センシングと解析技術の最前線　～3D身体モデリング・作業解析から技巧熟達支援まで～	2025年11月27日	オンライン開催	5	62
デジタル社会を支える新たなトラスト ～技術と社会の両面から～	2025年12月5日	オンライン開催	6	44
生成AIの医療応用の実際	2025年12月19日	オンライン開催	6	53

※協賛：照明学会、情報通信技術委員会、インターネット協会、情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、電気学会、人工知能学会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム

3.4　短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
メタバースを活用した社会課題解決への挑戦	2026年2月13日	ハイブリッド開催	7	268	※1

※1）共催：一般社団法人情報処理学会，一般社団法人情報通信技術委員会

JPEG/MPEG最前線 ～国際標準化最新動向、AI、空間映像が創る 次世代コンテンツ技術～	2026年3月2日	オンライン開催	12	42	※1,2

※1）主催：一般社団法人 情報処理学会，一般社団法人 情報処理学会 情報規格調査会
※2）協賛：電子情報技術産業協会,ビジネス機械・情報システム産業協会,映像情報メディア学会,日本技術士会、照明学会、画像電子学会

3.5　プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
夏のプログラミング・シンポジウム2025	2025年9月8日～9日	現地開催 ラフォーレ伊東温泉 湯の庭	9	19
第58回情報科学若手の会	2025年10月11日～13日	現地開催 加藤山崎教育基金軽井沢研修所	15	26
第67回プログラミング・シンポジウム	2026年1月9日～11日	ハイブリッド開催 ホテルラフォーレ那須	31	69

4. 技術応用活動

4.1　個別ITフォーラム（3件）

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪 良武
コンタクトセンター	千葉 広宣
CITP	赤根 大吾

4.2　ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ITフォーラム2026	2026年2月6日	オンライン	28	412	※1,2

※1）スポンサー：3口
※2）ITフォーラム3件（他団体連携1件（AITC）、スポンサー講演、学会講演）を開催

5. 支部活動（※役員会等は除く）

5.1　北海道支部

・情報処理北海道シンポジウム2025（11月18日、室蘭工業大）　演題数24件、参加者数47名
・支部講演会　2回（26'2月9日、3月7日）
・後援・協賛　3回（9月7日、'26年3月7日、3月9日-10日）

5.2　東北支部

・電気関係学会東北支部連合大会（9月2日-3日、会津大）発表165件
・支部研究会　7回（11月27日-28日、12月20日、'26年1月23日、1月24日、1月24日、2月21日、3月2日）
・支部講演会　2回（11月17日、12月25日）
・後援・協賛　3回（7月20日、8月6日-7日、10月14日-15日）

5.3　東海支部

・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（9月18日-19日、信州大）　演題数277件、参加者数492名
・講演会　6回（5月16日、9月18日、9月19日、10月24日、11月21日、'26年1月9日）

5.4　北陸支部

・特別講演会　1回（5月16日）
・電気･情報系学会北陸支部連合大会（9月20日、オンライン開催）　演題数191件、参加者数651名
・後援　1回（'26年1月28日）

5.5　関西支部

・記念講演会　1回（5月19日）　参加者50名
・関西支部支部大会（9月28日、オンライン開催）発表68件　参加者173名
・支部研究会：
　組込みとセキュリティ研究会　（9月28日）
　ヒューマンコミュニケーション研究会（9月28日）
　プログラミングと情報教育実践研究会（9月28日）
・支部セミナー　3回（6月22日､2月11日）
・講演会　1回（11月26日）　参加者40名

5.6　中国支部

・電気・情報関連学会中国支部連合大会（10月25日、山口大学常磐キャンパス）　演題数150件、参加者数 336名
・講演会　10回（5月23日、6月19日、7月9日、9月2日、11月21日、11月28日、12月4日、
　　12月22日、'26年1月27日、3月19日）
・講習会　2回（11月11日、'26年2月20日）
・協賛・後援　9回（11月8日、7月4日、7月19日、11月8日-9日、11月下旬-'26年2月、12月11日、'26年2月6日、3月18日-19日）

5.7　四国支部

・記念講演会　1回（6月7日）　参加者11名
・電気系学会四国支部連合大会（9月27日、高知大学朝倉キャンパス）　講演数211件　参加者290名
・協賛事業　7回（11月14日、7月15日-10月15日、9月27日-12月13日、9月29日、6月14日・7月5日・7月19日・9月6日、' 26年2月27日-28日・2月7日-22日）

5.8　九州支部

・記念講演会　1回（5月27日）　参加者18名
・電気関係学会九州支部連合大会（9月18日-19日、福岡工業大学 ）　発表数337名　参加者数603名
・若手の会セミナー（12月5日-6日、国民宿舎　波戸岬）　参加者数28名
・火の国情報シンポジウム（'26年3月3日-4日、熊本大）　発表数52名　参加者数86名
・後援・共催　3回（10月24日、'26年2月9日、3月6日）

付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数 ※冊子+オンライン刊行	本文頁数 ※冊子+オンライン刊行	広告頁数
2025年4月15日	66	5	社会を変える量子コンピュータ活用	21	170	6
2025年5月15日	66	6	コンピュータ系サークル大集合2025～中学・高校・高専・大学編～	25	85	6
2025年6月15日	66	7	AI時代の安全なデータ処理「コンフィデンシャルコンピューティング」	19	114	4
2025年7月15日	66	8	日本でインターネットはどのように始まったか―JUNET生誕40年―	35	134	8
2025年8月15日	66	9	量子CAE	42	150	4
2025年9月15日	66	10	生成AIが拓く新時代のエージェント技術	23	120	6
2025年10月15日	66	11	企業における情報技術活用のプラクティス	18	169	8
2025年11月15日	66	12	プレシンギュラリティ時代のサイバーセキュリティ～AIの加速的進化に伴うリスクマネジメントの考え方～	15	90	4
2025年12月15日	66	1	AIはスポーツをどう変えるのか	15	88	6
2026年1月15日	67	2	DXで推進するドローン利活用	17	161	6
2026年2月15日	67	3	一般情報教育の役割と重要性	21	122	4
2026年3月15日	67	4	モビリティの進化を支える技術	24	97	6

2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）
※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	ﾃｸﾆｶﾙﾉｰﾄ数	本文頁数
2025年4月15日	66	4	ソフトウェア工学	14	1	149
2025年5月15日	66	5	情報システム論文	8	0	61
2025年6月15日	66	6	多様なリアリティを繋ぎ・創るモバイルコンピューティングと高度交通システム	15	0	170
2025年7月15日	66	7	---	3	0	21
2025年8月15日	66	8	---	11	1	100
2025年9月15日	66	9	AI社会を安全にするコンピュータセキュリティ技術	29	0	253
2025年10月15日	66	10	---	18	1	89
2025年11月15日	66	11	---	8	1	74
2025年12月15日	66	12	エンタテインメントコンピューティング／人間中心のセキュリティ・プライバシー・トラスト	55	3	340
2026年1月15日	67	1	AI時代のコラボレーション技術とネットワークサービス	17	1	164
2026年2月15日	67	2	インタラクションの理解および基盤・応用技術／ネットワークサービスと分散処理／人文科学とコンピュータ	34	1	341
2026年3月15日	67	3	新しい時代の運用管理を見出すグッとくるインターネットと運用技術／若手研究者	22	2	206

3. 「Journal of Information Processing（JIP）」（年刊）
※オンライン刊行のみ

発行年	巻	号	備考	その他参考		
				論文数	ﾃｸﾆｶﾙﾉｰﾄ数	本文頁数
2025年4月15日	33	—	トランザクション連携論文：1	4	0	48
2025年5月15日	33	—	トランザクション連携論文：0	3	0	33
2025年6月15日	33	—	トランザクション連携論文：2	3	0	32
2025年7月15日	33	—	トランザクション連携論文：2	3	0	33
2025年8月15日	33	—	トランザクション連携論文：6	9	0	112
2025年9月15日	33	—	トランザクション連携論文：1	11	0	145
2025年10月15日	33	—	“Applications and the internet” in conjunction with the main topics of COMPSAC 2024 トランザクション連携論文：0	12	0	134
2025年11月15日	33	—	トランザクション連携論文：10	12	1	146
2025年12月15日	33	—	the 26th Japan Conference on Discrete and Computational Geometry, Graphs, and Games トランザクション連携論文：0	28	1	272
2026年1月15日	34	—	トランザクション連携論文：1	4	1	44
2026年2月15日	34	—	トランザクション連携論文：7	14	1	148
2026年3月15日	34	—	トランザクション連携論文：1	7	0	80

4. 「情報処理学会論文誌（トランザクション）」（不定期、10誌）
※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	トランザクション名	その他参考	
				論文数	本文頁数
2025年5月30日	18	2	プログラミング	2	4
2025年7月16日	18	3	プログラミング	5	6
2025年10月23日	18	4	プログラミング	6	49
2025年12月23日	18	5	プログラミング	1	0
2025年8月28日	18	3	数理モデル化と応用	9	118
2026年1月27日	19	1	数理モデル化と応用	4	61
2026年3月25日	19	2	数理モデル化と応用	2	25
2025年4月28日	18	2	データベース	5	59
2025年7月29日	18	3	データベース	4	34
2025年10月30日	18	4	データベース	9	78
2026年1月26日	19	1	データベース	16	187
2025年7月16日	18	1	コンピューティングシステム	4	23
2025年10月23日	18	2	コンピューティングシステム	2	0
2026年1月26日	19	1	コンピューティングシステム	4	17
2025年5月28日	15	2	コンシューマ・デバイス＆システム	6	63
2025年10月24日	15	3	コンシューマ・デバイス＆システム	4	38
2026年1月28日	16	1	コンシューマ・デバイス＆システム	4	33
2025年8月28日	13	2	デジタルコンテンツ	4	31
2026年2月27日	14	1	デジタルコンテンツ	8	89
2025年6月26日	11	2	教育とコンピュータ	3	31
2025年10月24日	11	3	教育とコンピュータ	3	23
2026年2月27日	12	1	教育とコンピュータ	6	70
2025年4月15日	6	2	デジタルプラクティス	1	11
2025年7月15日	6	3	デジタルプラクティス	5	63
2025年10月15日	6	4	デジタルプラクティス	3	21

2026年1月15日	7	1	デジタルプラクティス	3	14
2025年4月30日	18	-	Bioinformatics	2	13
2025年8月29日	18	-	Bioinformatics	2	25
2025年12月25日	18	-	Bioinformatics	2	18
2025年6月27日	18	-	System and LSI Design Methodology	4	29
2026年2月24日	19	-	System and LSI Design Methodology	4	42
				137	1275

5. その他出版（重版）　　※判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2025年4月20日	IT textシリーズ　数理最適化（1版9刷）	134	272
2025年4月20日	IT textシリーズ　画像工学（1版6刷）	200	232
2025年5月15日	IT textシリーズ　自然言語処理の基礎（1版6刷）	1000	320
2025年5月15日	量子コンピューティング―基本アルゴリズムから量子機械学習まで―（1版7刷）	600	304
2025年8月10日	IT textシリーズ　基礎Web技術（改訂2版）（2版7刷）	400	188
2025年9月10日	IT textシリーズ　データベース（1版21刷）	400	196
2025年12月20日	IT textシリーズ　離散数学（2版2刷）	400	240
2025年12月20日	IT textシリーズ　コンピュータアーキテクチャ（改訂2版）（2版6刷）	400	232
2025年12月20日	IT textシリーズ　データベースの基礎（1版6刷）	300	273
2025年12月20日	IT textシリーズ　人工知能(改訂2版)（2版9刷）	500	244
2026年1月15日	IT textシリーズ　ネットワークセキュリティ（1版8刷）	400	206
2026年1月15日	IT textシリーズ　ヒューマンコンピュータインタラクション（改訂3版）（3版2刷	500	250
2026年1月15日	IT textシリーズ　情報と職業(改訂2版)（2版9刷）	400	232
2026年1月15日	IT Textシリーズ（一般教育）　情報システム基礎（1版18刷）	400	218
2026年2月10日	IT Textシリーズ　アルゴリズム論（1版23刷）	500	242

6. その他出版（新刊）

2025年4月25日	医療健康データの取扱説明書－IT技術者が知っておくべき要点－（1版1刷）	1500	224
2025年11月5日	生成AIによるソフトウェア開発―設計からテスト，マネジメントまでをすべて変革	2000	304

付4. 国際会議一覧

名称	開催年月	場所
The 15th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2025)	2025年9月10日-12日	AVANI Central Busan
The 20th International Workshop on Security (IWSEC2025)	2025年11月25日-27日	アクロス福岡

※以下は、2025年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
iPWS Cup 2024	2024年9月20日	国立京都国際会館	26名	5名	
30th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC2025)	2025年1月20日-23日	日本科学未来館	468名	347名	・IEEE-CAS ・IEEE-CEDA ・ACM-SIGDA
The 20th International Workshop on Security (IWSEC2025)	2025年11月25日-27日	アクロス福岡	113名	24名	

付5. 表彰等 *いずれも所属（（ ）内）は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（2名） ［2026年度定時総会（2026年6月）］［理事会（2026年1月）］

・辻井 潤一（産総研）　・佐々木良一（東京電機大）

2. 功績賞（3名）・顕功賞:該当なし ［2026年度定時総会（2026年6月）］［功績賞選定委員会（2026年3月）他］

(1) 功績賞（3名）

・北川博之（筑波大）　・湊 真一（京大）　・黒橋禎夫（NII）

3. 新フェロー（15名） ［2026年度定時総会（2026年6月）］［フェロー選定委員会（2026年2月）］

・内田 誠一（九州大）	「文字・文書画像解析分野に対する貢献」
・宇野 毅明（NII）	「列挙アルゴリズムの基礎技術構築とその分野開拓に対する貢献」
・小野寺 民也（理化研）	「プログラミング言語の研究開発と量子ソフトウェア分野開拓に対する貢献」
・片寄 晴弘（関西学院大）	「体験に焦点を当てたEC研究基盤の探求と体系化への貢献」
・木村 朝子（立命館大）	「身体性に基づくインタラクションデザインとクロスモーダル知覚を融合したXRインタラクションにおける先駆的研究」
・栗山 繁（豊橋技科大）	「ビジュアル情報処理に関する学会活性化と先進的研究開発の貢献」
・志築 文太郎（筑波大）	「センシング・機械学習を組み合わせた入力インタフェース研究と学術分野への貢献」
・寶木 和夫（ハイセーフ）	「暗号技術の実装・標準化と社会インフラ展開 に対する貢献」
・田島 玲（LINEヤフー）	「データサイエンス領域の研究開発・社会実装の推進、および学会運営への貢献」
・平本 健二（IPA）	「デジタル社会に向けたデータ環境整備および行政や社会の革新への貢献」
・牧野 和久（京大）	「離散列挙アルゴリズムに関する革新的な理論開拓とその応用に関する研究」
・山井 成良（東京農工大）	「迷惑メール対策技術の普及に対する貢献と電子メールシステムの運用に関する先進的な取り組み」
・山内 利宏（岡山大）	「システムプログラムを中心としたセキュリティ技術の研究に関する貢献」
・劉 健全（NEC）	「データベースと映像分析の融合による発見型映像検索技術の研究開発と実用化」
・渡辺 晴美（東海大学）	「新技術・ニーズに則した組込みシステム・グローバル教育の創設と継続実施」

4. 論文賞（6件23名） ［2026年度定時総会（2026年6月）］［論文賞選定委員会（2026年2月）］

(1) 情報処理学会論文賞

・マルチタスク学習による表層情報を軸としたマルウェアの系統樹の作成手法の提案

池澤隆人（電気通信大学）、中川 恒、茂木裕貴、押場博光（株式会社FFRI セキュリティ）、市野将嗣（電気通信大学）

・インタラクティブな歌詞駆動型視覚表現「リリックアプリ」開発用フレームワークの提案と実証研究

加藤 淳、後藤真孝（産業技術総合研究所）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

・ICNN Based Distributed Optimization of 3D Point Cloud Quality for Real-Time Physical Space Sharing

Yui Maruyama (The University of Osaka)、Tatsuya Amano、Hirozumi Yamaguchi (The University of Osaka / RIKEN R-CCS)

(3) 情報処理学会論文誌 コンシューマ・デバイス＆システム 優秀論文賞

・ワインブドウの収穫期6カ月前でも得られる早期収量予測の指標について

眞田 慎、黒田剛士、ダマリス トリフェナ、猿田 悠（ヤマハ発動機株式会社）、峰野博史（静岡大学）、
難波直樹、内海智仁（ヤマハ発動機株式会社）

(4) IPSJ Transactions on Bioinformatics Outstanding Paper Award

・Fast and Accurate Comparison of Protein Conformational Ensembles

Bunsho Koyano (Graduate School of Information Science and Technology, The University of Tokyo/
Institute of Medical Science, The University of Tokyo)、
Tetsuo Shibuya (Institute of Medical Science, The University of Tokyo)

(5) IPSJ Transactions on System and LSI Design Methodology Outstanding Paper Award

・Scalable Stochastic Number Duplicators for Accuracy-flexible Arithmetic Circuit Design

Ryota Ishikawa、Masashi Tawada、Masao Yanagisawa、Nozomu Togawa (Waseda University)

5. 業績賞（3件15名、＊：代表貢献者）　［2026年度定時総会（2026年6月）］［業績賞選定委員会（2026年3月）］

・「人々の興味や行動を理解する顧客理解エンジンdocomo Senseの開発と実用化」
＊越智大介、山田直治、冨樫勇哉、山路大樹、依田玲央奈(NTTドコモ)

・「注目地域内外の検索語相関による情報浄化モデルと重要度順情報提示システムの開発」
＊坪内孝太、山口修司、嶋田祥太(LINEヤフー)、齋藤恵二郎（NHK）、小高暁（慶大）

・「医師の診断を支援する3次元類似症例画像検索技術の開発と実用化」
＊馬場孝之、武部浩明、宮崎信浩、森脇康貴、馬場幸三（富士通）

6. 情報処理技術研究開発賞（1名）　［2026年度定時総会（2026年6月）］［情報処理技術研究開発賞選定委員会（2026年1月）］

・吉田 成朗（オムロンサイニックエックス）　「身体性に基づくインタラクションのデザイン」

7. マイクロソフト情報学研究賞（2名）　［第88回全国大会（2026年3月）表彰］［ﾏｲｸﾛｿﾌﾄ情報学研究賞選定委員会（2026年1月）］

・中村 優吾（九州大）　「AIoT を活用した習慣リデザインの研究」
・渡邉 拓貴（はこだて未来大）　「ヒアラブルデバイスにおける音響インタラクションに関する研究」

8. IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research（1名）
［第88回全国大会（2026年3月）表彰　＊2026年6月 ACM Award Banquet招待予定］［IPSJ/ACM審査会（2026年1月）］

・Research through Design approach for Bridging Digital Fabrication and Interactive Materials
加藤 邦拓（東京工科大学）

9. IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award（2名）
［第88回全国大会（2026年3月）表彰］［IPSJ/IEEE-CS審査会（2026年1月）］

・Outstanding Research on Highly Efficient Algorithms for Big Data
塩川 浩昭（筑波大学）
・Outstanding research on mobile and wearable sensing for human safety
西山 勇毅（東京大学）

10. 山下記念研究賞（57編）　［第88回全国大会（2026年3月）表彰］［各領域委員会（2025年7月）］

＜コンピュータサイエンス領域（15編）＞
・マルチモーダル大規模言語モデルに基づく論理的および構造的異常の説明可能な検知 [DBS]　藤井野枝子（キーエンス）
・プロパティグラフに対する新たなスキーマ評価指標の提案 [DBS]　湯川楓祐（筑波大）
・ReactアプリケーションにおけるUIテスト共進化の分析とロケータ記述の追従支援 [SE]　池田むつき（科学大）
・マイクロベンチマーク共有サービスを用いた実行高速化のための自動リファクタリングへの試み [SE]　大森楓己（非公開）
・Entity Component System (ECS)ベースのプロセッサシミュレータにおけるキャッシュシミュレーション [ARC]　前川隼輝（名工大）
・unikernelを用いた隔離性・可搬性の高い軽量なWebAssemblyの実行環境 [OS]　上田蒼一朗（京大）
・民間ロケット制御用セキュア通信向け合成体乗算回路の形式検証 [SLDM]　森岡澄夫（インターステラテクノロジズ）
・スパースガウス過程回帰に基づく極低温トランジスタ電流モデリング [SLDM]　岩崎哲朗（TSMCデザインテクノロジージャパン）
・ポスト富岳世代のMN-Coreベースアクセラレータ対応OpenACCのインターフェイスとコンパイラの検討及び開発 [HPC]　綱島隆太（神戸大）
・実機のアナログIn-DRAM計算を用いたモチーフ解析におけるペアワイズアラインメント高速化 [HPC]　久保龍哉（東大）
・Cyclic-proof systems for symbolic heaps require cut formulas outside initial signatures [PRO]　早乙女献自（名大）
・閉部分文字列数え上げのためのオンライン及びオフラインアルゴリズム [AL]　三重野琢也（電通大）
・主成分分析のためのOQDS法の実装方法の提案 [MPS]　千代延未帆（滋賀大）
・Improving the Speech Pattern of an Emotion-aware Robot using EEG and HRV for Emotion Estimation [EMB]　Victor Gaspard (EPF Engineering School)
・Scalable quantum circuits for Hamiltonian simulation of classical conservative systems [QS]　佐藤勇気（豊田中央研）

＜情報環境領域（21編）＞

・多対一スイッチを含むBenešネットワークの高速な構築・ ルーティングとPrivate Join and Compute への応用 [DPS]
紀伊真昇（NTT）

・小型低軌道衛星群を一つのアンテナとして動作させるための衛星間リアルタイム情報伝達機構 [DPS] 佐々木航（奈良先端大）

・アクセシビリティのための論文内画像の代替テキストに関する定量的調査 [HCI] 宮崎　翔（ナレッジワーク）

・ClothTalk: 騒音環境でも GPU なしでリアルタイムに綺麗な声を入力可能な導電布マイクロフォン [HCI]
平城裕隆（東大）

・ダークパターンとデフォルト効果に関する研究：クラウドソーシング実験による検討 [IS] 後藤　晶（明大）

・批判的な情報探索促進に向けた対話的生成AIの回答戦略の検討 [IFAT] 山本祐輔（名古屋市立大）

・インフルエンスオペレーションにおける情報の発信・拡散及び影響のモデル化 [CN] 関口和巳（日大）

・連邦型RDF問合せのための述語相関の要約に基づく情報源選択手法 [DC] 小倉勇大（ZOZO）

・離散潜在空間上でのMasked Image Modelingによる産業用画像の論理的な異常検知 [MBL] 坂井俊介（福井大）

・DiverCityMeter: 大規模移動データによる生活パターン分析を通じた都市空間の多様性算出手法 [MBL] 庄子和之（名大）

・多分その方がみんな幸せになるっていう感じですね： 開発者インタビューに基づく高機能暗号ライブラリ開発時の考慮事項の抽出 [CSEC] 小寺健太（三菱電機）

・クライアントの行動に基づくビザンチン耐性のある連合学習の監視メカニズム [CSEC] 橋本俊甫（松尾研究所）

・OFDMの位相情報を用いた測距におけるDoppler shiftの影響に関する検討 [ITS] 湯素　華（電通大）

・カメラ搭載型バイオロガーを活用した野生生物の希少行動の自動記録 [UBI] 谷垣　慶（阪大）

・単一スピーカからの多重反射波のTime-of-Flight情報を用いた位置指紋に基づく屋内測位 [UBI] 三田有輝也（東大）

・IPv6リナンバリングに対応するためのMACアドレスバインディングによるAccess Control List自動更新手法の提案と建設現場における検証 [IOT] 勝部峻太郎（飛島建設）

・ポリシー策定下における組織特性と情報セキュリティ行動の探索的分析 [SPT] 小松文子（ノートルダム清心女子大）

・動画形式のプライバシーポリシー提示によるユーザの理解度向上等の効果検証 [SPT] 篠田詩織（NTT）

・ワインブドウの収穫期6カ月前でも得られる早期収量予測の指標について [CDS] 眞田　慎（ヤマハ発動機）

・JumplessJump：仮想ジャンプ体験のためのEMSを用いたジャンプ感覚提示手法 [DCC] 島川久範（ソニー・ホンダモビリティ）

・新生児育児体験システムCryingBabyの提案 [DCC] 小坂崇之（東海大）

＜メディア知能情報領域（21編）＞

・LLMに日本語テキストを学習させる意義 [NL] 齋藤幸史郎（科学大）

・実在しないエンティティや出来事に関する合成文書を用いたRAGベンチマークの構築 [NL] 李　聖哲（SB Intuitions／早大）

・属性の欠損に対応した連合学習アルゴリズム [ICS] 大石慶一朗（岡山大）

・Label-Efficient Microscopy Image Recognition with Cell Image Characteristics [CVIM] 西村和也（国立がん研究センター）

・Neural SDF for Shadow-aware Unsupervised Structured Light [CVIM] 市丸和人（九大）

・3DCGアニメーション向けの実用的なスタイル転写: 映像制作のためのR&D実践 [CG] 藤堂英樹（拓殖大）

・拡張現実を用いて測定値をもとにモデル化する物理教材の開発と授業実践 -電位の概念の理解を促すモデルを例として- [CE]
稲垣惇史（広島県立府中高校）

・大学におけるファクトチェックを取り入れた情報教育実践 [CE] 天野由貴（帝京大）

・コンテクスト指向翻訳による古典テキスト意味検索精度の向上 [CH] 岩田直也（名大）

・墨跡の濃淡情報にもとづく文書筆記過程の時間経過分析の試み [CH] 中尾泰士（北九州市立大）

・変分オートエンコーダを用いた単旋律音楽信号の音高・音色・変動への分解 [MUS] 田中啓太郎（早大）

・レイヤー構造に基づく楽曲推薦手法の提案と音楽発掘サービスKiiteへの応用 [MUS] 佃　洸摂（産総研）

・再帰的フィードバックを用いた階層的 End-to-End 音声認識 [SLP] 楠奈穂美（早大）

・音声因子句による条件付けを用いた発話スタイルキャプショニング [SLP] 安藤厚志（NTT）

・組織における一般ユーザが潜在的に抱える情報セキュリティ リスクに対する教育教材の開発 [EIP] 花田経子（慶大）

・囲碁対局における推定勝率のキャリブレーション：KataGoの勝率8割は人間なら何割か [GI] 平岡和幸（亜細亜大）

・多視点からの見た目が変化する料理のための二次元可食レンチキュラレンズデザインシステム [EC] 吉本健義（明大）

・早押しクイズの名数問題における不完全な問題文からの正解導出 [EC] 杉山宏輝（CSMソリューション）

・CapR-G4: G4構造を考慮したRNA二次構造の構造プロファイル計算 [BIO] 福永津嵩（慶大）

・ブルームの分類法の低次カテゴリ別問題の自動生成 [CLE] 十時蒼太（九大）

・テレビ中継映像を用いたマラソン選手のパフォーマンス解析システムの研究開発 [SI] 岩本達真（関西大）

11. 大会優秀賞・大会奨励賞

［賞状等授与、発送をもって表彰 *第88回全国大会ハイブリッド開催により］［87回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会（2025年6月）］

（1）大会優秀賞（10名）

・浅井 友斗(名古屋大学)　・伊藤 葵(法政大学)　・植垣 新一(帝京大学)　・倉田 寛大(東京農工大学)
・栗林 諒(山形大学)　・野口 隼杜(和歌山大学)　・宮脇 星名(香川大学)　・森田 慶(豊橋技術科学大学)
・湯川 楓祐(筑波大学)　・百合草 優伽(東京農工大学)

（2）大会奨励賞（9名）

・北原 丈大(横浜国立大学)　・久保山 瞳(お茶の水女子大学)　・小玉 淑乃(筑波大学)　・佐々木 達也(福井大学)
・杉山 孔亮(早稲田大学)　・田辺 実夏子(芝浦工業大学)　・中里 奎太(情報経営イノベーシ　・奈良輪 望(津田塾大学)
・隼田 駿(電気通信大学)

12. 優秀教材賞　※優秀教育賞：該当なし　[2026年度定時総会（2026年6月）] [情報処理教育委員会（2026年3月）]

(1) 優秀教材賞（2件）

・ゲーム感覚でプログラミングを体験できる「アルゴロジック」の開発と無料公開　大山 裕（元(一社)電子情報技術産業協会）

・プログラミング学習環境 PyPEN の開発と無料公開　中西 渉（名古屋高等学校）

13. 若手奨励賞（20件）　[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会（2025年4月～2026年3月）]

＜第31回スーパーコンピューティングコンテスト(2025年8月)＞

・LogConst　出戸佑樹、奥村尋斗（富山県立富山中部高等学校）

＜第36回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2025年10月）課題部門＞

・しらせーるー持続可能で環境配慮型のシラス漁支援システム　山下温斗、中森立樹、内田英都、鮎川 颯、阪本拓海（鳥羽商船高等専門学校）

＜第36回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2025年10月）自由部門＞

・CPR BEATー命をつなぐ、心肺蘇生訓練リズムゲーム　奥村 晴、長田大輝、髙木陽仁、近藤希陸、藤本航大（熊本高等専門学校(熊本)）

＜第36回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2025年10月）競技部門＞

・八億戸高専　長谷川隼也、佐藤僚亮、仲山陽大（八戸工業高等専門学校）

＜ETロボコン2025　プログラミング部門（2025年11月）＞

・KatLab　有留直希、木村優哉、根木原滉、高橋朋弘、宅間千隼、有馬 温、西島尚紀、原 成希、宮原嵩尭（宮崎大学）

＜パソコン甲子園2025　プログラミング部門（2025年11月）＞

・prism　小熊大翔、太田克樹（筑波大学附属駒場高等学校）

・Redpass　筧 敬介、佐甲 瑛（筑波大学附属駒場高等学校）

・Terminal　坂山航大、髙橋洋翔（開成高等学校）

＜パソコン甲子園2025　モバイル部門（2025年11月）＞

・Happy boys　椛 稜真、弓桁陽太、鈴木崇矢（静岡県立浜松工業高等学校）

＜第6回日本情報オリンピック女性部門（2026年3月）＞

・谷 瞳（久留米大学附設高等学校）　・旗智里奈（洛南高等学校）

・藤居 快（北海道札幌南高等学校）　・盧 馨儀（筑波大学附属高等学校）

＜第25回日本情報オリンピック（2026年3月）＞

・筧 敬介（筑波大学附属駒場高等学校）　・辛嶋 嶺（栄光学園高等学校）

・木村友咲（灘高等学校）　・平澤由埜（神奈川大学附属高等学校）

＜中高生情報学研究コンテスト（2026年3月）＞

・機械学習を用いたスプライトの自動検出と発生地点の特定　北村隆樹、大石雄稀、根本美優(東京都立立川高等学校)

・HDT-AD: 超高次元変換による頑健かつ適応的な時系列異常検知　走出慧太（海城高等学校）

・Patch-Level Training for Continual Pre-Training　松本和真、山下櫂璃（高槻高等学校）

14. 学会活動貢献賞／感謝状　[2025年度定時総会（2026年6月）] [経営企画委員会（2026年1月他）]

(1) 学会活動貢献賞：「学会誌における編集業務への貢献」（3名）

・須川賢洋（新潟大）　・和田 勉（長野大）　・斎藤俊則（星槎大）

(2) 学会活動貢献賞：「基幹論文誌への査読貢献」(3名)

・木谷友哉（静岡大）　・清原良三（神奈川工科大）　・岡本昌之（トヨタ）

(3) 学会活動貢献賞：「情報入試委員会への貢献」（3名）

・谷 聖一（日本大）　・小宮常康（電気通信大）　・安田 豊（京都産業大）

(4) 学会活動貢献賞：「アクレディテーション委員会への貢献」（1名）

・佐渡一広（群馬大）

(5) 学会活動貢献賞：「FIT2025第24回情報科学技術フォーラム開催への貢献」（1名）

・川上 敬 （北海道科学大）

(6) 学会活動貢献賞：「第87回全国大会開催への貢献」（1名）

・西尾 信彦 （立命館大）

(7) 感謝状：「会誌編集長の貢献」（1名）

・五十嵐悠紀（お茶の水女子大）

(8) 感謝状：「学会誌における編集業務（副編集長）への貢献」(2名)

・欅 惇志（一橋大）　・福地健太郎（明治大）

(9) 感謝状：「大学入試を通じた情報教育振興への貢献」（1名）

・水野 修治（大学入試センター）

15. 支部関係　　［各支部総会・支部連合大会等にて表彰］［各支部］

＜北海道＞

(1) 研究奨励賞（2名）	・渡邉真洸　・藤田優希
(2) 学術研究賞（2件）	・柿木良太、小林洋介、・福井美岬、 井上寛康
(3) 優秀ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ賞（2名）	・飯坂　極　・SU YUNCHONG

＜東北＞

(1) 学生奨励賞（15名）	・小林幸生　・佐野広空　・清水達也　・石井翔瑛　・鈴木晴仁　・佐藤優磨　・吉田壮太 ・伊東宏樹　・成田享市　・木下 豪　・別府 怜　・渡部 柚　・佐藤花澄 ・山本ゆりあ・神林励旺
(2) 奨励賞（5名）	・須藤悠介　・山下茜音　・鎌田 颯　・鈴木健太　・宮古菜々
(3) 野口研究奨励賞（1名）	・伊東 燦

＜東海＞

(1) 奨励賞（3名）	・冨成啓希　・寺町大河　・柴田　惇
(2) 学生論文奨励賞（2名）	・東野通洋　・守山 凜

＜北陸＞

(1) 優秀論文発表賞（7名）	・鈴木舞生　・中村和音　・谷口 稜　・FENG, Mingyu　・小杉 昂　・中野 敬太　・由良太希斗
(2) 優秀学生表彰（12名）	・内田泰誠　・吉見 凌　・水野弘汰　・野木一利　・田和広大　・宮内竜一 ・泉屋匠吾　・森埜 空　・原 瑞希　・加賀谷慎　・中島拓望　・窪 結奈
(3) 業績賞　　(1名)	・村田智哉

＜関西＞

(1) 学生奨励賞（5名）	・清水千寿　・山﨑南穂　・大川 直　・東雲美幸　・早川翔梧

＜中国＞

(1) 優秀論文発表賞（5名）	・畑本 真優　・平田 諒　・大澤凜太朗　・内田 健太　・津島 裕佳
(2) 奨励賞（1名）	・赤堀 愛弓

＜四国＞

(1) 奨励賞（51名）	・藤川慎吾　・平岡 道　・高橋圭太　・堂元優佑　・前田裕斗　・沖中心兵　・平本宗大 ・中谷優月　・豊田愁維　・宮崎紘匡　・川口請哉　・河野裕貴　・中西琴美　・瀬川泰史 ・松原優翔　・伊月達昌　・吉原航輝　・一松大智　・藤原漱士　・菊池志帆　・宮本悠永 ・室谷帆人　・吉岡拓未　・藤原 凌　・佐山航太郎　・西条友花　・森 純平　・前田凜空 ・小原勇人　・大山久美子　・松本俊輔　・宮本健太　・ホサインエムディ サミル　・宮内優衣 ・木下陽平　・中岡涼太　・前浦圭哉　・髙橋蓮舜　・マナカンチクル シリラート　・田籠康希 ・石川眞衣　・井川友誠　・中山智継　・和気佑弥　・今井 颯　・白井智也　・堀田 成 ・佐藤綾花　・川野裕豊　・森井裕騎　・沖津真歩

＜九州＞

(1) 奨励賞-連合大会（5名）	・大野花梨　・神田大雅　・木村怜生菜　・見田壮一　・力丸真衣
(2) 奨励賞-火の国ｼﾝﾎﾟ（6名）	・津曲優斗　・加藤涼斗　・直島 翔　・煙草谷拓透　・霜出秀太　・松山凌空
(3) 奨励賞-若手の会（1名）	・古川 栞

16. ソフトウエアジャパンアワード（3名）　　［2026年度定時総会（2026年6月）表彰］［技術応用運営委員会（2026年2月）］

・マルチモーダル診断技術を搭載した会話AIエージェントの開発

松山 洋一（株式会社エキュメノポリス）

・Qulacs：量子回路を高速にシミュレーションする量子計算ソフトウェア基盤

藤井 啓祐（大阪大学）、鈴木 泰成（理化学研究所）

17. FIT関連の各賞

(1) FIT2025船井業績賞（1名）※船井情報科学振興財団主催　[FIT2025(2025年9月)表彰] [船井業績賞選定委員会（2024年9月）]

・五十嵐 健夫（東京大学 教授）

(2) FIT2025船井ベストペーパ賞（3件）※船井情報科学振興財団主催　[FIT2026(2026年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2025年11月）]

・HistoClip: CLIP-Driven Multi-Label Classification for Histopathological Images

BAI BINGYUAN・宮田 一乗（北陸先端科学技術大学院大学）

・双方向シーンフロー推定と時間的サンプリングに基づく点群フレーム補間

松﨑 康平・野中 敬介（株式会社KDDI総合研究所）

・態度分析タスクのための音声対話データ仮名化

伊藤 葵・伊藤 克亘（法政大学）

(3) FIT論文賞（8件）　[FIT2026(2026年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2025年11月）]

・部分属性指定に対応した近似最近傍探索アルゴリズム

植村 玲央・天方 大地（大阪大学）

・ChilmAI: A New Daycare Matching System

孫 兆鴻（九州大学/サイバーエージェント）・山田 直行・竹浪 良寛・森脇 大輔（サイバーエージェント）

・不完全情報展開型ゲームの求解における利得摂動に関する研究

眞坂 航宙・岩崎 敦（電気通信大学）・坂本 充生・阿部 拳之・蟻生 開人（サイバーエージェント）

・ベイズ推定と深層学習によるロバストなフルマラソン完走タイム予測モデルの構築とSHAP値による解釈

梶浦 雅之・稲葉 龍一郎・宮崎 陽輔・平野 賢（株式会社アシックス

・Expression Recognition Based on Ear Canal Shape Detection Using Earbud and Ultrasound

高 天・董 学甫・田谷 昭仁・西山 勇毅・瀬崎 薫（東京大学）

・手話CGアニメーション生成における空間位置制御手法の評価

内田 翼・箱﨑 浩平・金子 浩之（日本放送協会）

・カーネルにおけるサービス妨害攻撃緩和手法の提案

葛野 弘樹（神戸大学）

・AIの社会性とその課題：経済ゲーム実験によるAIの社会性評価指標の提案

後藤 晶（明治大学）

(4) FIT2025ヤングリサーチャー賞（10名）　[FIT2026(2026年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2025年11月）]

・白鳥 春菜(筑波大学)　・武智 莉央(大阪大学)　・藤山 仁聖(電気通信大学)　・齋藤 彩斗(群馬大学)
・井土 雅耀(神奈川大学)　・森脇 哲人(京セラ株式会社)　・坂本 直暉(神戸大学)　・岸本 広輝(KDDI総合研究所)
・鈴木 優人(青山学院大学)　・井内 柊仁(東京科学大学)

18. 情報規格調査会関連の表彰

(1) 標準化功績賞（2名）　[情報規格調査会総会（2025年5月）表彰] [情報規格調査会]

・入江 満(大阪産業大学)　・西村 和夫(駒澤大学)

(2) 標準化顕功賞（0名）

なし

(3) 標準化貢献賞（5名）　[情報規格調査会総会（2025年5月）表彰] [情報規格調査会]

・大木 哲史(静岡大学)　・菊池 拓男(職業能力開発総合大学校)
・木下 修司(長崎県立大学)　・草川 恵太(東京科学大学)　・高松 智弥(株式会社日立ソリューションズ)

(4) 国際規格開発賞（14名：11件）　[情報規格調査会 技術委員会（2025年4月～1月）表彰] [情報規格調査会]

・猪飼 知宏（シャープ株式会社）　・種田 圭吾（富士通株式会社）　・片山 和典（NTTアドバンステクノロジ株式会社）
・菊池 拓男（職業能力開発総合大）　・草川 恵太（東京科学大）　・鈴木 幸太郎（豊橋技術科学大）
・関 喜一（産総研）　・永井 彰（NTT株式会社）　・名田 元（富士通）　・林谷 昌洋（日本電気㈱）
・廣瀬 直樹（個人）　・藤川 正寛（オムロン）　・薮田 和夫（個人）
・山田 朝彦（産総研）

(5) 産業標準化事業表彰　[産業標準化表彰式（2025年10月）表彰] [経済産業省]

経済産業大臣表彰(個人 規格開発・認定・認証部門)：
・近澤 武(情報処理推進機構)　・杉村 領一(産業技術総合研究所)
イノベーション・環境局長表彰(個人 規格開発・認定・認証部門)
・鄭 育昌(富士通株式会社)　・永井 彰(NTT 株式会社)　・中神 央二(ソニー株式会社)　・藤川 正寛(オムロン株式会社)

（1）情報処理技術遺産（2件）
・FACOM9450 パーソナルコンピュータ
・日立クリエイティブワークステーション 2050
（2）分散コンピュータ博物館（なし）

その他・附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。

2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上

［第１号議案］

1-2. 2025 年度財務諸表等

１．貸借対照表

２．　正味財産増減計算書

　　付．参考：事業別サマリー

３．財務諸表に対する注記

４．附属明細書

５．財産目録

2025年度　財務諸表

１．貸借対照表　　2026年3月31日現在

（単位：円）

科目	当期末 2026年3月31日	前期末 2025年3月31日	増減
Ⅰ資産の部			
1.流動資産			
現金預金	579,878,871	541,428,851	38,450,020
未収会費	7,320,520	5,825,760	1,494,760
未収金	22,994,250	25,220,524	△ 2,226,274
前払金	3,819,766	11,124,630	△ 7,304,864
仮払金	357,942	0	357,942
支部仮払金	1,604,285	1,810,979	△ 206,694
貸倒引当金	△ 450,000	△ 220,000	△ 230,000
商品	800,189	1,332,693	△ 532,504
貯蔵品	569,821	699,997	△ 130,176
流動資産　合計	616,895,644	587,223,434	29,672,210
2.固定資産			
（1）特定資産			
退職給付引当資産	66,307,629	71,931,099	△ 5,623,470
学会長期運営積立資産	325,887,384	350,910,572	△ 25,023,188
山下記念研究賞積立資産	3,033,964	2,665,581	368,383
調査研究積立資産	201,265,494	203,839,406	△ 2,573,912
音楽情報科学積立資産	0	727,689	△ 727,689
規格国際会議開催積立資産	56,791,418	56,714,646	76,772
規格国際会議派遣積立資産	67,050,366	66,920,308	130,058
規格電子化積立資産	31,302,498	31,229,798	72,700
規格MPEG積立資産	1,710,621	0	1,710,621
規格長期運営積立資産	58,214,771	58,079,514	135,257
特定資産　合計	811,564,145	843,018,613	△ 31,454,468
（2）その他固定資産			
建物付属設備	314,600	2,759,900	△ 2,445,300
什器備品	15,791,059	17,284,244	△ 1,493,185
リース資産	16,141,488	9,042,000	7,099,488
ソフトウェア	65,422,830	67,472,330	△ 2,049,500
減価償却累計額	△ 66,578,019	△ 67,089,922	511,903
敷金	10,151,800	29,178,844	△ 19,027,044
その他固定資産　合計	41,243,758	58,647,396	△ 17,403,638
固定資産　合計	852,807,903	901,666,009	△ 48,858,106
資産　合計	1,469,703,547	1,488,889,443	△ 19,185,896
Ⅱ負債の部			
1.流動負債			
未払金	23,101,843	15,844,372	7,257,471
未払消費税等	3,383,400	1,787,000	1,596,400
未払法人税等	70,000	70,000	0
前受金	105,358,060	102,877,846	2,480,214
預り金	1,380,485	1,499,512	△ 119,027
仮受金	370,318	1,914,102	△ 1,543,784
1年以内返済リース債務	3,104,904	1,808,400	1,296,504
賞与引当金	17,900,000	19,000,000	△ 1,100,000
流動負債　合計	154,669,010	144,801,232	9,867,778
2.固定負債			
リース債務	7,415,232	4,068,900	3,346,332
長期未払金	1,081,080	0	1,081,080
退職給付引当金	66,307,629	71,931,099	△ 5,623,470
固定負債　合計	74,803,941	75,999,999	△ 1,196,058
負債　合計	229,472,951	220,801,231	8,671,720
Ⅲ正味財産の部			
一般正味財産	1,240,230,596	1,268,088,212	△ 27,857,616
（うち特定資産への充当額）	(745,256,516)	(771,087,514)	△ (25,830,998)
負債および正味財産合計	1,469,703,547	1,488,889,443	△ 19,185,896

２．正味財産増減計算書

2025年4月1日から2026年3月31日まで

（単位：円）

科目	当期 2025年度	前期 2024年度	増減	備考 （増減の主な理由ほか）
Ⅰ一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	1,595,334	314,610	1,280,724	
特定資産受取利息	1,595,334	314,610	1,280,724	
受取入会金	804,000	778,000	26,000	
受取入会金	804,000	778,000	26,000	
受取会費	177,658,000	179,599,180	△ 1,941,180	
正会員受取会費	127,578,450	130,723,240	△ 3,144,790	
学生会員受取会費	17,179,550	16,813,440	366,110	
賛助会員受取会費	32,900,000	32,062,500	837,500	
事業収益	500,561,968	433,408,465	67,153,503	
頒布・購読収益	39,767,458	40,709,167	△ 941,709	
掲載・別刷料収益	64,999,660	58,638,910	6,360,750	*トランザクション増
広告収益	51,928,369	32,421,688	19,506,681	*調査研究シンポ等増
参加費収益（含予稿集）	203,659,014	158,849,950	44,809,064	*調査研究シンポ・講習会連セミ等増
審査料・登録料収益	4,881,800	3,413,300	1,468,500	
研究会登録費収益	26,303,256	27,074,250	△ 770,994	
規格賛助員費収益	90,450,000	91,200,000	△ 750,000	
国際会議収益	2,835,492	4,682,478	△ 1,846,986	
分担金収益	4,138,825	2,770,955	1,367,870	
抄録料,著作権使用料等収益	2,499,585	3,245,378	△ 745,793	
受取民間委託費	9,098,509	10,402,389	△ 1,303,880	
受取補助金等	9,389,300	5,761,454	3,627,846	
受取民間補助金	146,000	100,000	46,000	
受取民間助成金	9,243,300	5,661,454	3,581,846	
受取負担金	1,710,621	19,770,899	△ 18,060,278	
受取負担金	1,710,621	19,770,899	△ 18,060,278	*標準化SC29総会&WGs Facilities Fee減
受取寄付金	2,600,000	3,050,000	△ 450,000	
受取寄付金	2,600,000	3,050,000	△ 450,000	
賞与引当金戻入	287,196	0	287,196	
雑収益	566,067	451,884	114,183	
受取利息	225,506	68,940	156,566	
雑収益	340,561	382,944	△ 42,383	
経常収益計	695,172,486	643,134,492	52,037,994	
(2) 経常費用				
事業費	487,010,889	446,232,401	40,778,488	
給料手当	111,368,777	114,053,506	△ 2,684,729	
賞与引当金繰入額	13,534,378	13,742,857	△ 208,479	
臨時雇賃金	10,482,123	10,553,868	△ 71,745	
退職金	0	0	0	
退職給付費用	916,280	924,750	△ 8,470	
福利厚生費	24,194,350	25,226,082	△ 1,031,732	
会議費	59,041,419	79,090,393	△ 20,048,974	*標準化SC29国際会議減
旅費交通費	39,383,497	35,956,121	3,427,376	
通信運搬費	14,044,124	14,504,772	△ 460,648	
減価償却費	990,198	990,198	0	
消耗品費	5,542,159	4,179,822	1,362,337	
印刷製本費	63,444,532	57,492,955	5,951,577	*調査研究・学術刊行ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾄﾗﾝｻﾞｸｼｮﾝ増
光熱水料費	65,815	76,837	△ 11,022	
賃借料	7,918,680	8,045,412	△ 126,732	
保険料	398,162	461,097	△ 62,935	
諸謝金	14,346,780	15,541,517	△ 1,194,737	
租税公課	314,495	145,601	168,894	
支払負担金	1,308,077	1,254,116	53,961	
広告宣伝費	1,000,000	5,000	995,000	
委託費	111,725,532	58,834,167	52,891,365	*調査研究シンポ・学術講習連セミ増
支払手数料	4,343,203	3,831,324	511,879	
支払分担金	2,008,583	1,017,762	990,821	
貸倒損失	468,390	229,500	238,890	
雑費	171,335	74,744	96,591	

科目	当期 2025年度	前期 2024年度	増減	備考 （増減の主な理由ほか）
管理費	217,217,311	206,645,978	10,571,333	
給料手当	37,682,546	46,827,194	△ 9,144,648	*事務局職員減
賞与引当金繰入額	4,365,622	5,257,143	△ 891,521	
臨時雇賃金	1,808,845	1,460,364	348,481	
退職金	117,850	541,656	△ 423,806	
退職給付費用	2,142,100	1,801,033	341,067	
福利厚生費	11,141,513	13,558,731	△ 2,417,218	
会議費	4,179,885	4,352,485	△ 172,600	
旅費交通費	1,870,788	2,485,626	△ 614,838	
通信運搬費	2,514,030	2,808,490	△ 294,460	
減価償却費	10,570,267	9,105,659	1,464,608	
消耗品費	2,344,263	2,545,365	△ 201,102	
印刷製本費	814,091	625,586	188,505	
光熱水料費	1,159,026	1,017,758	141,268	
賃借料	29,332,297	28,900,525	431,772	
保険料	184,364	99,611	84,753	
諸謝金	8,659,119	9,703,106	△ 1,043,987	
租税公課	13,943,173	13,729,755	213,418	
支払負担金	7,596,809	6,535,348	1,061,461	
支払助成金	286,000	268,000	18,000	
広告宣伝費	279,600	269,600	10,000	
委託費	69,246,809	49,423,926	19,822,883	*派遣・システム委託費増
支払手数料	4,981,378	5,002,747	△ 21,369	
貸倒引当金繰入額	450,000	220,000	230,000	
リース解約損	1,460,160	0	1,460,160	
雑費	86,776	106,270	△ 19,494	
経常費用計	704,228,200	652,878,379	51,349,821	
当期経常増減額	△ 9,055,714	△ 9,743,887	688,173	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外費用				
移転費	16,889,385	0	16,889,385	*事務局本部移転費増
固定資産除却損	1,912,517	2	1,912,515	
経常外費用計	18,801,902	2	18,801,900	
当期経常外増減額	△ 18,801,902	△ 2	△ 18,801,900	
当期一般正味財産増減額	△ 27,857,616	△ 9,743,889	△ 18,113,727	
一般正味財産期首残高	1,268,088,212	1,277,832,101	△ 9,743,889	
一般正味財産期末残高	1,240,230,596	1,268,088,212	△ 27,857,616	
Ⅱ正味財産期末残高	1,240,230,596	1,268,088,212	△ 27,857,616	

付. 参考：事業別サマリー（2025年度決算）

グループ	項　　目		収益			経費			差額					
			2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算
グループ１	会誌・学術刊行物		112,219	113,558	115,060	121,018	126,016	121,737	-8,799	-12,458	-6,677	-8,799	-12,458	-6,677
副会長	会誌理事	会誌	15,734	17,166	13,329	36,244	38,886	31,964	-20,510	-21,720	-18,635	-34,505	-35,834	-32,373
		会誌発送経費				13,995	14,114	13,738	-13,995	-14,114	-13,738			
	論文理事	ジャーナル	56,236	54,902	56,709	34,187	35,981	37,204	22,049	18,921	19,505	25,706	23,376	25,696
		トランザクション	11,881	12,883	17,472	8,354	8,649	10,577	3,527	4,234	6,895			
		出版-電子出版等	28,368	28,607	27,550	26,084	25,578	25,722	2,284	3,029	1,828			
		出版-歴史	0	0	0	2,154	2,808	2,532	-2,154	-2,808	-2,532			

			2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算
グループ２	調査研究・人材育成・学術講習会・国際		218,863	246,984	288,177	213,031	248,047	275,378	5,832	-1,063	12,799	5,832	-1,063	12,799
副会長	調研理事	研究会(山下賞・音楽含)	38,533	36,461	39,231	39,879	42,662	45,447	-1,346	-6,201	-6,216	6,024	2,718	4,638
		調査委員会	0	0	0	2,017	2,388	2,397	-2,017	-2,388	-2,397			
		シンポジウム等　※奇数年MIRU幹事	99,216	130,129	160,610	91,115	117,404	147,996	8,101	12,725	12,614			
		国際活動	2,129	590	1,238	843	2,008	601	1,286	-1,418	637			
	教育理事	教育活動	951	824	693	2,585	2,906	2,474	-1,634	-2,082	-1,781	-3,508	-2,985	-2,861
		教育活動-受託分	2,153	3,243	3,391	2,770	3,039	3,151	-617	204	240			
		資格認定	3,413	4,818	4,882	4,670	5,925	6,202	-1,257	-1,107	-1,320			
	事業理事	全国大会	36,467	33,891	35,934	28,919	30,843	27,284	7,548	3,048	8,650	9,014	3,758	13,736
		ＦＩＴ	25,963	26,160	28,824	24,046	25,546	23,816	1,917	614	5,008			
		プロシン	2,737	2,538	4,019	3,188	2,442	3,941	-451	96	78			
	技応理事	セミナー	7,120	8,220	8,860	9,894	10,812	9,983	-2,774	-2,592	-1,123	-5,769	-4,554	-3,044
		技術応用（ITﾌｫｰﾗﾑ）	110	110	165	3,105	2,072	2,086	-2,995	-1,962	-1,921			
		積立資産利息(調研) 他は2021年度長期積立へ集約	71	0	330	0	0	0	71	0	330	71	0	330

			2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算
グループ３	標準化		121,273	96,281	101,109	111,954	96,430	89,426	9,319	-149	11,683	9,319	-149	11,683
副会長	標準理事	標準化	121,273	96,281	101,109	111,954	96,430	89,426	9,319	-149	11,683	9,319	-149	11,683

			2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算	2024決算	2025予算	2025決算
グループ４	法人		190,781	189,786	190,826	206,877	248,890	236,489	-16,096	-59,104	-45,663	-16,096	-59,104	-45,663
副会長	総務理事	会員（直人件含）	181,090	178,405	179,469	10,381	13,859	12,208	170,709	164,546	167,261	-16,096	-59,104	-45,663
	財務理事	支部(②事業費+管理費)（直人件含）	6,590	8,701	7,332	21,570	25,781	21,286	-14,980	-17,080	-13,954			
	長期理事	共通　一般運用益／共通経費	219	15	776	13,940	34,570	32,321	-13,721	-34,555	-31,545			
	企画理事	管理(①表彰③賃借等④⑤管理割掛⑥協賛後援)	2,882	2,665	3,249	160,986	174,680	170,674	-158,104	-172,015	-167,425			

合計			643,136	646,609	695,172	652,880	719,383	723,030	-9,744	-72,774	-27,858	-9,744	-72,774	-27,858

本部合計			521,863	550,328	594,063	540,926	622,953	633,604	-19,063	-72,625	-39,541	-19,063	-72,625	-39,541

３．財務諸表に対する注記

３－１．重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準および評価方法

棚卸資産の評価基準および評価方法は、先入先出法による原価法によります。

(2) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、法人税法で定める定額法によります。なお、取得価額が30万円未満のものについては費用処理しています。

(3) 引当金の計上基準

1) 退職給付引当金は、職員に対する退職給与の支給に備えるため、自己都合による期末要支給額を計上しています。

2) 賞与引当金は、職員に支給する賞与の支出に充当するため、支給見込額を計上しています。

3) 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒実績率法により計上しています。

引当金の明細は、次の通りです。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	71,931,099	3,058,380	8,681,850	0	66,307,629
賞与引当金	19,000,000	17,900,000	18,712,804	287,196	17,900,000
貸倒引当金	220,000	450,000	220,000	0	450,000

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

３－２．特定資産の増減額およびその残高

特定資産の増減額およびその残高は次の通りです。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	71,931,099	3,058,380	8,681,850	66,307,629
学会長期運営積立資産	350,910,572	724,125	25,747,313	325,887,384
山下記念研究賞積立資産	2,665,581	1,505,505	1,137,122	3,033,964
調査研究積立資産	203,839,406	322,610	2,896,522	201,265,494
音楽情報科学積立資産	727,689	1,527	729,216	0
規格国際会議開催積立資産	56,714,646	90,652	13,880	56,791,418
規格国際会議派遣積立資産	66,920,308	153,577	23,519	67,050,366
規格電子化積立資産	31,229,798	85,844	13,144	31,302,498
規格長期運営積立資産	58,079,514	159,717	24,460	58,214,771
規格MPEG積立資産	0	1,710,621	0	1,710,621
合　計	843,018,613	7,812,558	39,267,026	811,564,145

３－３．特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りです。

科目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
特定資産				
退職給付引当資産	66,307,629	－	－	(66,307,629)
学会長期運営積立資産	325,887,384	－	(325,887,384)	－
山下記念研究賞積立資産	3,033,964	－	(3,033,964)	－
調査研究積立資産	201,265,494	－	(201,265,494)	－
音楽情報科学積立資産	0	－	()	－
規格国際会議開催積立資産	56,791,418	－	(56,791,418)	－
規格国際会議派遣積立資産	67,050,366	－	(67,050,366)	－
規格電子化積立資産	31,302,498	－	(31,302,498)	－
規格長期運営積立資産	58,214,771	－	(58,214,771)	－
規格MPEG積立資産	1,710,621	－	(1,710,621)	－
合　計	811,564,145	－	(745,256,516)	(66,307,629)

３－４．補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高

補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高は、次の通りです。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国・地方公共団体・民間　補助金･助成金						
札幌市ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ誘致促進助成金(FIT2025)	公財)札幌国際ﾌﾟﾗｻﾞ	0	4,000,000	4,000,000	0	
札幌市ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ助成金(FIT2025)	公財)札幌国際ﾌﾟﾗｻﾞ	0	436,000	436,000	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ･ﾋﾞｭｰﾛｰ補助金(SWoPP2025)	公財)高松観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝﾋﾞｭｰﾛｰ	0	309,000	309,000	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ･ｴｸｽｶｰｼｮﾝ補助金(DICOMO2025)	福島県知事	0	1,000,000	1,000,000	0	
令和7年度MICE開催補助金(IOTS2025)	公財)宮崎県観光協会	0	600,000	600,000	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ開催助成金(第88回全国大会)	公財)松山観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ協会	0	1,340,000	1,340,000	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ開催支援事業助成金(第88回全国大会)	一社)愛媛県観光物産協会	0	500,000	500,000	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ誘致推進事業補助金(DAｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ2025)	加賀市	0	118,300	118,300	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ開催事業補助金(CSS2025)	公財)おかやま観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ協会	0	750,000	750,000	0	
講演会助成金(東海支部講演会)	IEEE Nagoya Section	0	40,000	40,000	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ･ｴｸｽｶｰｼｮﾝ補助金(2025電気関係学会東北支部連合大会)	福島県知事	0	150,000	150,000	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ開催補助金(ISO/IEC JTC1/SC2&WG2 Meeting)	公財)新潟観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ協会	0	146,000	146,000	0	
合　計		0	9,389,300	9,389,300	0	

※注）いずれも当該事業年度内に目的たる支出は完了しています。

以上

４．附属明細書

４－１．特定資産の明細

「公益法人会計基準」の運用指針（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正　内閣府公益認定等委員会）に定める附属明細書の記載上の留意事項に従い、財務諸表の注記2および3に記載しているので、内容の記載を省略します。

４－２．引当金の明細

「公益法人会計基準」の運用指針（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正　内閣府公益認定等委員会）に定める附属明細書の記載上の留意事項に従い、財務諸表の注記1(3)に記載しているので、内容の記載を省略します。

５．財産目録　　2026年3月31日現在

（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）			
現金預金	手元保管	運転資金	191,418
	三菱UFJ銀行　本店	同上	400,595,910
	みずほ銀行　虎ノ門支店	同上	89,317,420
	三井住友銀行　三田通支店	同上	74,219,849
	三井住友銀行　本店	同上	3,463,440
	ゆうちょ銀行　019店（本部）	同上	9,807,609
	ゆうちょ銀行　008店	同上	2,283,225
未収会費	会費等に関する未収額	法人会計の未収分	7,320,520
未収金	参加費等に関する未収額	調査研究事業の未収分	3,625,580
	CITP登録料に関する未収額	人材育成事業の未収分	542,300
	参加費、広告等に関する未収額	学術講習会事業の未収分	8,535,872
	頒布、購読、広告他に関する未収額	会誌事業の未収分	1,357,570
	頒布、掲載、購読に関する未収額	学術刊行物の未収分	7,153,288
	JIS補助金・国際会議派遣費関する未収額	標準化事業の未収分	1,779,640
前払金	次年度IFIP等年会費等の前払い	実施事業および法人の管理運営業務に関連した前払分	2,631,432
	次年度職員福利厚生費/包括保険等の前払い	職員福利厚生費/包括保険等の前払い分	755,949
	次年度研究会･シンポ、年間サーバ利用料の前払い	調査研究事業の前払分	247,539
	次年度開催イベント関連経費の前払い	学術講習会事業の前払分	184,846
仮払金	研究会当日収支ｲﾍﾞﾝﾄ精算	調査研究事業の仮払分	357,942
支部仮払金	支部小口現金および九州支部ｲﾍﾞﾝﾄ精算	学術講習会事業の仮払分	1,604,285
貸倒引当金	短期債権の貸倒れによる損失対応額	各実施事業に関連した引当金（貸倒実績率法）	△450,000
商品	頒布用バックナンバーの図書相当額	学術刊行物事業の保有分（先入先出法による原価法）	800,189
貯蔵品	封筒、手提げ袋、ノベルティ消耗品相当額	各実施事業の保有分（先入先出法による原価法）	569,821
流動資産　合計			616,895,644
（固定資産）			
特定資産			
退職給付引当資産	三井住友銀行　三田通支店（普通・定期預金）	実施事業と法人の管理運営業務に関連した退職給付引当金に対応する積立資産	66,307,629
学会長期運営積立資産	三菱UFJ銀行　本店(普通)	本会活動の長期運営基盤強化および各種事業活性化施策	156,520,006
	みずほ銀行　虎ノ門支店(普通)	本会活動の長期運営基盤強化および各種事業活性化施策	169,367,378
山下記念研究賞積立資産	みずほ銀行　虎ノ門支店(普通預金)	調査研究事業の積立資産	3,033,964
調査研究積立資産	三井住友銀行　三田通支店(普通・定期預金)	調査研究事業の積立資産	201,265,494
規格国際会議開催積立資産	三菱UFJ銀行　本店(定期預金)	標準化事業の積立資産	56,791,418
規格国際会議派遣積立資産	三井住友銀行　本店(定期預金)	標準化事業の積立資産	67,050,366
規格電子化積立資産	みずほ銀行　虎ノ門支店(定期預金)	標準化事業の積立資産	31,302,498
規格長期運営積立資産	三菱UFJ銀行　本店(定期預金)	標準化事業の積立資産	58,214,771
規格MPEG積立資産	三菱UFJ銀行　本店(定期預金)	標準化事業の積立資産	1,710,621
その他固定資産			
建物付属設備	建物付属設備、本部関連設備	法人の管理運営業務で使用する備品	314,600
什器備品	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	法人の管理運営業務で使用する備品	13,112,621
	PC、サーバ、書庫ほか、規格関連設備	標準化活動事業で使用する備品	2,678,438
リース資産	コピー機ほか、本部	法人の管理運営業務で使用するリース資産	16,141,488
ソフトウェア	会員管理システム、経理システム、選挙システムほか	法人の管理運営業務のシステム	55,987,545
	研究会受付システム	調査研究事業で使用するシステム	702,000
	認定情報技術者管理システム	人材育成事業で使用するシステム	745,800
	出版歴史CMSソフト	学術刊行物事業で使用するシステム	3,150,000
	規格Webページ関連ほか	標準化事業で使用するシステム	4,837,485
減価償却累計額	什器備品･ｿﾌﾄｳｪｱの減価償却累計額（定額法）	実施事業と法人の管理運営業務に関連した左記累計額	△66,578,019
敷金	事務室借室化学会館/機振会館/CIRCLES神田小川町	法人の管理運営に供している資産	10,151,800
固定資産　合計			852,807,903
資産　合計			1,469,703,547

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
（流動負債）			
未払金	研究会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ開催に関する未払経費	調査研究事業の未払分	922,470
	CITPｼｽﾃﾑ委託等に関する未払経費	人材育成事業の未払分	1,418,791
	全国大会に関する未払経費	学術講習会事業の未払分	372,715
	会誌刊行に関する未払経費	会誌事業の未払分	1,268,984
	学術刊行物の刊行に関する未払経費	学術刊行物事業の未払分	140,169
	技術応用の派遣委託に関する未払経費	技術応用事業の未払分	420,357
	標準化業務に関する未払経費	標準化事業の左記未払分	950,746
	社会保険料等の未払経費	実施事業と法人の管理運営業務に関連した未払分	4,628,264
	退職金の未払経費	年度末退職者への退職金未払分	7,026,200
	法人の管理運営に関する未払経費	法人の管理運営業務･リース解約残債の未払分	5,953,147
未払消費税等	未払消費税等	実施事業と法人の管理運営業務に関連した未払分	3,383,400
未払法人税等	未払法人税等	法人税法上の実施事業に関連した未払分	70,000
前受金	次年度研究会登録費ほか受入額	調査研究事業の前受分	13,188,770
	次年度会誌購読料受入額	会誌事業の前受分	422,400
	次年度論文誌等購読料受入額	学術刊行物事業の前受分	9,417,000
	次年度規格賛助員費受入額	標準化事業の前受分	12,000,000
	次年度会費・入会金受入額	法人の管理運営業務に関連した前受分	70,329,890
預り金	源泉所得税等預り金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した預り分	1,380,485
仮受金	誤入金、未清算金等仮受金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した仮受分	370,318
1年以内返済ﾘｰｽ債務	コピー機ほか、本部	法人の管理運営業務に関わるリース	3,104,904
賞与引当金	2026年6月の職員賞与支給に関する引当金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した引当金	17,900,000
流動負債　合計			154,669,010
（固定負債）			
リース債務	コピー機ほか、本部	法人の管理運営業務に関わるリース	7,415,232
長期未払金	リース解約残債分の未払金	法人の管理運営業務に関わるリース解約残債分の未払金	1,081,080
退職給付引当金	2026年3月末日における自己都合による期末要支給額	各実施事業と法人の管理運営業務に関連した引当金（簡便法）	66,307,629
固定負債　合計			74,803,941
負債　合計			229,472,951
正味財産			1,240,230,596

［第１号議案］

1-3. 2025 年度監査報告書

監査報告書

2026 年 5 月 21 日

一般社団法人 情報処理学会

会　長　　萩谷　昌己　殿

一般社団法人 情報処理学会

監　事　　長谷川　輝之

監　事　　中山　　泰一

私たち監事は、2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの 2025 年度事業年度における事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1．監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその付属明細書について検討いたしました。

さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2．監査意見

（1）事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

（2）理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（3）計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

（4）あすなろ監査法人の監査の方法および結果は正当であると認めます。

以上

独立監査人の監査報告書

2026 年 5 月 21 日

一般社団法人 情報処理学会
　会長　萩谷 昌己　殿

あすなろ監査法人
東京都世田谷区
代　表　社　員
業 務 執 行 社 員　公認会計士　中島 茂

監査意見

当監査法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 124 条第 2 項第 1 号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人情報処理学会の 2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの 2025 年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

［第２号議案］

２．新名誉会員の推薦

新名誉会員の推薦

第690回理事会（2026年1月29日開催）の議を経て，定款第5条1項2号および名誉会員候補者推薦基準にもとづき，下記の方を新名誉会員に推薦することとしたい（順不同，敬称略）。

記

辻井　潤一　　佐々木　良一

［第３号議案］

３．一部役員の任期満了による新役員の選任

一部役員の任期満了による新役員の選任

定款第 27 条により，一部役員が本定時総会の終結と同時に任期満了退任となるので，2026 年 3 月に行われた役員選挙を踏まえ，下記の候補者をそれぞれ選任することとしたい。（参考：選挙投票率：★24.5%）

記

理事：塚本　昌彦（再任）
理事：相薗　敏子
理事：稲葉利江子
理事：鵜林　尚靖
理事：大内　一成
理事：鎌本　　優
理事：白井詩沙香
理事：谷口　幸子
理事：寺田　　努（再任）
理事：遠山紗矢香（再任）
理事：戸田　智基
理事：中澤　　仁
理事：披田野清良
監事：小川　秀人

注）代表理事および業務執行理事は，本総会直後に開催の新体制理事会において選定。

（参考）

留任役員	退任役員
代表理事（会　長）：　萩谷　昌己 代表理事（副会長）：　高橋　克巳	代表理事（副会長）：　砂原　秀樹
業務執行理事： 赤澤　紀子、荒川　　豊、河合　和哉、河合由起子、斎藤　彰宏、菅沼　拓夫、寺岡　秀敏、長谷川　亘、森　信一郎、矢野由紀子、山口　弘純	業務執行理事： 稲見　昌彦、大場みち子、緒方　広明、鎌田真由美、岸　知二、木村　朝子、高岡　詠子、千葉　直子、塚本　昌彦、寺田　　努、遠山紗矢香、山下　直美
監　事：　中山　泰一	監　事：　長谷川輝之

［第１号報告］

1-1. 2026 年度事業計画書

１．概況：重点活動

２．会員の異動予想

３．会議等に関する事項

４．実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

５．実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）

６．実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

７．実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

８．実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

９．実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）

11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）

12. 法人運営

2026 年度 事業計画書

1．概況および重点活動

生成 AI が進化・普及し，学術領域では論文執筆など，産業領域ではプログラム開発やコンテンツ制作などに一般的に使われるようになった。AI の適用はさらに広がり，フィジカル AI としてサイバー空間での活用からリアルワールドでの活用についても普及の兆しがある。また，これらの利用が一般化することで学問領域としての計算機科学の位置付けについての議論もなされるようになった。これらの進化・普及は，活動のアウトプット効率を向上する一方で，倫理・膨大なエネルギー消費・計算機への過度の依存による人類の能力低下などの課題をもたらすことが浮き彫りになりつつあり，情報処理技術で解決すべき課題はまだまだ多いのが現状である。

このような環境の中で，現在および未来にわたる社会課題解決や社会経済活動を支える基盤としての情報処理技術は，これまで以上に社会の広範囲で重要度を増してきている。そのため，情報処理分野での指導的役割を担う立場として本会の果たすべき役割はますます拡大しており，社会と文化の発展に寄与するためのより中長期的視点に基づいた事業の推進が求められている。

それらの社会的役割を果たすため,本会では,2020 年の本会創立 60 周年記念において学会宣言“More local and more diverse for global values”を提唱し，その実現に向けた具体的目標として，①広く新しい情報処理ユーザーへの学会活動の訴求，②広く新しい情報処理ユーザーへの新しいサービスの提供，③自らが運営しやすい学会の情報システムと業務プロセスの整備，の 3 つを柱とする 5 ヶ年の中期計画を 2021 年度に制定し，2025 年度にその総括を行った。

2026 年度は総括の結果を踏まえて継続すべき企画や施策への取り組みを明確化し，新価値創造ならびに価値の継続的な向上に繋げていくために，自己評価を怠らず下記に示す重点活動項目の活動を通じて本会が社会に提供する価値拡大に寄与する。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する社会環境の中で，学会を安定的に運営しつつ，これを発展させるためには，学会として中核的な活動は大切にしつつ,各種活動を効率化するためのオンラインの活用や業務の DX 化の更なる強化に取り組む。社会環境の変化に対応した学会の新たなミッションを定義・発信するだけでなく，情報処理分野により社会の変革を先導する学会であるための運営体制が必要である。このため，下記の施策を実施する。

① 経営企画委員会，広報広聴戦略委員会が連携し，本学会のビジョンおよび社会的意義を発信するとともに，国や地域への政策提言等を通し，情報処理分野による社会の変革を先導する。

② 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化に取り組み，更なる会員数の増加を目指す。

③ 長期戦略理事を中心に，各事業の健全な継続性に向けて前年度整理をした各事業の課題について，その解決方法について投資を含めた中期計画立案を進めていく。立案にあたっては現計画の3つの柱(訴求・サービス・基盤整備）に，2025年度の総括で洗い出した新論点（ビジネスモデル改善等）を組み込み，より実効性の高い計画を目指す。

④ ジュニア会員獲得の施策として,2025 年度に引き続き,小中高校教員および教員のうち教育行政職へ出向している者を対象とした「小中高校教員支援プログラム」を初等中等教育委員会が中心となって推進し，ジュニア会員制度の定着・活用および，さらなる会員数の増加を図る。

⑤ 第三者機関であるアドバイザリーボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。

⑥ 公平な社会の促進を宣言したダイバーシティ宣言や，改訂・公開された倫理綱領について，さらなる普及を目指して,ダイバーシティ委員会は，他の委員会との連携，他団体との合同推進活動や他団体サポート活動などを推進する。

⑦ 去る 2020 年 11 月に公表した「60 周年宣言」に基づき 2021 年度に策定した「中期計画」を推進する

とともに，本会各種活動の「データドリブンな意思決定」に向け策定した「本会主要アクティビティ」は，その名称を「学会主要活動指標」として理事会レベルで共有し活動の活性化・データに基づく意思決定の定着をめざす。

⑧ 日本 IT 団体連盟（IT 連）とそれぞれの委員会にメンバを出し合い，新たなイベント，サービスを検討し，より多くの IT エンジニアへのサービス提供を目指す。

1.2 IT エンジニア向け活動の強化

従来からの認定技術者制度，各種セミナー，イベントや IT フォーラム活動の実施，各種団体，企業との連携による活動推進に加え，相互理事制を取り関係を強化した日本 IT 団体連盟（IT 連）との連携を活用し，活動内容の見直しや新しい企画立案を推進する。

① 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度については，CITP の再成長のための取り組みとして「資格拡充検討 WG」の検討を進める。また、関係機関との協力体制の維持／向上につとめる。広報に関する取り組みとしては，引き続き IT 技術者を対象とした本会の他事業と連携してプロモーション活動を企画・実施する。

② デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，IT フォーラムなどの相互連携活動により，IT エンジニアの育成に貢献するとともに，会員増，収入増を図る。

③ 日本 IT 団体連盟（IT 連）のメンバを IT 産業界アドバイザーとして技術応用委員会に招聘し，連携を強化する。より広範囲な IT エンジニアに寄与し得るセミナー，イベント，資格制度とする検討を開始し，IT 連加盟団体会員へのサービス機会の拡大を目指す。

④ 日本 IT 団体連盟（IT 連）の他，全国地域情報産業団体連合会（ANIA），情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），電子情報技術産業協会（JEITA），科学技術振興機構（JST），先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC），インターネット協会（IAJ），情報通信技術委員（TTC），日本データ通信協会（JADAC），日本規格協会（JSA），モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC），IT スキル研究フォーラム（iSRF），iCD 協会，日本情報技術取引所（JIET），学びのイノベーション・プラットフォーム（PLIJ）などの IT エンジニアを対象とする団体や企業との連携をさらに深め，共同イベントの開催などを推進して，会員増に貢献する。

1.3 学生・若手研究者育成の活動推進

初等中等教育を含む情報教育プログラムの推進，今後の情報教育のグランドデザインの検討を推進していく。

① 2025 年実施の大学入学共通テスト「情報」の出題を受け，今後一層多くの大学の入試における「情報」の出題の実現に向けた活動を行う。また国公私立大学の個別入試においても「情報」の出題が一層活性化することを期待し，情報教育の推進に全面的に協力する。また，2022 年度から始まった学習指導要領の高校教科「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」に関する教員研修に対し，講師の派遣や文科省の全国教員研究プラットフォーム（Plant）を通じた研修の提供，オープン教材 IPSJ-MOOC の提供を行っていく。また，新たな制度として 2025 年度から実施されている小中高校教員および教員のうち教育行政職へ出向している者を対象とした「小中高校教員支援プログラム」を継続して実施する。さらに，次期学習指導要領に向けた研究・調査を行う。

② 国立情報学研究所と協力してグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」の後継となる「JST 次世代科学技術チャレンジプログラム」の共同開催を継続する。

③ 小中高校生，高専生，大学学部生の一部を対象とする会費無料の「ジュニア会員制度」を活用し，学生・生徒の育成を支援するとともに，ジュニア会員期間終了以降における有料学生会員への移行・学会活動の継続を促進する。若い IT 人材を育成し日本の将来の成長に資する。また，2025 年度に 5 年間の期限で開始した小中高教員および教員のうち教育行政職へ出向している者のための新たな「小中高校教員支援プログラム」の効果検証を継続する。

④ 研究会や支部などの協力も得て,学生や若手研究者,ジュニア会員のためのイベントを企画開催する。
⑤ 若手研究者が招待講演を経験することで研究実績につながることをねらい,各研究会が主催している研究発表会・シンポジウムにおいて,若手研究者に招待講演を依頼する際に,講演者に支払う謝金を学会が支援する「若手研究者招待講演謝金補助」事業を進める。
⑥ 中高生情報学研究コンテストについては,2023 年度に開始したブロック大会を支部とともに継続して実施,各専門分野の審査を担当可能な審査員の拡充に努める。開催形式について改善すべき点があれば改善して行く。加えて、全国大会当日には、中高生情報学研究コンテストと連動させ,初等中等教員等が連携を深めることを目的とした懇談会を実施する。
⑦ DX ハイスクール施策（文科省）に協力して,支部とともに情報教育のための人材支援を行う。

1.4 会員サービスと広報広聴活動の充実

会員サービスと満足度の向上および広報宣伝の充実を図るため,広報広聴戦略委員会が中心となって「広報」と「広聴」を戦略的に推進し,魅力ある学会作りを進めていく。

① 2025年に集約した4つのワーキンググループ（ウェビナー/学生交流向け/産業界向け/情報発信)の活動を継続する。ガイドラインは,広報広聴戦略委員会にて必要に応じた改訂等の対応を進めていく。
② 学会のセミナー・イベント,委員会など各種活動を主にオンライン開催,現地開催,ハイブリッド開催など最適な形態での開催を推進する。
③ オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進,ビデオを中心とした IPSJ-YouTube や JMOOC 等を活用したサービス提供形態の検討を推進する。
④ 会員・非会員の活動傾向等を分析し,目的に合わせたステップメール,セグメントメールによる各種交流会等を通じて,入会促進,退会防止活動を推進する。
⑤ 2024 年度にリニューアルした Web サイトの FAQ を随時使い易いものにアップデートしていく。
⑥ 2024 年度に検討した「会員サービスの差別化」に着目した「入会に結びつけるための広報戦略」の検討を継続する。
⑦ 「賛助企業との交流会」を開催する。

1.5 情報システム・DX の推進

情報システム・DX委員会が主体となり,学会情報システムの見直しに加え,事務局業務のBCP/DX化を推進し,リモートワークに対応したデジタル化を目指す。

① 情報学広場は,2025年度に開発したクレジットカード決済の3Dセキュア対応を実稼働させ,電子図書館システムの安定運用に努める。
② Web施策関連のメール配信に関しては開封率,URLクリック率の調査および効果検証を行っていく。同時にセグメント切り分け方法やコンテンツの継続的な見直しの実施を検討する。
③ 学会Webサイトやメールサーバなどの本部情報システムについて,学会のDX活動,広報広聴マーケティング活動と連動した改善項目を抽出・精査し,今後のコンテンツ充実やシステム改善に向けた検討を行う。
④ 事業継続性の強化策（BCP対策・事務局情報システム強化）サーバ類の冗長化ならびにオンプレミス・サーバのクラウド化を推進する。
⑤ Web/メールサーバの再構築・クラウド化・冗長化を検討する。

1.6 調査研究・学術講習・会誌・論文活動の継続推進

変革期における学会誌・研究論文や調査研究のあり方を継続検討していく。学会誌はオンライン記事の強化を行うとともに,好評だった過去の特集などのオンライン化を推進する。論文誌については,オープンアクセス時代に向けたあり方について継続検討していく。調査研究・学術講習については開催方法の多様化を進めていく。

① IT を活用した効果的な研究会活動を推進する。特に各種オンラインツールを利用した新しい研究会

やシンポジウムのよりよい開催方式(オンライン開催，ハイブリッド開催を含む)や，調査研究活動の財政面での最適化等を検討する。

② 各種オンラインツールを利用した全国大会，FIT，セミナーなど各種イベントの最適な開催方式(ハイブリッド・現地・オンライン開催)を財務面も含めて推進する。

③ 会誌は，オンライン特集記事や，「note」の定着化とともに，会誌ウェビナーや記事のビデオ化をはじめとした会員に有益な情報を届けるための方策を検討する。

④ 紙版と電子版の内容の整理，紙版の必要性など，長期課題として検討を行う。

1.7 グローバル化の推進

研究会活動を中心に，国際会議を積極的に主催，共催し活動の活性化を図るとともに，海外学協会とのニューノーマル時代の新たな連携を推進する。また、留学生参加による研究会の活性化を図る。

① IEEE や ACM 等のグローバルトップの国際学会活動を参考にして，学会のグローバル運営戦略を検討し，これを実施する。また，Joint Award の継続，浸透を図る。

② アジアの関連学会である中国 CCF(China Computer Federation)，韓国 KIISE (The Korean Institute of Information Scientists and Engineers)と中長期的な CJK 連携の強化活動を加速し，国際会議の合同開催等を継続する。

③ SC44 (Consumer protection in the field of privacy by design) の国内審議体制の構築を進める。また JTC 1 の運営・方向性を議論する直属の AG，AHG についても，優先度を見極めながら対応していく。

④ 中国 CCF より提案された APAC (Asia-Pacific Alliance for Computing) が 2025 年度に創設され、本会も参画、長期戦略理事 2 名が Executive Committee の委員として、今後の活動を実施していく。

⑤ 国内大学に在籍する留学生の研究会参加を奨励し、外国語による議論や英字による論文の普及を図る。

2．会員数について

下記の取り組みを実施し，会員数の増加を目指す。

2.1 新規会員の獲得と会員減の防止

① 広報広聴マーケティング関係として，前年度に試行した施策を継続推進する。

② 各活動において学会の価値向上に取り組み，かつ適宜理事会レベルで共有した「学会主要活動指標」を振り返り新規会員の獲得，各種実施事業の活性化に努める。

③ 会員・非会員の活動傾向等を分析し，目的に合わせたステップメール，セグメントメールによる各種交流会等を通じて，入会促進，退会防止活動を推進する。

④ 会費の未払いに対する事前通知など，会費滞納に伴う会員資格の喪失を防止するよう努める。

⑤ 外部 IT 団体との連携推進により，産業界に属する会員や賛助会員への学会価値向上に向けた検討を進める。

⑥ 非会員も含めたマイページのアクセス率向上を推進する。

2.2 小中高校教員，学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

① ジュニア会員活性化委員会後継事業を中心にジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し，学生会員の獲得を促進する。

② 学生会員の 1 研究会無料登録を継続し，研究会活動への参画を通じて学生会員の育成に努める。

③ 学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上のため，学生から企業若手社員をターゲットとしたコンテンツの拡充によって学会の魅力を向上させる。

④ ジュニア会員獲得の施策として開始した「小中高校教員支援プログラム」を継続する。

会員種別	会員数		増減数	備考：2026 年度の異動内訳				
	①2026 年度末	②2025 年度末	①－②	入会		退会		資格喪失
名誉会員	47	45	2	0 2	新入会 正会員から異動			
正会員	13,606	13,803	−197	520 820 0	 学生会員から異動 ｼﾞｭﾆｱから異動	1,050 2	 名誉会員に異動	485
学生会員	3,535	3,424	111	1,920 60	 ｼﾞｭﾆｱから異動	1,010 820	 正会員に異動	39
ジュニア会員	3,690	3,550	140	1,300		1,100 0 60	 正会員に異動 学生会員に異動	
個人会員 計	20,878	20,822	56	4,622		4,042		524
賛助会員 （口数）	251 (591)	257 (654)	−6 (−63)	10 (10)		16 (73)		

＊2026 年度期末正会員数には終身会員 969 名を含む。

３．会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を活用し効率的な運用に努める。

3.1　2026 年度通常総会

2026 年 6 月 15 日（月）に，出版クラブ（東京都千代田区）にてハイブリッド（参加型）開催する。

3.2　理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とし，理事会は年度内に 6 回以上開催し，学会活動に関する諸事項を審議する。また，各種委員会は必要に応じて開催し，所轄活動に関する諸事項を審議する。

3.3　アドバイザリーボード

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て，引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。

3.4　各支部との連携推進

「中高生情報学研究コンテスト」のブロック大会など，学会創立 60 周年宣言の“More local and more diverse for global values”の「More local」促進に向けた活動を本部と連携し推進する。

４．実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

学会のコアの活動として重点的に取り組み，関連諸活動とも連携して研究会登録数の減少を食い止めるとともに研究会登録費の改訂により収入増も目指す。具体的には下記の取り組みを推進する。

① IT を活用した効果的な研究会活動を推進する。特に各種オンラインツールを利用した新しい研究会

やシンポジウムのよりよい開催方式(オンライン開催，ハイブリッド開催を含む)や，調査研究活動の財政面での最適化等を検討する。

② 国の政策や方針に関する各研究分野の提言提案活動を推進する。

③ 本会として必要なグローバル化のための議論を継続する。国際会議を積極的に主催，共催し財務の健全化に努める。CCF,KIISE との連携を軸に CJK での活動を加速し，国際会議の開催等を継続する。

④ 研究会活動の国際化，特に，海外学会との共同シンポジウム，合同ワークショップを積極的に開催し，国際的かつ継続的な“研究コミュニティの形成”を行い，新しい研究，技術の国際的発信を継続的に行う研究活動環境を構築する。

⑤ 調査研究運営委員会直下に設置した 1 つの研究グループを中心に，領域横断的な研究分野に対する研究活動実施体制の深化を含む，研究コミュニティの持続的発展を支える体制構築を促す環境整備を継続して検討・実施する。

⑥ 学生・若手に向けた積極的な取り組みにより，将来を担う学生・若手研究者の育成を図る。学生会員の 1 研究会無料登録制度や学生プログラムコンテスト等，若手研究者の積極性を促すような企画を計画・実施する。

⑦ 調査研究積立資産を活用し，個々の研究会活動を超えて，領域単位のプロジェクト，若手表彰，国際化の推進など調査研究全体の活動も積極的に展開する。研究会の収支の透明化を図り，適切な管理費の負担を行う。

⑧ 若手の意見を吸上げ，研究会の動画配信・動画コンテンツを含む研究会資料などの取り組みを継続して実施する。その他，必要に応じて，研究会組織の見直し，研究発表会への新たな参加方法の検討などを行う。

⑨ 若手研究者が招待講演を経験することで研究実績につながることをねらい，各研究会が主催している研究発表会・シンポジウムにおいて，若手研究者に招待講演を依頼する際に，講演者に支払う謝金を学会が支援する「若手研究者招待講演謝金補助」事業を進める。

⑩ 情報規格調査会と連携し，標準化活動に積極的に参加する。

⑪ 国内大学に在籍する留学生の研究会参加を奨励し、外国語による議論や英字による論文の普及を図る。

4.1 研究発表会

全41研究会，4研究グループ（詳細はp.82「付表1」参照）により，150回程度（前年度149回）の研究発表会を開催する。

4.2 シンポジウム・ワークショップ等

シンポジウム・ワークショップ等については，マルチメディア，分散，協調とモバイル（DICOMO2026）シンポジウム，コンピュータセキュリティシンポジウム（CSS2026）やインタラクション2027など計19回の開催を計画する（詳細はp.83「付表2」参照）。

4.3 表彰

優れた研究発表および業績等に対して，山下記念研究賞，業績賞，情報処理技術研究開発賞，マイクロソフト情報学研究賞，IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research，IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award，若手奨励賞などを贈呈する。

5．実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）

初等中等教育を含む情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施する。

5.1 情報教育

(1) J17 カリキュラム標準の更新

2017 年度に策定した J17-CS, J17-IS, J17-CE, J17-SE, J17-IT の情報専門学科用カリキュラム標準および，一般情報教育用カリキュラム標準 J17-GE について，データサイエンス（DS）領域を含めて後継となる J27 カリキュラム標準を 2027 年度に策定すべく，CE, CS, CyberSecurity, DS, GE, IS, IT, SE の各領域のサブワーキンググループにおいて，その領域の調査や議論を実施する。

(2) 初等中等教育での情報教育支援

「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)と連携して，初等中等教育現場の情報分野の教員の養成支援，教材開発や出張授業などを通じて，教育現場支援をさらに推進する。また，国の情報教育の方向および内容に関して，関係する学術団体等とも連携して，提言の公表を行うほか，情報教育課程の設計指針の改訂に協力する。さらに，NAPROCK（高専プロコン交流育成協会），IT ジュニア育成交流協会等の団体と連携を行う。文科省が推進する「高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）」に対して，本会として学術的コンサルティングや指導者教育・人材育成などを全面的に支援，推進する。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定）

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため，日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続する。あわせて，認定校・受審予定校のコミュニティの育成，専門職大学院認証評価などの活動支援を行う。また，JABEEに協力して情報専門系課程教育の品質保証に努め，ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進する。さらに，JABEEと連携し，ソウル協定に基づく国際水準との整合を図りつつ，情報専門系教育の品質保証と高度化に努める。

5.3 認定情報技術者制度

認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度については，引き続き個人認証および企業認定の新規応募者や更新審査を実施する。CITP の再成長のための取り組みとして，「資格拡充検討 WG」での検討を進める。また，広報に関する取り組みとしては，引き続き IT 技術者を対象とした本会の他事業（デジタルプラクティス，IT フォーラム，連続セミナー，賛助会員向けイベントなど）と連携してプロモーション活動を企画・実施する。

5.4 情報教育を担う教員への支援

現職研修も含めた「新たな教師の学びの姿」の実現のために充実した教員研修支援を継続する。また，高校の情報科教員の養成を支援する。加えて，2022 年度から始まった学習指導要領の高校教科「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」に関する教員研修に対して，独立行政法人教職員支援機構の全国教員研究プラットフォーム Plant を通じた研修の提供，オープン教材 IPSJ-MOOC の提供を継続する。また，2024 年度まで実施した，小中高校教員および教員のうち教育行政職へ出向している者を対象とした会費割引キャンペーンに引き続き，2025 年度から新たに開始された「小中高校教員支援プログラム」を引き続き実施する。

5.5 その他

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムを企画運営するほか，全国大会や FIT を通じて情報発信を行う。特に，高校教科「情報」およびその代替科目を中心とした情報教育の一層の振興をはかるため，高校教科「情報」シンポジウムを開催する。

(2) 大学入試科目への「情報」導入を拡張するための活動

大学入学共通テスト「情報」の出題を受け，今後一層多くの大学の入試における「情報」の出題の実現に向けた活動を行う。大学入学共通テスト「情報関係基礎」の問題・正解・自己評価等を情報関係基礎アーカイブに追加するとともに，「情報」の問題・正解・自己評価等についてもアーカイブするため

の検討を進める。共通テスト「情報関係基礎」や「情報」に関して大学入試センターから依頼があれば，それに対応する。国公私立大学の個別入試においても「情報」の出題が一層活性化することを期待し，情報教育の推進に全面的に協力する。

(3) ジュニア（小中高生）世代の活性化をはかる活動

若い世代への本会のプレゼンス向上をめざして，中学生，高校生，高専生，大学生等を対象とするコンテストの運営および後援（表彰活動）等を推進する。具体的には，全国大会において中学生，高校生および高専生（3 年生まで）を対象とした中高生情報学研究コンテストを継続実施するとともに，初等中等教員同士が連携を深めるためのイベントを開催することで，教員と連携しながら中高生に対する情報教育の一層の活性化を図る。なお，中高生情報学研究コンテストについては，2023 年度に開始したブロック大会を支部とともに継続して実施，各専門分野の審査を担当可能な審査員の拡充に努める。開催形式について改善すべき点があれば改善して行く。国立情報学研究所と協力してグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」の後継となる「次世代科学技術チャレンジプログラム」を通じて，情報分野におけるトップクラスのエリート養成を推進する。情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために，情報システム教育コンテストを開催する。高専の情報教育を一層推進するために，全国高専プログラミングコンテストの運営に協力する。ジュニア会員活性化委員会およびその後継事業により，ジュニア世代の情報学分野での活動支援をさらに推進する。また，情報系学部への女子進学率を増やすための取り組みを推進する。必要な調査を実施するため，委員会のメンバで科研費を申請している。

(4) 情報学分野に隣接する領域の教育への協力

J27 カリキュラム策定に向けた取り組みの中で，データサイエンス・AI 領域のカリキュラム策定方針について議論する。また，この策定に向けて，各種情報を収集する。

(5) 情報教育の国際化への活動

ソフトウェア工学教育を始め国際化に関して引き続き国際動向を調べる。

(6) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め，初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために，学会誌に「ぺた語義」，「note オンライン記事」などの教育関連連載記事を企画・編集する。特に，教科「情報」の入学試験問題に関する記事を発信する。

(7) 表彰，その他

① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため，優秀教育賞・教材賞を贈呈する。
② 教材，講義素材，講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行う。
③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討する。
④ 次期学習指導要領に向けた研究・調査を行う。

6．実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

学術講習会は，学会の重要な収入源であるとともに，学生も含めた若手研究者の活動の場あるいは企業の IT 技術者の情報交換の場でもある。2026 年度は下記の方針で取り組む。

① 全国大会は，名城大学天白キャンパスにてハイブリッド開催予定。
② 情報科学技術フォーラム（FIT）は，北九州学術研究都市（北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学）にてハイブリッド開催予定。
③ 企業の IT エンジニア向けの連続セミナー，短期集中セミナーなどは魅力的なテーマを選定し，連続回数や一回当たりの講演時間の適正化を図りつつ活動を活性化する。
④ イベント周知のため，学会誌への定期的な記事掲載，Web や SNS など各種媒体での告知を検討する。
⑤ 支部企画によるジュニア会員向けのプログラミング教室やプログラミングコンテストを継続する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第 89 回全国大会

会期：2027年3月4日(木)～6日(土)，会場：名城大学　天白キャンパス
参加者目標：約 4,500 名（前年度参考 3,627 名）
中高生情報学研究コンテストも継続実施する。

(2) 第 25 回情報科学技術フォーラム（FIT2026）

会期：2026 年 9 月 2 日(水)～4 日(金)
会場：北九州学術研究都市（北九州市立大学，九州工業大学，早稲田大学）
参加者目標：約 2,500 名（前年度参考 2,277 名）
選奨セッション，トップコンファレンスセッションを継続実施する。研究会との合同開催も継続し，集客とスポンサー獲得にも注力する。

(3) 表彰

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈する。

6.2 セミナー／その他イベント

(1) 連続セミナー2026

産業界向けのイベントとして以下を企画，オンラインで全12回の開催，一部ハイブリッドでの開催を予定している。また、セミナーを受講していない潜在顧客へのアンケート分析などを実施、新たな連続セミナーのあり方を検討する。
開催：2026年6月～12月
延べ申込者数目標：1,013名。※前年度参考：延べ申込者数983名
全体テーマ：「実世界に広がるAI：情報技術の融合と社会展開」
※各回テーマは以下を予定（仮題）
① 生成AIを巡る最新動向と展望
② LLM ハルシネーション ～その原因と対策～
③ AIエージェントの現在地と展望 ～技術発展、産業創出、そして信頼される社会実装へ～
④ 生成AIを活用したソフトウェア開発の最前線
⑤ フィジカルAI
⑥ 宇宙×情報処理技術 ～ 宇宙研究開発における情報処理技術の現状と課題
⑦ フェイク問題（コグニティブセキュリティ、陰謀論）
⑧ 自動運転
⑨ デジタルヒューマン
⑩ DXで推進するドローン利活用
⑪ 量子イノベーションの最前線：社会実装への挑戦
⑫ 上記③をハイブリッド、終日開催にて調整中

(2) 短期集中セミナー等

IT エンジニア向けの標準化関連をテーマにしたイベントをタイムリーに開催する。関連団体と共催しセミナーを開催する。ジュニア会員向けのプログラミング教室をジュニア会員活性化委員会と連携し開催する。また，広報広聴関連の方で実施している「IPSJ 賛助企業との交流会」と連携して職場見学も兼ねたオフラインイベントの実施を検討する。

(3) IT フォーラム 2027

4 つの IT フォーラムの年間活動発表を含め産業界の課題を中心に議論する。
会期：2027 年 2 月 5 日予定，会場：オンライン開催予定，参加者数見込：400 名
一部のフォーラムは講演者が現地に集まるハイブリッド形式で配信を検討している。

①本イベント開催形態，プログラム等の改善などにより，集客力を強化する。
②ITフォーラム，デジタルプラクティスとの連携によりシナジー強化を図る。

(4) プログラミング・シンポジウム

以下3つのシンポジウムを開催する。

① 夏のプログラミング・シンポジウム　　会期：2026年9月頃予定　オンラインまたは合宿形式
② 情報科学若手の会　　会期：2026年10月頃予定　オンラインまたは合宿形式
③ 第68回プログラミング・シンポジウム　会期：2027年1月頃予定　オンラインまたは合宿形式

6.3 ITフォーラム

① 次の 3 つのフォーラムで活動する。
サービスサイエンス／コンタクトセンター／CITP
② 年1回の成果報告と評価を実施し，それに基づくフォーラム組み替えの仕組みを確立し，新たなフォーラムの立ち上げを検討する。
③ 戦略的な広報活動とアウト・リーチする仕組みの確立のため，日本IT団体連盟（IT連），情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），電子情報技術産業協会（JEITA），モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC），一般社団法人情報通信技術委員会（TTC），インターネット協会（IAj），ITスキル研究フォーラム（iSRF），iCD協会など，ターゲットとする関連コミュニティとの連携を強化する。また，ITエンジニアが学会に何を期待するのかを，フォーカスグループなどにより調査する。
④ 論文誌トランザクションデジタルプラクティス編集委員会／会誌デジタルプラクティスWG，ITプロフェッショナル委員会との連携を強化して，ITエンジニアに魅力のあるコミュニティに向けて検討する。

6.4 各支部による支部連合大会，講習会等の開催

各支部において支部連合大会，講習会，ジュニア会員向けイベント（プログラミング教室やプログラミングコンテスト），中高生情報学研究コンテストブロック大会等を開催する。

7．実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

全会員に冊子で配布される唯一の媒体として「読まれる会誌」，「魅力ある会誌」を目指す。会員からのフィードバックを参考に，特集と連載中心の編集を行う。

7.1 会誌「情報処理」

(1) 紙・電子・note 媒体の運用最適化

① 紙（冊子），電子版、note 各媒体の特性・ニーズ，リーチ範囲，会員への提供価値，発行にかかるコスト（例：冊子の印刷・郵送コスト）等を総合的に勘案し，最適な発信・運用方針を策定する。
② 紙では十分に伝達できない体験型コンテンツの拡充を図り，会誌付録の企画や，記事と連動したマチメディアコンテンツの掲載を推進する。

(2) 記事コンテンツの強化

① 時事性・話題性の高い企画や多様な連載を充実させ，非専門家を含む幅広い読者に開かれた会誌を目指す。
② 分野横断的な視点から，幅広い領域と接続する情報技術を扱う記事を強化する。
③ デジタルプラクティス，論文誌との連携を強化し，連動した特集を企画していく。
④ 研究室，研究所のインタビュー・取材記事を検討する。

⑤ 小中高生（ジュニア会員）向け記事を拡充する。
⑥ 非専門家・初学者・教育現場の教員を対象とした記事や，授業活用可能な講義素材型記事を企画する。
⑦ 国内外会議の周知および参加促進を目的として，会議レポートを掲載する。

(3) 会員からのフィードバックの反映

① ジュニア会員を含む 100 名超の会員モニタの意見を反映し，記事品質の向上を図る。

7.2 編集・広報機能の強化と収益基盤の確立

(1) 編集体制の拡充・企画力強化

① ダイバーシティに富む編集委員会を構成し，各 WG から年 1 回の企画提案を促進することで，特定分野に偏らない情報学・計算機科学分野全体を俯瞰する編集体制を構築する。
② 別刷販売や書籍化，関連広告掲載が可能な特集企画を積極的に展開し，収益機会の拡大を図る。

(2) 広報・情報発信の強化（デジタル展開）

① note，SNS，会誌ウェビナー等のデジタルチャネルを活用し，情報発信力の強化を図る。
② 技術書典等の技術者向けイベントへの出展を通じて，学会の認知度向上および新規会員獲得を推進する。

(3) 収益基盤の強化（広告・会員関連収益）

① 会誌，IPSJ メールニュース，バナー広告，同封サービス等の媒体価値を高めるとともに，広報広聴戦略委員会と連携して広告獲得を推進し，広告収入の増加を実現する。

8．実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

論文誌の論文投稿数，掲載数の増加と論文の質の確保を継続する。英文論文誌 Journal of Information Processing（以下，JIP）は基幹英文論文誌として育成・強化する。トランザクションのインパクトファクターの取得も目指す。

8.1 論文誌（ジャーナル／JIP／トランザクション）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

1）論文投稿数の増加に向けた取り組み，および掲載数の増加に向けた取り組み
① 年間の論文掲載数は，240 編（ジャーナル 160 編，JIP preprint80 編）以上を目標とする。
② 論文執筆のための心構えの広報の強化，および倫理審査を必要とする研究への啓発による投稿論文の質の向上を図るとともに，生成 AI の適切な利用と倫理的配慮に関するガイドラインの周知を進め，生成 AI 利用に起因する不備の防止と内容の充実を図る。また，「べからず集」の徹底による査読の質の向上とそれに伴う採択率の安定・向上を目指す。
③ 研究会推薦論文制度や招待論文制度等を積極活用し，良質の論文の投稿を喚起する。
④ 付録データの活用を促進し，論文の価値の向上を目指す。
⑤ 論文誌編集委員会企画の特集号を継続する。
⑥ 全国大会でイベント企画（生成 AI の適切な活用を含む「論文必勝法」）を実施する。イベント企画におけるトランザクションデジタルプラクティスとの連携も検討する。
⑦ ジュニア会員の掲載料無料化を実施し広報を行う。

2）編集体制と論文査読管理システム運用の見直し
① 2017 年度に整備された編集体制にもとづき，論文誌担当理事とは独立した編集長（任期は 1 期 2 年で再任まで）のもとで，引き続き編集委員会を運営する。グループ主査および副査の任期についても柔軟に対応し，編集委員会の継続性向上やノウハウの伝承がより的確に行われるように配慮する。

② 査読システムに関する中長期的な検討を行う。Scholar One Manuscripts の利便性向上のためシステム開発元と調整し改修を行う。またマニュアル等の整備により，安定的運用を図る。

3) 電子化を有効活用した改善

論文誌関連の統計情報（例：ダウンロード数）の有効利用を検討する。

4) その他

オープンアクセスやプレプリント時代に向けた中長期的な論文誌のあり方について随時検討を行う。また，デジタルコンテンツ事業検討委員会とともに電子図書館のプラットフォームについても引き続き検討を進める。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」

JIP の海外投稿促進と国際化に向けて，Web of Science 収録基準を満たし，インパクトファクター(IF) の取得に向けた施策を実施する。

① 年間論文掲載数は 110 編（うち連携分 30 編）以上を目指す。
② 研究会推薦論文の英語化を促し JIP に掲載するというパスを確立させ，良質の論文を呼び込む。
③ 編集委員に海外の研究者を迎え入れて国際化された編集委員会を本格化させる。
④ 国際会議の優秀論文，著名な研究者の招待論文，国内の大規模プロジェクト等の成果論文を積極的に採録する。また，国際会議・海外の学会との連携等，JIP 独自の特集号を企画する。
⑤ arXiv などパブリックなプレプリント･サーバーを活用して JIP 論文のビジビリティ向上を図る。
⑥ クラリベイト・アナリティクス社の Emerging Sources Citation Index (ESCI)への登録による citation の向上計測を行う。
⑦ 二重投稿対策を継続して検討し，投稿論文の質の向上を図る。
⑧ オープンアクセス化のための活動を継続し，JST の支援で DOAJ (Directory of Open Access Journals) に申請する。申請後，JST インパクトファクター取得支援プログラムに応募する。

(3) トランザクション (10 誌)

発行の安定性と永続性，ジャーナルとの協調，JIP との連携，購読数の拡大を目標に，トランザクション 10 誌合計で掲載論文数 135 編（うち JIP preprint30 編）以上を目指す。特に研究会との連携による投稿数増大を目指すとともに，分野の特性に応じた論文の種類について検討する。ジャーナルと同様に英文論文の投稿促進，および英文トランザクションのインパクトファクター取得の検討を進める。また，トランザクションにおける論文査読管理の電子化の推進を行う。

(4) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため，論文賞等を贈呈する。
編集委員の貢献に報いるため，論文誌編集委員会の貢献賞を贈呈する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ

発行済 68 冊の教科書の改訂を着実に進めるとともに，新規企画の検討を行う。特に「人工知能」，「自然言語処理」については，生成 AI を含めた新しい技術を取り込んだ教科書の改訂を進める。「ソフトウェア工学」，「組込みシステム」についても，近年の動向を踏まえた内容への改訂を進める。改訂と新規企画にあたっては，書籍の電子化を進めるとともに，産業界向けに話題性の高い技術の企画出版を検討する。

8.3 歴史資料の保存・公開

① 現存している歴史的に価値のある機器の保存活動を継続して行う。
② 第 89 回全国大会で特別セッション「私の詩と真実」を企画する。
③ 2000 年代のコンピュータの歴史を掲載した冊子本を作るための WG 設立を検討する。

8.4 デジタルコンテンツ事業の推進

① サイトライセンスの契約数は2025年度91件となった。引き続きサイトライセンスサービスの周知拡大に努める。

② 2025年度に引き続きJMOOC特別講座について，本会連携講座シリーズの講座を拡大する。

９．実施事業６：標準化活動（定款第４条１項３号）

ISO/IEC JTC 1 対応を主に，情報技術に関する国際規格の審議およびこれに関する調査研究，国内規格の審議などによる標準化活動を行う。より戦略的かつ健全な運営を行うために，標準化活動の重み付けのさらなる検討と，規格賛助員および委員会メンバのためのサービス向上に努める。

9.1 情報規格調査活動

(1) ISO／IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO／IEC JTC 1 および直属の 21 の SC（全 24 SC 委員会中），AG（Advisory Group），WG（Working Group），AHG（Ad Hoc Group）への国際審議等の対応を行う。さらに国際提案準備と，JIS 原案作成を適宜行う。

① 日本としての重点領域についてSCの議長・幹事国を引き受け，JTC 1の活動に貢献するとともに，日本の産業界への貢献を図る。具体的には，これまでの文字コード(SC 2)，デジタル記憶媒体(SC 23)，メディア符号化（SC 29），文書記述言語（SC 34）に加えて、新たにコンピュータグラフィックス（SC 24）の議長を務める。

② SC 43（Brain-computer Interface）を始めJTC 1に直属のWG など，十分な国内審議体制がとれていない分野について，その審議体制の充実を図る。またJTC 1の運営，方向性を議論するJTC 1直属のAG，AHGについても，優先度を見極めながらJTC 1サブグループ対応小委員会，あるいはディレクティブズ小委員会（ISO/IEC専門業務用指針に係る事項を検討する小委員会）で対応していく。
特に，2026年度にはISO/IEC専門業務用指針第1部の大幅な変更を伴った改訂版の発行が予定されており，情報規格調査会での各委員会の活動がスムーズに移行できるようフォローする。

③ 議長，幹事国，コンビーナ，プロジェクトエディタ等を引き受けているものも含め，活動の優先度を見極め人的資源の集中化・重点化を図る。

④ JTC 1が取り組むテーマが ISO， IEC，および ITU-T と重複する傾向があることから，日本として整合の取れた対応をすべく，ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)，電子情報技術産業協会(JEITA)，情報通信技術委員会（TTC）などの協力を得ながら関連の国内対応委員会との情報交換しながら積極的な対応を推進する。特に，新しく設置された SC 43や SC 44の国内審議体制の構築・充実には，消費者団体等これまで情報調査会に参加されていない団体等の参加が必要となっていることから，関係各所に相談しながら，審議体制の構築を図る。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

① オンライン会議の活用による委員会活動の効率化や利便性の向上を図り，所在地にかかわりなく専門家が委員会等へ積極的に参加できる環境を充実させるとともに，対面会議のメリットを活かして，委員会活動への参加者の拡大を図る。また，事務局業務の DX 化をさらに推進し，より効率的・効果的な情報規格調査会の運営をめざす。

② 情報システムについては，本会本部のシステムの検討と歩調を合わせながら，情報規格調査会としてのシステムのあり方を検討し，その実現を進める。

③ 本部と情報規格調査会との連絡会を継続して開催し，予算計画など本部との情報共有を図りつつ健全な運営を図る。

(3) 標準化活動の支援と広報

① 2025年度に引き続き標準化セミナーを開催し，国際標準化におけるホットトピックスや各委員会における活動内容を紹介することで，国際標準化に対する意識を高め，国際標準化活動への参加拡大を図る。

② 情報規格調査会の存在と活動に関する認知度を高めるため，広報広聴戦略委員会との連携による学会と一体となった広報活動を展開するとともに，SNS の活用など情報規格調査会としての広報活動のあり方を検討する。

③ DX 時代に即した IT ツールやシステムの利用について検討し，情報規格調査会の委員会活動の支援を推進する。

１０．実施事業７：国際活動（定款第４条１項５号および２号）

研究会活動を中心に，国際会議を積極的に主催，共催し活動の活性化を図るとともに，海外学協会との連携を推進する。

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加

① IFIP 日本代表，各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加

② 各 TC 日本代表の TC-meeting への参加と IFIP 活動周知の活性化

③ IFIP IP3の活動に参加し，CITP 資格の国際的相互認証の仕組みを継続

(2) IEEE ならびに IEEE-Computer Society との連携・協力

① The 50th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2026) への技術協力（日程：2026年7月7日～10日，場所：Madrid, Spain）

② 全国大会での IEEE-CS 会長招待講演実施と連携の為のミーティングを継続

③ IEEE-CS との姉妹学会 MOU を継続するとともに，会員向けの連携サービスを検討

④ IEEE-CS と本会との Joint Award として，3名以内に「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」を授与

(3) ACM との連携・協力

① 全国大会での ACM 会長招待講演実施と連携の為のミーティングを継続

② ACM との姉妹学会 MOU を継続するとともに，会員向けの連携サービスを検討

③ ACM と本会との Joint Award として，1名に「IPSJ/ACM Award for Early Career Contribution to Global Research」を授与

(4) 海外学協会との連携・協力

① China Computer Federation (CCF) と双方の全国大会への交互招聘を継続し連携・協力を推進する。

② Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力および双方の全国大会での会長の交互招聘・招待講演を実施する。

③ CJK-meeting（中国・日本・韓国）を継続する。

④ 中国 CCF より提案された APAC (Asia-Pacific Alliance for Computing) が2025年度に創設され、本会も参画、長期戦略理事 2名が Executive Committee の委員として、今後の活動を実施していく。

⑤ 日本に留学生を多く輩出しているアジア地域などの国々の情報系学会との共同シンポジウムなどによる連携の機会を検討し，新たな取り組みを企画する。

⑥ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加。

(5) 国際会議

COMPSAC2026の他，下記1件の国際会議を開催する。

・32nd Asia and South Pacific Design Automation Conference（ASP-DAC2027）
2027年1月25日～28日，一橋講堂（日本）

１１．その他：関連学協会等との連携および協力（定款４条１項６号）

関連学協会との連携および協力を行う。日本 IT 団体連盟（IT 連），情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）等とこれまでの協力関係をさらに強化する。

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会に参加し，関連学協会との協力連携を図る。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前 6 項参照）」ほか，研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として参加協力する。

11.2 会議の協賛後援等

関連学協会からの要請に応じて適宜，連携イベントや会議の協賛後援等を行う。

１２．法人運営

(1) ハイブリッド環境に向けた取り組み

コロナ禍を経たハイブリッド時代，そして持続可能な地球環境と経済活動の両立が必須となる世界において「本会 60 周年宣言～More local and more diverse for global values～」を念頭に，引き続き学会のイベント，委員会等各種活動のオンライン開催，現地開催，あるいはハイブリッド開催といった適切な活動形態を推進していく。また事務局業務に関しても 2020 年からの BCP/DX 化推進を継続し業務の効率化を進めていく。

(2) 次期中期計画の推進

2021 年度に策定した「中期計画」の総括に基づき，新たな中期計画の策定を進める。立案にあたっては現計画の 3 つの柱（訴求・サービス・基盤整備）に，2025 年度の総括で洗い出した新論点（ビジネスモデル改善等）を組み込み，より実効性の高い計画を目指す。「学会主要活動指標」は継続利用し，理事会レベルで共有し活動の活性化に繋げていく。

12.1 財務基盤の強化

① 財務基盤安定のための検討と学会のビジネスモデルの検討を長期戦略の検討と合わせて継続する。
② 事業別サマリを使って健全な学会運営・財務管理体制構築を推進する。

12.2 アドバイザリーボードによる運営改善

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て，引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。また，IT ユーザー業界からのメンバ増強に加え，様々な観点からアドバイスを頂けるよう，ボードメンバのダイバーシティにも配慮したメンバ構成とする。さらに，ボードメンバからのアドバイスを具体的な学会のアクションプランにつなげるための体制を強化する。

12.3 広報広聴活動の推進

2025年度から4つのワーキンググループ（ウェビナー/学生交流向け/産業界向け/情報発信）に再編成した活動を継続する。ガイドラインは，広報広聴戦略委員会にて必要に応じた改訂等の対応を進めていく。また，2024年度に検討した「会員サービスの差別化」に着目した「入会に結びつけるための広報戦略」の検討を継続する。

① 4 つのワーキンググループ活動推進
　ウェビナー/学生交流向け/産業界向け/情報発信
② 各ワーキンググループの活動評価（継続，廃止，統廃合）
③ 必要な新規ワーキンググループの立ち上げ検討

12.4 情報システムの拡充

情報システム・DX委員会が主体となり，学会情報システムの見直しに加え，事務局業務のBCP/DX化を推進し，ニューノーマル時代に対応したデジタル化を推進する。

① 情報学広場は，2025年度に開発したクレジットカード決済の3Dセキュア対応を実稼働させ，電子図書館システムの安定運用に努める。
② 学会 Web サイトやメールサーバなどの本部情報システムについて，学会の DX 活動，広報広聴マーケティング活動と連動した Web ページ構成等の改善項目を抽出・精査し，今後のコンテンツ充実やシステム改善に向けた検討を継続する。また，Google Workspace（GWS）の各研究会での利活用を進める。
③ Web施策関連のメール配信に関しては開封率，URLクリック率の調査および効果検証を行っていく。同時にセグメント切り分け方法やコンテンツの継続的な見直しの実施を検討する。
④ システムプラットフォームの強化・ライセンス更改などを継続的に実施する。
⑤ 学会会員システム（SMMS）維持のための保守開発を継続する。
⑥ 事業継続性の強化策（BCP 対策・事務局情報システム強化）サーバ類の冗長化ならびにオンプレミス・サーバのクラウド化を推進する。
⑦ Web/メールサーバの再構築・クラウド化・冗長化を検討する。

12.5 著作権関連

著作権の利用許諾に関する対応を行う。会誌・論文誌などの著作物における AI 利用の FAQ 案を検討・審議する。

12.6 ダイバーシティへの取り組み

2021 年に公開されたダイバーシティ宣言を踏まえ，会員・非会員の多様性を向上し，公平な社会を促進するための活動を行う。また，ダイバーシティ委員会を中心に，引き続き働き方改革やダイバーシティへの取り組みに関する情報発信・情報共有に力を入れる。特に，情報発信ワーキンググループ（広報広聴戦略委員会所掌）と連携した，「情処ラジオ」として，聞き流しが可能な音声による発信を引き続き推進する。外部からの相談や協力依頼があった場合には必要に応じて窓口としての役割を果たす。

12.7 その他表彰等

功績賞，学会活動貢献賞，感謝状の贈呈のほか，フェロー認定，シニア会員認定，情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行う。

以上

【付表１：研究会・研究グループ】

［コンピュータサイエンス領域：研究会（11）（括弧内は英略称）］

データベースとデータサイエンス（DBS），ソフトウェア工学（SE），システム・アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システムとLSIの設計技術（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB），量子ソフトウェア（QS）　各研究会

［情報環境領域：研究会（15）（括弧内は英略称）］

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），情報システムと社会環境（IS），情報基礎とアクセス技術（IFAT），コラボレーションとネットワークサービス（CN），ドキュメントコミュニケーション（DC），モバイルコンピューティングと新社会システム（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS），ユビキタスコンピューティングシステム（UBI），インターネットと運用技術（IOT），セキュリティ心理学とトラスト（SPT），コンシューマ・デバイス＆システム（CDS），デジタルコンテンツクリエーション（DCC），高齢社会デザイン（ASD）　各研究会

［メディア知能情報領域：研究会（15），研究グループ（3）（括弧内は英略称）］

自然言語処理（NL），知能システム（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学（CG），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO），教育学習支援情報システム（CLE），アクセシビリティ（AAC），スポーツ情報学（SI）　各研究会

ネットワーク生態学（NE），会員の力を社会につなげる（SSR），情報処理に関する法的問題（LIP）　各研究グループ

［調査研究運営委員会：研究グループ（1）（括弧内は英略称）］

ビッグデータビジネス（PBD）研究グループ

【付表 2：シンポジウム・ワークショップ等】

シンポジウム等名（主催研究会）	開　催　日	場　　所
◆コンシューマ・デバイス＆システムシンポジウム（CDS）	2026. 5.28(木)～29(金)	AMBIENT 八ヶ岳コテージ
◆マルチメディア，分散，協調とモバイル(DICOMO 2026)シンポジウム	2026. 6.24(水)～26(金)	メルキュール福岡宗像リゾート＆スパ
◆Sports Informatics and Technology 2026（SIT2026）（SI）	2026. 7. 9(木)～10(金)	東京ビッグサイト
◆cross-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programminG (xSIG2026)	2026. 8. 5(水)	飛騨・世界生活文化センター
◆情報教育シンポジウム（SSS2026）（CE）	2026. 8.19(水)～21(金)	広島大学／オンライン
◆DA シンポジウム 2026（SLDM）	2026. 8.26(水)～28(金)	ゆのくに天祥
◆エンタテインメントコンピューティング 2026（EC）	2026. 9. 1(火)～ 3(木)	京都産業大学
◆ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム（SES2026）（SE）	2026. 9.10(木)～12(土)	慶應義塾大学
◆コンピュータセキュリティシンポジウム 2026（CSS2026）（CSEC,SPT）	2026.10.19(月)～23(金)	浜松アクトシティ（予定）
◆マルチメディア通信と分散処理ワークショップ（DPS）	2026.10. or 11.	（未定）
◆Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform（APRIS2026）（EMB）	2026.11.	（東京）
◆コラボレーションとネットワークサービスワークショップ 2026（CN）	2026.11. 26(木)～27(金)	下呂温泉 水明館
◆ゲームプログラミングワークショップ（GPW2026）（GI）	2026.11.	箱根セミナーハウス／オンライン
◆インターネットと運用技術シンポジウム（IOTS2026）（IOT）	2026.12.17(木)～18(金)	くにびきメッセ
◆第 38 回コンピュータシステム・シンポジウム（ComSys2026）（OS）	2026.12.	（未定）
◆災害コミュニケーションシンポジウム（IS, IOT, SPT）	2026.12.	（未定）
◆人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん 2026）（CH）	2026.12.	京都大学
◆ウィンターワークショップ 2027（SE）	2027. 1.	（未定）
◆高度交通システム（ITS）研究フォーラム 2027（ITS）	2027. 3.	早稲田大学
◆インタラクション 2027（HCI, CN, UBI, DCC, EC）	2027. 3.	学術総合センター／一橋講堂

［第１号報告］

1-2. 2026年度収支予算書

2026年度収支予算書（損益計算ベース）

2026年4月1日から2027年3月31日まで　　（単位：円）

※公益法人会計基準（2008年4月11日　内閣府公益認定等委員会）に準拠。

科目	2026年度予算	2025年度予算	増減	備考（増減5,000千円以上のコメントほか）
※一般正味財産のみ				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	528,000	43,000	485,000	
特定資産受取利息	528,000	43,000	485,000	
受取入会金	792,000	700,000	92,000	
受取入会金	792,000	700,000	92,000	
受取会費	171,300,000	177,100,000	△ 5,800,000	
正会員受取会費	124,700,000	128,200,000	△ 3,500,000	
学生会員受取会費	17,500,000	17,500,000	0	
賛助会員受取会費	29,100,000	31,400,000	△ 2,300,000	
事業収益	428,326,000	453,241,000	△ 24,915,000	
頒布収益	39,704,000	40,931,000	△ 1,227,000	
掲載料収益	64,552,000	58,197,000	6,355,000	*ジャーナル・トランザクション増
広告収益	34,060,000	40,158,000	△ 6,098,000	*調査研究減 MIRU開催なし
参加費収益	160,998,000	182,209,000	△ 21,211,000	*調査研究減 MIRU開催なし
審査料，登録料収益	3,286,000	4,818,000	△ 1,532,000	
研究会登録費収益	26,300,000	27,500,000	△ 1,200,000	
規格賛助員費収益	88,400,000	87,000,000	1,400,000	
国際会議収益	850,000	1,280,000	△ 430,000	
分担金収益	2,947,000	2,361,000	586,000	
抄録料,著作権使用料等収益	3,021,000	3,021,000	0	
受取民間委託費	4,208,000	5,766,000	△ 1,558,000	
受取補助金等	12,168,000	12,840,000	△ 672,000	
受取民間補助金	7,010,000	5,610,000	1,400,000	
受取民間助成金	5,158,000	7,230,000	△ 2,072,000	
受取国庫助成金	0	0	0	
受取寄付金	2,500,000	2,500,000	0	
受取寄付金	2,500,000	2,500,000	0	
雑収益	210,000	185,000	25,000	
受取利息	50,000	25,000	25,000	
雑収益	160,000	160,000	0	
経常収益計	615,824,000	646,609,000	△ 30,785,000	
(2) 経常費用				
事業費	468,991,000	470,493,000	△ 1,502,000	
給料手当	116,505,000	114,778,000	1,727,000	
賞与引当金繰入額	14,483,000	14,202,000	281,000	
臨時雇賃金	10,842,000	10,642,000	200,000	
退職給付費用	1,000,000	1,000,000	0	
福利厚生費	25,981,000	26,114,000	△ 133,000	
会議費	69,185,000	59,299,000	9,886,000	*調査研究ｼﾝﾎﾟ増、標準化国際会議増(積立計画的支出)
旅費交通費	46,551,000	38,128,000	8,423,000	*調査研究ｼﾝﾎﾟ増、標準化国際派遣増(積立計画的支出)
通信運搬費	16,605,000	16,271,000	334,000	
減価償却費	850,000	950,000	△ 100,000	
消耗品費	6,235,000	6,158,000	77,000	
印刷製本費	67,057,000	64,673,000	2,384,000	
光熱水料費	100,000	100,000	0	
賃借料	8,190,000	8,300,000	△ 110,000	
保険料	582,000	442,000	140,000	
諸謝金	17,709,000	18,201,000	△ 492,000	
租税公課	54,000	83,000	△ 29,000	
支払負担金	1,110,000	556,000	554,000	
広告宣伝費	0	0	0	
委託費	61,469,000	86,046,000	△ 24,577,000	**調査研究減 MIRU開催なし
支払手数料	3,940,000	3,399,000	541,000	
支払分担金	500,000	1,064,000	△ 564,000	
研修費	0	0	0	
雑費	43,000	87,000	△ 44,000	

科目	2026年度予算	2025年度予算	増減	備考（増減5,000千円以上のコメントほか）
管理費	211,626,000	228,890,000	△ 17,264,000	
給料手当	41,195,000	39,322,000	1,873,000	
賞与引当金繰入額	5,017,000	4,698,000	319,000	
臨時雇賃金	1,125,000	1,275,000	△ 150,000	
退職給付費用	2,350,000	2,450,000	△ 100,000	
福利厚生費	12,147,000	12,182,000	△ 35,000	
会議費	4,649,000	4,749,000	△ 100,000	
旅費交通費	2,669,000	2,799,000	△ 130,000	
通信運搬費	1,140,000	1,354,500	△ 214,500	
減価償却費	11,245,000	12,414,000	△ 1,169,000	
消耗品費	2,558,000	2,532,000	26,000	
印刷製本費	436,000	579,500	△ 143,500	
光熱水料費	3,100,000	4,000,000	△ 900,000	
賃借料	18,300,000	29,300,000	△ 11,000,000	*学会事務局本部移転オフィス賃料減
保険料	50,000	80,000	△ 30,000	
諸謝金	9,399,000	10,064,000	△ 665,000	
租税公課	14,770,000	14,770,000	0	
支払負担金	5,100,000	5,000,000	100,000	
支払助成金	400,000	220,000	180,000	
広告宣伝費	735,000	935,000	△ 200,000	
委託費	64,915,000	66,517,000	△ 1,602,000	
支払手数料	4,929,000	4,861,000	68,000	
支払分担金	4,947,000	8,388,000	△ 3,441,000	
雑費	450,000	400,000	50,000	
経常費用計	680,617,000	699,383,000	△ 18,766,000	
当期経常増減額	△ 64,793,000	△ 52,774,000	△ 12,019,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
（該当なし）	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用			0	
移転費	0	18,100,000	△ 18,100,000	*前年度学会事務局本部移転完了
固定資産除却損	0	1,900,000	△ 1,900,000	
経常外費用計	0	20,000,000	△ 20,000,000	
当期経常外増減額	0	△ 20,000,000	20,000,000	
当期正味財産増減額	△ 64,793,000	△ 72,774,000	7,981,000	
正味財産期首残高	1,240,230,596	1,268,088,212	△ 27,857,616	
正味財産期末残高	1,175,437,596	1,195,314,212	△ 19,876,616	

注）収支予算書は、「公益法人会計基準」により、損益ベースで作成しています。

付．参考：事業別サマリー（2026年度予算）

グループ	項　　目		収益			経費			差額					
			2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算
グループ１	会誌・学術刊行物		113,558	115,060	117,854	126,016	121,737	129,880	-12,458	-6,677	-12,026	-12,458	-6,677	-12,026
副会長	会誌理事	会誌	17,166	13,329	16,530	38,886	31,964	35,902	-21,720	-18,635	-19,372	-35,834	-32,373	-34,677
		会誌発送経費				14,114	13,738	15,305	-14,114	-13,738	-15,305			
	論文理事	ジャーナル	54,902	56,709	57,028	35,981	37,204	37,017	18,921	19,505	20,011	23,376	25,696	22,651
		トランザクション	12,883	17,472	16,540	8,649	10,577	9,891	4,234	6,895	6,649			
		出版-電子出版等	28,607	27,550	27,756	25,578	25,722	29,192	3,029	1,828	-1,436			
		出版-歴史	0	0	0	2,808	2,532	2,573	-2,808	-2,532	-2,573			

			2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算
グループ２	調査研究・人材育成・学術講習会・国際		246,984	288,177	218,115	248,047	275,378	231,104	-1,063	12,799	-12,989	-1,063	12,799	-12,989
副会長	調研理事	研究会(山下賞・音楽含)	36,461	39,231	38,002	42,662	45,447	44,110	-6,201	-6,216	-6,108	2,718	4,638	-1,623
		調査委員会	0	0	0	2,388	2,397	2,693	-2,388	-2,397	-2,693			
		シンポジウム等　※奇数年MIRU幹事	130,129	160,610	103,388	117,404	147,996	94,870	12,725	12,614	8,518			
		国際活動	590	1,238	450	2,008	601	1,790	-1,418	637	-1,340			
	教育理事	教育活動	824	693	1,584	2,906	2,474	7,710	-2,082	-1,781	-6,126	-2,985	-2,861	-8,893
		教育活動-受託分	3,243	3,391	1,774	3,039	3,151	2,755	204	240	-981			
		資格認定	4,818	4,882	3,286	5,925	6,202	5,072	-1,107	-1,320	-1,786			
	事業理事	全国大会	33,891	35,934	32,391	30,843	27,284	31,382	3,048	8,650	1,009	3,758	13,736	1,307
		ＦＩＴ	26,160	28,824	25,779	25,546	23,816	25,577	614	5,008	202			
		プロシン	2,538	4,019	2,538	2,442	3,941	2,442	96	78	96			
	技応理事	セミナー	8,220	8,860	8,813	10,812	9,983	10,055	-2,592	-1,123	-1,242	-4,554	-3,044	-3,780
		技術応用（ITﾌｫｰﾗﾑ）	110	165	110	2,072	2,086	2,648	-1,962	-1,921	-2,538			
		積立資産利息(調研) 他は2021年度長期積立へ集約	0	330	0	0	0	0	0	330	0	0	330	0

			2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算
グループ３	標準化		96,281	101,109	99,431	96,430	89,426	108,007	-149	11,683	-8,576	-149	11,683	-8,576
副会長	標準理事	標準化	96,281	101,109	99,431	96,430	89,426	108,007	-149	11,683	-8,576	-149	11,683	-8,576

			2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算	2025予算	2025決算	2026予算
グループ４	法人		189,786	190,826	180,424	248,890	236,489	211,626	-59,104	-45,663	-31,202	-59,104	-45,663	-31,202
副会長	総務理事	会員（直人件含）	178,405	179,469	173,147	13,859	12,208	18,222	164,546	167,261	154,925	-59,104	-45,663	-31,202
	財務理事	支部(②事業費+管理費)（直人件含）	8,701	7,332	4,112	25,781	21,286	21,801	-17,080	-13,954	-17,689			
	長期理事	共通　一般運用益／共通経費	15	776	500	34,570	32,321	14,570	-34,555	-31,545	-14,070			
	企画理事	管理(①表彰③賃借等④⑤管理割掛⑥協賛後援)	2,665	3,249	2,665	174,680	170,674	157,033	-172,015	-167,425	-154,368			

	合計		646,609	695,172	615,824	719,383	723,030	680,617	-72,774	-27,858	-64,793	-72,774	-27,858	-64,793

	本部合計		550,328	594,063	516,393	622,953	633,604	572,610	-72,625	-39,541	-56,217	-72,625	-39,541	-56,217

［第２号報告］

２．会費滞納会員の取り扱い

会費滞納会員の取扱い

定款第 10 条 1 項 1 号にもとづき，2024 年度からの会費を滞納した会員 524 名については，その会員資格を喪失したものとして扱う。